

396
45

大正
十四年版

筑豊石炭鑛業要覽



始



396
45

大正十四年版 筑豊石炭鑛業要覽目次

第一章 沿革

第一款	石炭發見の時代	一
第二款	幕制中の採炭業	四
第三款	明治維新後の第一期	六
第四款	明治維新後の第二期	一一
第二章	煤田	二〇
第三章	鑛區及炭坑並に産額	二二
第四章	運炭	五六
第一款	概説	五六
第二款	水運	五九
第三款	陸運	六一
第四款	總送出高内譯類別	一〇八
第五款	炭坑別總送出高	一一七

第五章 貯炭、船積船舶運賃及販賣店

第一款	貯炭	一三四
第二款	貯炭場の面積及使用料	一三七
第三款	船積設備及手数料	一三九
第四款	船舶運賃	一四五
第五款	販賣店	一四八
第六章	内外仕向高	五四
第一款	内地輸送高	五四
第二款	海外輸出高	六七
第三款	内外仕向高總額	七五
第七章	全國石炭輸出入高	一七九
第八章	筑豊石炭鑛業組合	一八四
第一款	組合事業の成績	一八四
第二款	組合炭山に於ける社會的施設	一九三
第三款	組合規約及役員	二〇一



大正十四年
交内

第一章 沿革	第二章 石炭發見の時代	第三章 石炭産出の概況	第四章 石炭の用途	第五章 石炭の運搬	第六章 石炭の取引	第七章 石炭の貯蔵	第八章 石炭の消費	第九章 石炭の将来	第十章 石炭の附帯産業
第一節 沿革	第一節 石炭發見の時代	第一節 石炭産出の概況	第一節 石炭の用途	第一節 石炭の運搬	第一節 石炭の取引	第一節 石炭の貯蔵	第一節 石炭の消費	第一節 石炭の将来	第一節 石炭の附帯産業
第二節 沿革	第二節 石炭發見の時代	第二節 石炭産出の概況	第二節 石炭の用途	第二節 石炭の運搬	第二節 石炭の取引	第二節 石炭の貯蔵	第二節 石炭の消費	第二節 石炭の将来	第二節 石炭の附帯産業
第三節 沿革	第三節 石炭發見の時代	第三節 石炭産出の概況	第三節 石炭の用途	第三節 石炭の運搬	第三節 石炭の取引	第三節 石炭の貯蔵	第三節 石炭の消費	第三節 石炭の将来	第三節 石炭の附帯産業
第四節 沿革	第四節 石炭發見の時代	第四節 石炭産出の概況	第四節 石炭の用途	第四節 石炭の運搬	第四節 石炭の取引	第四節 石炭の貯蔵	第四節 石炭の消費	第四節 石炭の将来	第四節 石炭の附帯産業
第五節 沿革	第五節 石炭發見の時代	第五節 石炭産出の概況	第五節 石炭の用途	第五節 石炭の運搬	第五節 石炭の取引	第五節 石炭の貯蔵	第五節 石炭の消費	第五節 石炭の将来	第五節 石炭の附帯産業
第六節 沿革	第六節 石炭發見の時代	第六節 石炭産出の概況	第六節 石炭の用途	第六節 石炭の運搬	第六節 石炭の取引	第六節 石炭の貯蔵	第六節 石炭の消費	第六節 石炭の将来	第六節 石炭の附帯産業
第七節 沿革	第七節 石炭發見の時代	第七節 石炭産出の概況	第七節 石炭の用途	第七節 石炭の運搬	第七節 石炭の取引	第七節 石炭の貯蔵	第七節 石炭の消費	第七節 石炭の将来	第七節 石炭の附帯産業
第八節 沿革	第八節 石炭發見の時代	第八節 石炭産出の概況	第八節 石炭の用途	第八節 石炭の運搬	第八節 石炭の取引	第八節 石炭の貯蔵	第八節 石炭の消費	第八節 石炭の将来	第八節 石炭の附帯産業
第九節 沿革	第九節 石炭發見の時代	第九節 石炭産出の概況	第九節 石炭の用途	第九節 石炭の運搬	第九節 石炭の取引	第九節 石炭の貯蔵	第九節 石炭の消費	第九節 石炭の将来	第九節 石炭の附帯産業
第十節 沿革	第十節 石炭發見の時代	第十節 石炭産出の概況	第十節 石炭の用途	第十節 石炭の運搬	第十節 石炭の取引	第十節 石炭の貯蔵	第十節 石炭の消費	第十節 石炭の将来	第十節 石炭の附帯産業



大正十四年版 筑豊石炭鑛業要覽

第一章 沿革

第一款 石炭發見の時代

筑豊石炭發見の時代は特に文書の徴すべきものなしと雖、其の採掘が既に二百年以前に於て稍見る可きものありしことは、左の文書及事蹟、口碑等により疑ふ可からざるもの、如し。

筑前續風土紀中の一節

に曰く「遠賀、鞍手、嘉麻、穂波の中、諸所の山野に燃石なるものあり、村民之を掘り採りて薪に代用せり、遠賀、鞍手には特に多し、頃年粕屋の由にても掘れり、煙多く臭惡しと雖、燃わて火久しく、水風呂の釜に焚くに適し、民用に最も便なり。云々」是に由りて之を觀れば、貝原益軒が筑前續風土紀の脱稿せし元禄十五年以前に於て、既に以上各郡と粕屋郡との民用として、之を採掘しつゝありしを知るを得べし。因に記す、元禄十五年は今大正十四年を去ること實に二百二十四年なり。

嘉穂郡山野炭鑛の舊碑

明治三十一年中、筑前嘉穂郡稻築村三井山野炭鑛第一坑開鑿の際、三角形の石塊五六寸許り地表に露出するを發見し、試に土壤を掃ふて其の石塊を検せしに、幅一尺一二寸高さ二尺五六寸の石碑にして、表面の上額に梵字を刻し、中央に「爲供養」の三字を大書し、向つて

第一章 沿革 第一款 石炭發見の時代

右に「享保十八天」、左に「雪月日」と細書し、其の下に「李平、左市、半七、徳平、摠七妻、三介妻」と連名し、左側に「施主古江摠平」と刻しありしかば、同炭礦事務所にては、兎も角も一の記念として地表に掘出し、今尙現に保存しあり。右に付同地父老の語る處によれば、「石碑の施主古江摠平は代々大庄屋の家格ある永富某の祖先にして、右の外同人の名を以て、近郷の神社佛閣に、碑石を建立寄進せしこと多ければ、此の碑も亦變死者供養の爲めに建立せしものなるべし、而して其の位置在來の墓地にあらず又寺院の遺蹟にもあらず、無数の採炭舊坑散在せる林藪中なりしによりて察すれば、此の變死者なるもの此の地に於て採炭中天井磐の墜落により、一時に壓死せしものならんか、云々」と云へり。此の説にして誤りなくんば、其の建立の當年即ち享保十八年なる、今大正十四年を去ること一百九十三年前に於て、既に六名の坑夫が同時に入坑稼業すべき規模を以て、採炭に従事せしにさありしを推知すべし。

之を前記筑前續風土紀の記事に参照すれば、當時斯業の大様髣髴として察すべきものあるを覺ゆべし。

口碑の一 (堀川運河開鑿中の發見) 寶曆年中、筑前國主黒田繼高祖先長政の遺志を繼ぎ、遠賀川より、洞の海に通ずる堀川運河開鑿中、楠橋村宇壽命より同陣原瀉までの間、吉田村の地内にて、人夫等火を焚て茶を沸かせしに、忽ち黒色の石塊に焚き付きしを見て、始めて焚料に適するを知りたるもの、即ち同地方石炭發見の端緒なりと云ふ説あり、思ふに寶曆元年は今を去ること百七十一年前にあり、前記山野炭坑舊碑建立の年より十八年以後のことなれば、數里を隔てたる嘉穂郡の一部にて、既に六人の坑夫が一時に採炭に従事せし頃に於て、遠賀郡の一部に尙石炭の焚料に適するさへ知らざるもの

ありしは、今日に於て聊怪しむべきが如しと雖、交通の不便なりし往時に於ては、尙此の如き迂遠を免れさりしものならんか、記して後日の參考に供するのみ。

口碑の二 (豊前赤池の坊主ヶ谷) 豊前田川郡赤池炭坑附近に、坊主ヶ谷と稱する處あり、約二百年前行脚の一僧山中に露宿し、火を焚て暖を取りしに、黒色の石塊異臭を放ちて焚け上りしかば、始めて燃料に適するを知り、山を下りて之を里人に告げたるもの、即ち同地方石炭發見の嚆矢にして、坊主ヶ谷の名亦因りて起る所以なりといへり。以上の如く、漠然として其の年代を詳にせざる傳説は、尙之を聞くことなきにあらざれども、今一々茲に採録せず。只參考として三池、高島、唐津、宇部等の各方面に於ける石炭發見の傳説を左に掲げ、期せずして何れも偶然の發見なりしを證據立つることとすべし。

參 考 四 方 面 の 傳 説

三池炭 の發見は文明己丑の年、三池郡稻荷村トツカの農夫傳治左衛門なるもの、稻荷山に禱して焚火の黒石に點するを見たるに始まるといふ。今を去ること實に四百二十年前にして傳説中最古のものなり。

高島炭 は寶永年中(二百年前)肥前平戸の領民五平太なるものによりて發見され、之を附近の鹽田に供したりとの傳説あり、果して事實なりとすれば鹽田使用の嚆矢なるべきが如し。

唐津炭 は享保年間(百七十餘年前)今の芳谷炭坑區内、北波多村大字岸山にて、一農夫に發見さ

第一章 沿革 第一款 石炭發見の時代

れたりと傳ふ。

四

宇部炭 延寶年間(二百四十餘年前)地方民によりて發見せられ當時農民の燃料としたりと。

第二款 幕制中の採炭業

二百年前燃石なる名稱を以て、貝原益軒の手に紹介されたる筑豊炭は、三池、高島、唐津等の石炭と共に、僅に民家の燃料として採掘さるゝこと數十年にして、漸く製鹽用に供せらるゝことなれり。

筑豊炭製鹽用の嚆矢 (和田佐平) 今を去ること約百四十餘年前、即ち明和年間(於て、筑

前遠賀郡若松の庄屋に和田佐平なる人あり、百方石炭の用途を研究せし末、始めて製鹽用に適するを知りて販路を中國四國に開き、採炭事業の擴張を試みしも、當時藩廳の忌諱に觸れ、一朝投獄の厄に遭ふて、其事業の大頓挫を來したり、佐平が投獄の大厄は斯業の發達を妨けたること勿論なれども、其の製鹽用に適するることを紹介したる功勞は、永く没すべからざるものあるべし。

筑前の仕組法 (松本平内) 佐平投獄の後約八九十年にして、筑前の人松本平内(今の松本健

次郎氏の祖父)なる人あり、藩廳に献策して始めて仕組法なるものを定め、明治維新の頃まで實行せり、是れ實に組織たつたる鑛業法令の嚆矢なり。

仕組法は石炭、鶏卵、生蠟の三物産を一括し、共同販賣を目的とするものにして、其の取締所を遠賀郡盧屋に置き、若松港に焚石會所の出張所を設け、年々各郡の採炭額を豫定して、之を當時の鑛業人に請負はしめ、其の分課額の多少により、坑夫の賃錢糧米等を前貸し、採炭の全部を焚石會所に上納せし

め、之を會所指定の石炭問屋に拂ひ下げ、代金の内より前貸金を控除して、殘餘を鑛業人に下附することとなしたれば、採炭、販賣、共に家附の株となり、互に其の權利を賣買し、或は之を抵當として一時の金融を計ることあり、且つ他より石炭買入れに來たる船舶あれば、問屋を経て其の旨を會所に届出で再び問屋を経由して所要の數量を買ひ取らしめ、入港當時の順序により、其の出港を許すを例とし、若し賣れ残りの石炭あれば、之を割り込みと唱へて、強て碇泊中の船舶に配當し、義務買入れを嚴命し、若し其の命に應せざれば、出港順を繰り下けて、最後に出港せしめたりといふ。此の間に多少の弊害は行はれしやに傳ふれども、散漫にして統一せざりし石炭鑛業を一括し、規律的ならしむること共に、藩廳に於ける收入の一財源たらしめしは、斯業に一步を進めたる時勢相應の良法なりしもの、如し。

小倉藩の赤池會所

筑前に仕組法の行はれし頃は、豊前に屬する田川郡にも稍同一の方法行は

れ、赤池川の沿岸に赤池會所なるものあり、一般の採炭事業を總括し(豊前の採炭業は一般民業の外、藩業として坊主ヶ谷、林ヶ谷の二ヶ所に營まれ、前者は町方役所の支配とし、後者は郡方役所の支配に屬したり)、採掘業者は年々若干金を前借して、其採炭を赤池會所に上納し、會所は之を相當代價に拂ひ下げ、貸金以上の賣上代は之を本人に下渡すこと、猶ほ筑前の仕組法の如くなりしといふ。而して其拂下げを受けたる仲買人は、赤池川より遠賀川を下りて之を若松に送出し、福岡藩の焚石會所に販賣を依託し、或は小倉に回漕して、同地の會所に依託販賣せしことあり、納税に就ては小倉藩の御用石と稱し採掘者一戸に付約千斤の石炭を上納する外、別に負擔する處なく、只川漕を以て積み下すとき、筑前豊前の境界にて若干の通行料を收むるのみなりしと云ふ。前記小倉藩の事業として、坊主ヶ谷及林ヶ谷

より採掘せし石炭は主として藩廳の公用に供せられ、内若干を藩士の用料に頒ちしことありしも、安政の頃より漸く汽船燃料の需要あり、赤池會所亦鶏卵の大きさを度し、其の以下の小塊及粉炭は一切買上けざるこゝとなりし爲め、郡内の採炭業者始めて直接に若松に送り、吏員の手を借らずして、同地の川口屋、及小倉の中原屋某等に依托し、之を販賣せしことあり、蓋し鶏卵大以上の塊炭を藩廳に買ひ上げしは、筑、豊共に同一にして、筑前にては常に之を倭装し若松港口中の島に貯蔵し置き、年々時を期して幕府に献納したりと云ふ。彼の川船の船頭等が、今尙塊炭を呼びて、單に御用と稱ふるは、即ち當時の御用炭を意味するなり。

附記 燧石の發見 筑豊の間に採掘する燧石の發見は、明治以前幕制の末年にあり、發見者名を田島屋久兵衛と稱し、後、村上久三郎と改む、筑後久留米の人、曾て肥後天草に遊びて燧石を發見し其の使用法を研究して石灰製造用の燃料に適するを知り、後筑前嘉穂郡上三緒、鞍手郡勝野、田川郡後藤寺附近にて燧石を採掘し、漸次販路を擴張したりといふ。

第三款 明治維新後の第一期

概況 (初年より日本坑法實施期迄)

明治維新後始めて斯業に關する法令の沿革の見る可きものあり、二年二月二十日行政官布告第七十七號を以て「鑛山開拓の儀は其地居住の者共故障無之候は、其の支配の府藩縣へ願の上掘出不苦候、府藩縣に於ても舊習に不泥速に差免し可申事、云々」と達せられしは、政府が鑛山開放の方針を示せし者

にして、斯業に關する第一回の法令なりしも、藩制中は筑豊地方尙舊慣を脱せずして、毫も見る可き進歩の實なく、只高島に於て器械的設備を見たるを、明治六年七月より三池炭山を買収して、政府の手に採掘業を起せしとありしに過ぎず、明治五年三月廿七日附太政官第百號布告を以て、鑛山心得を發表し始めて斯業に關する根本的の方針を明にし、明治六年七月廿日に至りては、更に太政官布告第二百五十九號を以て、日本坑法を發布し、其年九月より實行して、全國の鑛業を統一し、始めて成文法を見るに至りたり、是れ實に明治廿五年六月一日、鑛業條例の實施に至るまで、最も長き期間に於て、我が鑛業界を支配せし法文なり。

此の二十五年間に於ける筑豊の石炭鑛業は大に録すべきものありと雖、多くは後半の十二年間に發達し、其の前半、就中明治七八年頃迄は、之を混沌時代とも稱すべく、特に録するに足るものなし。明治八年片山逸太氏によりて、豊前田川郡糸田村に、始めて蒸氣機應用の端緒を開きしは、必しも氏の成功にあらずと雖、斯業の發達に貢献せしこと少なからず、後貝島太助、帆足義方の二氏何れも片山氏の志を襲て失敗し、十四年杉山徳三郎氏に依りて、嘉穂郡目尾炭坑に据付けられしもの、始めて完全に成功し、爾後各所の炭山に應用するに至り、漸次有力なる事業家の奮起を促し、明治十八年今の筑豊石炭鑛業組合(當初の筑豊坑業組合)組織以後、時勢の進運に伴ふて、海軍豫備炭田の指定あり、日本郵船會社、三菱會社を始め、東京大阪等の豪商、亦會社組織を以て指を筑豊の採炭業に染め、一方に於ては、久しく發企計畫中なりし九州鐵道の愈々廿一年を以て成立せるあり、若松築港會社及び門司築港會社等亦同年を以て起り、廿二年には門司の特別輸出港に編入せらるるあり、筑豊興業鐵道亦同年を以

て發企され、二十三年に至りては別に豊州鐵道の發企あり、何れも筑豊の石炭を中心とし、其の大發展を促すべき機關として、俄に長足の進歩を示し、廿四年に至りては、九州鐵道の門司久留米間、及筑豊興業鐵道の若松直方間開通し、從來堀川運河の線に據りし筑豊石炭の輸送をして、愈一大革新の機運に達せしめたり。明治八年の産額約九萬噸（一億五千萬斤）に過ぎざりしもの、明治廿四年に於て九十萬噸、大正二年に於て一千萬噸に達せしは、亦以て其の大勢の進歩を窺ふべし。尙本期間の重要事項を年別に表示、讀者の參看に供すれば左の如し。

重要事項年表 (自明治元年至明治二十五年)

參考 ◎明治元年鍋島家の家臣松林源藏、英人「クラバー」と、高島炭坑を共同業稼す ◎明治二年二月二十日行政官布告第七十七號を以て鐵山開放を公布す ◎明治三年十月民政部にて石炭に關する調査を試む ◎明治四年四月五日鐵山出願者身元調べに關する達あり ◎明治五年三月鐵山心得書を發布す ◎明治六年七月太政官布告第二百五十九號を以て日本坑法を發布し、同年九月一日より實施す ◎同年七月より三池炭坑を官業とす ◎同年十二月後藤象次郎高島炭坑を引受く ◎明治十年 礦物稅取纏めの爲め蘆屋若松に福岡縣の出張所を設け、兼れて採炭及び賣炭を監督す、蓋し維新炭山開放の結果、濫掘濫賣の弊に懲り、當業者より懇請せしに由る ◎同八年 片山逸太、田川郡糸田村の炭坑に蒸溜機關を据付け、始めて瀧力應用を試みしも成功せず ◎同九年 貝島太助鞍手郡直方炭坑に蒸溜機械を据付けしも亦好果を見る能はず

▲同十年

西南の戦役に依り勞銀暴騰して斯業沈衰す。

▲同十一年

帆足義方違賀郡香月炭坑に蒸溜機械を据付けしも、亦良果を奏すること能はず ◎山本貴三郎、始めて糸田鐵區を出願し翌年許可せらる。即ち今の豊國炭坑の始めなり。

▲同十三年

各炭山の採掘炭依託販賣を目的とし、若松商會を起せしものありしも、事業大に振ふに至らずして廢業す ◎此の年冬より翌年にかけて、四十七日間の強風により、蘆屋、若松より大阪送炭の帆船航海杜絶し、大阪の石炭相場、一萬斤に付百貳拾圓を唱へしも、航運復舊して此の報の蘆屋若松に達せし頃は、既に暴落して四拾圓となり、蘆屋若松にては參拾七圓を最高値とし、最低拾貳圓に低落せり。◎松本潜、高雄炭坑第一坑を開く、即ち今の製鐵所二瀬出張所の始めなり ◎麻生太吉亦糸田炭坑を開く、今三菱會社に屬するもの是れなり。

▲同十四年

杉山徳三郎、筑前穂波郡（今の嘉穂郡）目尾炭坑に蒸溜機械を据付け、始めて好果を得たり今古河鐵業株式會社に屬するもの是れなり、筑豊の炭山争ふて之に倣ふもの多し ◎直方町外十ヶ村の各鐵區を一括して藤田傳三郎に許可せらる、地方の人々其の解放を懇請し、翌年始めて目的を達す。

參考 此の年三菱會社高島炭坑を引受く。

▲同十五年

許斐應助、本洞炭坑を開く、◎伊藤綱索、第二新手段炭坑を開く。

▲同十六年

斯波義兼新入炭坑第一坑を開く、後近藤廉平の名義となり、今現に三菱會社に屬するもの是れなり。

▲同十七年

貝島太助鞍手郡宮田村に大の浦炭坑を開く ◎山本貴三郎豊國炭坑第一坑を開く、

廿三年海軍豫備炭田の開放により更に其の事業を擴張す。

▲同十八年 田川郡に海軍豫備炭田を指定す。◎筑豊坑業組合を組織し、福岡縣屬石野寛平官を辭して其の總長に就任す。◎白土某穂波郡頼田村に明治炭坑第一坑を開く、明治二十年松本潜、安川敬一郎之を譲受け漸次事業を擴張し、今明治炭業株式會社に屬するものは是れなり。

▲同廿一年 海軍豫備炭田を鞍手郡御徳方面及嘉穂郡熊田村に選定す。◎若松築港會社を創立し筑豊坑業組合總長石野寛平を社長とし、稻垣徹之進組合總長を襲く。◎九州鐵道株式會社成立す。◎門司築港會社亦起る。

▲同廿二年 門司港を特別輸出港に編入す。◎筑豊興業鐵道株式會社を創立す。◎田川嘉穂の海軍豫備炭田一部解放さる。◎田川採炭株式會社起る。◎郵船會社勝野炭坑を買入れ、三菱會社亦田新入の各炭山を購ふ。◎安川敬一郎、平岡浩太郎の兩人赤池炭坑を開く。◎総田炭坑に始めて長壁式採炭法を行ふ、爾後之に倣ふもの多し。

参考 三池炭坑公賣入札を以て佐々木八郎に拂下げ、翌年三井家の名義となる。

▲同廿三年 選定坑區を公示す。◎豐州鐵道株式會社を創立す。◎総田炭坑第一坑より嘉麻川沿岸に運炭用「エンドレスロープ」を用ふ、爾後之に倣ふもの多し。

▲同廿四年 筑豊興業鐵道若松直方間開通し、是れより順次延長す、(鐵道工事の進行は別款に録するを以て一々年別に掲出せず)、蓋し本鐵道の開通迄、各炭山の運炭は本川及び堀川運河の水運に據りしもの、此に至りて始めて鐵道運搬を見るに至りしなり。◎柏木勘八郎等金田炭坑を開く後名義人の

變更ありて毛利公爵家の有に歸し更に三菱會社に買收せしものは是なり。

第四款 明治維新後の第二期

概況 (自明二十五年至大正九年)

明治十八年筑豊石炭鑛業組合成立の後、時勢の推移に隨て漸次大資本家の注意を惹き、筑豊煤田の開発に一大發展を促すべき機運は到來せり、就中九州鐵道の幹線と筑豊鐵道とが、折尾驛にて接續することとなり、且筑豊鐵道の線路が漸次延長するに従ひ、門司若松に搬出すべき石炭に、運搬上の一大改革を與へしと、門司の特別輸出港に編入せられしと、若松門司の築港會社を創立せしとは其の最も著しきものなりき、而して此等外部の施設に努むる頃は、内、各炭坑の事業に於ても着々改良の方針を取り、比較的大規模を以て經營され、漸く面目を一新せしと、偶二十七八年戰役の起るに會ひしも、斯業の大勢は毫も挫折することなく、殊に二十八年には豐州鐵道の小倉伊田間開通して、田川炭の門司搬出に一步を進め、二十九年より三十年、三十一年の頃にかけては、炭況大に振ひて斯業の隆盛前古に比なく、門司、若松の二港亦此の間に於て著しく發達し、且つ三十年中遠賀郡八幡村に製鐵所を創立して、更に斯業界の活氣を添へ、三十一年には三井鑛山會社亦始めて筑豊炭田に其の業を起すべく、先づ山野炭坑を開き、尋て三十三年田川採炭坑を購入して大に業務を擴張し、其の他大資本の炭山皆争ふて擴張せしも戰後好況の反動は三十四五年の頃より現はれ、三十六年の不況に續きて三十七八年の戰役となり、一時市場の不振に従つて各炭坑皆消極的の方針を採り、何れも事業整理の時機として、採炭費を節約し、

又其の事務を改善して、炭坑經營上一步を進めたるの傾きあり、三十八年より三十九に入りては、所謂戦後の好況に依り、炭價騰貴して其全盛を極め、四十年より四十一年の前半期にかけては、尙其の情力を感せしも、四十一年の後半期より、一般經濟界の不振と、戦後好況の反動とにより、漸く市場の不振を來し各炭坑とも採炭緊縮の結果、前年に比し其の送高を減せり、其後兩三年間は炭況著しき變動を見ざりしも、撫順、開平、山東等支那炭田の採掘増加、支那革命の餘波、其他の事情等は、東洋市場の供給炭、漸次需要に超過するの傾向を示し、需給調節の策を講ずる必要に迫り、爰に送炭調節の實行を見たるも、歐洲の戦亂は大正三年八月我が帝國亦同盟の誼により、之れに参加するに至り、事業界漸く不振を來たし、加ふるに外船の往來殆んど皆無の姿にして、需要は益減少し二星霜の久しき繼續實施するに至りしが、大正五年初春以來各種工業の勃興等により、需要の増大を現出せしかば五年十一月之を撤廢せり。爾來數年間は所謂經濟界の黃金時代にして各種工業所在に勃興し石炭鑛業界亦非常に活躍せしが九年初春財界一角の變調は漸次擴大して隨所に破産倒壞の悲劇を演じ我鑛業界も之れが影響を蒙り港頭貯炭逐月増加せしかば茲に全國一致の歩調の下に送炭調節の協定を遂げ十年五月以降繼續實施せしが、十三年十二月期限満了と共に一先づ廢止すること、なれり。尤も其間需給の關係に鑑み當初一割七分減なりしもの十一年一月より四月迄一割二分五厘十一年十月よりは八分五厘減となせり。曠て炭坑の設備を見れば、明治三十五年より四十年前後に至る六七十年の間に於ては、從來斜坑の時代なりしもの一進して將に豎坑の時代に入らんとし、所謂過渡の時代にして三十六年一月中方城炭坑（三菱）の約一千尺に達すべき大豎坑を起工するあり、次で三十八年六月には、伊田豎坑（三井）の約一千二百尺の見

込を以て、其の工事を始むるあり、製鐵所亦三十九年を以て、約一千三百尺に達すべき中央豎坑の工事を起し、各坑共内外の設備既に竣工して斯業界の模範と仰かるるに至れり、斯業の前途は其の規模を大にし、其事業を安全ならしむべく、隆々として改善の機運に向ひつゝあり。殊に此の間數年に於て鑛夫の待遇上次第に改善する處あり、法令規定の外、労働者保護の目的を以て、日用品の供給を便にし、衛生及風紀上の取締を勵行し、共濟義會を設立し、業務の勤勉を懸賞的に獎勵し、又は貯金方法を設くる等、各炭坑概ね同一の歩調を採り、且つ各種専門學校の出身者續々斯業に従事するに至り、技術及び處務に關する炭坑經營上、其の面目を一新せしは、斯業進歩の一徴として、特に一言せざるを得ざるなり。

尙前例により、毎年別に重要事項を列記すれば左の如し。若し夫れ事業の進捗を見るべき數字的資料に至りては、以下各章に列記する統計に據り、讀者の熟覽を請はんのみ。

重要事項年表（自明治二十六年至大正九年）

▲明治廿六年 筑豊興業鐵道直方飯塚間、及直方金田間開通す ◎鯉田炭坑に扇風機及正式の撰炭機を据へ付け、安全燈を使用す、何れも筑豊地方に於ける嚆矢なり。

▲同廿七年 古河市兵衛嘉穂郡下山田鑛區を購ふ ◎住友吉左衛門忠隈炭坑を購ふ ◎安達仁造筑豊石炭鑛業組合（元坑業組合）總長に就任す。

参考 廿七八年戦役開始

▲同廿八年 廣岡信五郎潤野炭坑を開く、今製鐵所に屬するもの是なり ◎長谷川芳之助新手炭坑

を引受く ◎豊州炭坑株式会社成立して豊州炭坑を開く ◎豊州鐵道小倉伊田間開通す、(是より漸次延長せしも今一々之を記さず。別項鐵道の記事參看を要す) ◎原六郎平恒炭坑を經營し、後他人に譲る今の飯塚炭坑是れなり。

参考 廿七八年戰役終了、日清鐵和條約成る。

▲同廿九年 新入炭坑に深さ七百尺の鑿坑開鑿工場を起し、後三十三年竣工す ◎古河市兵衛勝野及び目尾二炭坑を購ふ ◎貝島太助大辻炭坑を購ふ ◎岩崎久米吉岩崎炭坑を開く。

▲同三十年 松本清、中野徳次郎、伊藤傳六等相田炭坑を起す ◎八月筑豊興業鐵道株式會社を九州鐵道株式會社に合併す。

参考 製鐵所を遠賀郡八幡村(今の八幡市)に設置す。

▲同卅一年 山野炭坑(三井)を開く ◎上山田炭坑(三菱)を開く ◎田川採炭坑構内に電話機を私設す、是より各坑共に鑛業用電話を設置するもの多し。

▲同卅二年 製鐵所高雄、潤野二炭坑を買収す ◎六月豊國炭坑々内に瓦斯爆發し、二百餘名の變死者を生し、御救恤金の下賜あり、且侍従日根野要吉郎を差遣せらる ◎麻生太吉豆田炭坑を譲り受く

◎田川採炭坑を田川採炭組に譲渡す。

▲同卅三年 三井鑛山會社田川採炭組の事業を譲り受く。

▲同卅四年 赤池炭坑安川敬一郎一人の所有となり、豊國炭坑平岡浩太郎の専有となる ◎九月豊州鐵道株式會社を九州鐵道株式會社に合併す ◎筑豊石炭鑛業組合より福岡縣工業學校採鑛科新設費とし

て、金參萬壹千圓を寄附す。

▲同卅五年 藏内次郎作等第二峰地炭坑を開く ◎麻生太吉藤棚炭坑を譲受く ◎巖に株式組織を以て經營せし明治炭坑、安川敬一郎の専用となる ◎赤池炭坑に鑛山學校を起し、豫定の人員を養成するこゝ二ヶ年にして廢校す。

▲同卅六年 方城炭坑(三菱)鑿坑開鑿工事を起す ◎宮崎儀一豊州炭坑を譲り受け、豊州炭坑株式會社解散す ◎三好徳松頃末炭坑の跡を譲受け三好炭坑を起す。

▲同卅七年 若松港特別輸出港に編入す

参考 三十七八年戰役開始。

▲同卅八年 勝野炭坑(古河)を廢す ◎三井田川炭礦伊田鑿坑開鑿工事を起す ◎八月方城炭坑着炭す。

参考 三十七八年戰役終了。

▲同卅九年 製鐵所中央鑿坑起工 ◎三井山野炭鑛鴨生、漆生兩坑を開く ◎豊州採炭株式會社、大任、仲津原の兩炭坑を經營す ◎若松港戸畑沿岸の石炭積込機械運轉を行ふ ◎筑豊石炭鑛業組合より遠賀川改修工事費として金貳拾五萬八千貳百圓を寄附す。因に大正五年五月更に金貳萬千八百圓を寄附す。

参考 高島炭坑瓦斯爆發し、三百七人の變死者を生ず。

▲同四十年 三井鑛山會社本洞炭坑を購ふ ◎七月豊國炭坑瓦斯爆發の爲め三百三十六人の變死者

を生し、御救恤金の下賜あり、侍従日根野要吉郎を差遣せらる。◎安川敬一郎豊國炭坑を譲受く。◎七月一日九州鐵道官有となる。

参考 撫順炭坑大擴張の企あり、三菱餘田炭坑長工學博士松田武一郎を技師長として聘用す。◎足尾別子の銅山に鑛夫の暴擧あり、兵力を以て之を鎮む、此他生野鑛山及幌内、第二夕張等の炭山、亦不穩の兆のありしも、大事に至らずして止む。

▲同四十一年 安川敬一郎等明治鑛業株式合資會社を組織し、明治、赤池、豐國の三炭坑を經營す。◎鐵道室木線開通す。◎四月廿六日遠賀川改修工事起工式を行ふ。◎日本鑛業會講話會を福岡市に開く。

参考 四月一日より三池港を開く。◎四月門司石炭仲仕同盟罷工、一日にして復業す。◎七月高嶋炭坑鑛夫不穩の兆ありしも數日にして復業す。

▲同四十二年 三井伊田整坑着炭。◎豐國炭坑第二坑開鑿起工。◎三菱餘田炭坑専用運炭電車を運轉す。◎貝島鑛業合名を株式組織に改む。◎十一月大之浦炭坑桐野第二坑瓦斯爆發の爲め二百五十六人の變死者を生し、御救恤金の下賜あり、侍従日根野要吉郎を差遣せらる。

参考 安川敬一郎、松本健次郎の兩名寄附行爲を以て金參百參拾萬圓を投じ、遠賀郡戸畑町に明治専門學校を起し、四月一日より開校す。◎十一年より濠洲炭坑に鑛夫の同盟罷工あり。◎十二月月撫順炭坑大山坑着炭す。◎二月袖之原炭坑休業す。

▲同四十三年 七月英國倫敦に開催せし日英博覽會に對し、筑豊石炭鑛業組合より出品せし、煤田地圖に對して名譽大賞牌を受領す。◎十月三菱合資會社金田炭坑を買收す。◎十二月三好徳松高松炭坑を買收す。

▲同四十四年 三月安川敬一郎筑豊石炭鑛業組合總長を辭任し、後任として麻生太吉就任す。◎四月藏内保房添田炭坑の一部を買收す。◎六月忠隈炭坑瓦斯爆發の爲め、七十三名の變死者を出す。◎九月堀三太郎平山炭坑を買收し、三井鑛山株式會社香春炭坑を買收す。◎當組合直方會業所新築落成す。

◎米國鑛業會員ハント外七十餘名の觀光團來朝、筑豊石炭鑛業組合にて歡迎會を門司俱樂部に開く。◎同四十五年、大正元年 五月、戸畑海岸に「ホイスト、クレーン」一臺を増設し運轉を開始す。◎七月十五日、筑豊石炭鑛業組合にて買ひ入れたる救助器使用の第一回練習會を開く、以來毎月數回開催續行す。◎九月堀三太郎御徳海軍炭山の拂下を受く。◎同月堀三太郎堀鑛業株式會社を組織す。◎九月小松炭坑々々内浸水し二十四名の變死者を生す。

▲同二年 二月製鐵所二瀬出張所中央堅坑、瓦斯爆發の爲め、一百一名の變死者を生す。▲同三年 五月伊藤傳右衛門其所有各炭坑を提供し、古河虎之助と大正鑛業株式會社を組織す。◎六月金谷炭坑々々外より浸水し、死者六十三名を生す。◎十二月方城炭坑瓦斯爆發の爲め、六百六十八名の變死者を生じ、御救恤金の下賜あり、侍従日根野要吉郎を差遣せらる。

参考 五六月の頃より各地探炭制限實施せらる、組合炭山亦五月より制限を實施す。◎八月日獨國交斷絶青島攻圍開始せらる。◎十一月若鍋炭坑瓦斯爆發の爲め、四百二十三名の變死者を生す。◎若松築港株式會社、瀛船及帆船の碇泊場擴張を企畫し、工事に着手す。◎若松驛新棧橋

第一章 沿革 第四款 明治維新後の第二期 一七

千二百餘呎の延長工事に着手す。四月新入炭坑に於て落磐の爲め、變死者十名を生ず。十月神代炭坑水害あり。一月以來起工中の安全燈試験場、初夏の候に至り竣成す。四月東見初炭坑浸水の爲め、變死者二百三十六名を生ず。六月鑛業諮問會開催。十一月石炭坑爆發取締規則發布せらる。七月本添田炭坑、濠雨の爲め浸水す。十一月一日より組合炭山の採炭制限を撤廢す。十二月筑豊石炭鑛業組合に於ける炭坑保安に關する研究及施設の事項發表せらる。四月撫順炭坑大山、東郷、兩坑發火す。五月沖山炭坑漏水の爲め中止す。七月高島炭坑漏電の爲め發火す。九月以來虎疫流行、船舶の入津減少し、運炭の困難を來せり。八月鑛夫勞務扶助規則の發布、鑛業警察規則其他の改正あり。三月佐藤慶太郎株式會社佐藤商店を組織す。十二月本組合は創設費概算參拾貳萬圓を投し鞍手郡頓野村西尾(直方町の東方半里)に地を卜して筑豊鑛山學校の設立を決議す、詳細は組合事業成績中に在り。桐野炭坑瓦斯爆發の爲め三百六十九名の變死者を出し、御救恤金の下賜あり、侍從日根野要吉郎を差遣せらる。三月當組合より田川郡立中學校へ金參萬圓を寄附す。四月中鶴炭坑瓦斯爆發の爲め

三十名の變死者を出す。五月遠賀川改修工事竣成式舉行さる。五月當組合及び若松石炭商同業組合は其共有金中より建築費金拾六萬圓を投して公會堂を建築し九年十一月竣工若松市へ寄附す。六月麻生太吉株式會社麻生商店を組織す。鷲嶺炭坑浸水し變死者十名を出す。八月中島德松中島鑛業株式會社を組織す、米價暴騰の爲め全国各地に暴動勃發し延いて組合炭山中二三不穩の兆候ありしも日ならずして鎮靜す。十月當組合と若松石炭商組合とは其共有金中より壹萬五千圓を支出して第十二師團出征軍人に慰問袋を寄贈す。十二月警察電話架設費として金壹萬貳千餘圓を寄附す。同八年。二月當組合と若松石炭商組合とは其共有金中より六萬圓を市立若松中學校に寄附す。五月炭券(採炭切符)使用を禁止すへき旨福岡鑛務署より各坑へ達あり。七月大正九年度に於て鞍手中學校に金壹萬貳千圓を寄附するに決す。十月米國華盛頓府に於て第一回國際勞働會議開催され本邦選出委員も列席す。同九年。一月福岡工業博覽會に金壹萬圓を寄す。若松石炭商組合の建設に係る石炭仲仕住宅建築費に若松石炭商組合と當組合の共有金より繼續事業として金貳拾萬圓を支出するに決す。四月當組合主催にて日本鑛業會講演會を福岡市に於て開催す。十月英國炭坑夫同盟罷業を企て形勢不穩なりしも間も無く鎮靜す。同十年。五月全國鑛業家協定の下に送出炭調節を實施し引續き十三年末に及ぶ。起業小松炭坑浸水し變死者十五名を出す。十月石炭鑛業聯合會成立す。十一月神ノ浦炭坑瓦斯爆發變死者十四名を出す。

▲同十一年 四月健康保険法公布せらる。◎八月當組合水運部解散 ◎十月開瀨炭坑に同盟罷業起りしも月餘にして鎮靜す。瑞西セネヴァに於て國際労働會議開催本邦委員も出席す。

▲同十二年 九月關東方面に大震災あり當組合と若松石炭商組合とは其共有金中より金五萬圓を義捐す。瑞西セネヴァに於て國際労働會議開催本邦委員も出席す。

▲同十三年 一月北海道歌志内坂炭坑に瓦斯爆發あり變死者七十七人を出だす

四月宇部沖ノ山炭坑に、五月三池炭坑に労働爭議ありしも日ならずして鎮靜す。八月福島縣入山炭坑に變災あり死者七十五名を出だす。十月労働統計實地調査を行はる。十二月去る十年五月より實施せる選出炭調節を廢止す。

第二章 煤 田

筑前の遠賀、鞍手、嘉穂三郡及び豊前の田川郡に亘る煤田を筑豊煤田と稱し、小倉市の南方に在るを企救煤田と稱す、筑豊煤田は吾邦の最樞要なる産炭區域にして遠賀川及其支流に沿へる低地を占め南北の長さ約十二里東西の幅は三里より七里に達し大凡五十一平方里の面積を占む

筑豊の挟炭層は地質學上第三紀に屬するものにして此地域に包藏せらる、炭層は厚薄總てを算すれば數十に達す可く自ら三箇の層群をなせり、最下に在るものを大焼け層群と稱し第三紀層の基底をなせる古期岩石に接し直立約三百五六十尺の間に五六枚の炭層を有す最下の砂境層と稱するものは基底岩より

隔るこゝ僅に十數尺なり、此層群の最上層をなす大焼層の上方約百三四十尺にして本層群あり、最重要なる炭層を有し約二百尺の間に十枚乃至十五枚の炭層を有す三尺層及び五尺層は殊に著名にして此層群を一名、三五尺層群と稱す、此層群の最上層をなす明治山張層の上約二百七十尺にして竹谷層群ありて平均百六十尺の間に三枚乃至五枚の炭層を藏す、其上三百七十八尺を隔て、約百三十尺間に二三枚の炭層を有する上石層群あり、竹谷層群及び上石層群中の或る炭層は室木線地方及び嘉穂郡南部に良好の發達を爲せり、上石層群の上方は暫く石炭を缺き遠く約二千六百尺を隔て、遠賀層群あり、本層群に於ては炭層非常に密接して存するに反し此層群に在りては其存在疎らにして十枚の炭層は約千百尺の間に散布せり第三紀層の基底面より遠賀層群の最上層なる臭石に至る總ての炭層及岩層の厚さは約五千五百尺に達す尙第三紀層は臭石層の上に厚く重疊すと雖も今日まで未だ炭層の發見せられたるものなし

遠賀層群は遠賀郡の東部と鞍手郡の一部とに跨り遠賀川の東邊に在り北方山鹿より折尾中間香月地方鞍手郡木屋瀬町の東方及び上頓野に亘る一帯の地にある炭坑は此層群に屬する炭層を採掘するものなり十餘の炭層の内高江層、三尺層、五尺層等は其主なるものなり

上石層群竹谷層群本層群及び大焼層群は互に相接近し遠賀郡の西部と廣く鞍手、田川、嘉穂郡の各地に現はれ地體の斷裂の爲め數帯をなす、直方の北方及び東南の地方より田川郡内の各地に群簇せる數多の炭坑は最東列の諸炭層を採掘せり、九州本線の海老津驛附近の諸炭坑及び西川筋即ち室木線に沿へる炭坑、桐野小竹驛間鮎田驛附近、山野漆生線に沿ゆる諸炭坑及び大隈下山田上山田驛地方のものは前者の西に並走せる諸炭層を採掘せり、又飯塚町の附近及び飯塚白井驛間の諸炭坑は西列の炭層を採掘せり

製鐵所の二瀬炭坑は此列中にあり、長尾驛附近及大分地方の炭層は別に各一區域をなす。石炭の名稱は或は炭層の厚さにより三尺炭五尺炭八尺炭等と呼ぶことあり或は其性狀により臭石炭、角石、縮縮等と呼ぶことあり或は又遠賀炭、田川炭等と地方名を冠することあり或は又炭坑名を以てすることあり、然れば同名の石炭と雖も炭坑の異なるに従ひ炭層を異にすることあり或は又同じ層の石炭にても炭坑又地方により其名稱を異にすることあり、本層群の三尺炭は新入坑にては五尺炭と云ひ明治炭坑にては三尺炭豊國炭坑にて八尺炭、三井田川鑛業所にては田川八尺炭と云ふが如し。炭層の數多きに従ひ炭質も亦種々にして船舶用機關車用汽罐用、瓦斯用、骸炭製造用等一として産せざるなし、普通の瀝青炭の外に炭層中に突入したる火山岩の高熱の爲め石炭より化成したる燧石及無煙炭なるものあり共に一種の天然骸炭にして燧石は熱するに従ひ爆碎せるの性ありて石灰焼、セメント製造等に歡迎せらる、無煙と稱するは眞の無煙炭に屬する炭種には非ざるも火山岩と接觸の爲に著しく揮發分を喪失し煙少なく悪臭なきを特徴とし家庭用として用ゆるも亦可なり。筑豊煉田に存する大小炭坑の數は殆ど二百に達し煤田の全面を蓋ふが如しと雖も一覽圖に明なるが如く煤田中未だ鶴嘴を立てざる所少なからず之に加ふるに探鑛の猶冷れからざる區域の存するあり諸工業の旺盛に伴ひ供給多々益辨すと云ふべきなり。

第二章 鑛區及炭坑並に産額

▲鑛區 筑豊石炭鑛業組合に屬する石炭鑛區は筑前國遠賀、鞍手、嘉穂の三郡、豊前國田川、企救の二郡にて、大正十四年六月二十日現在の鑛區番號、位置、面積、炭坑名稱、大正十三年中採炭高、採掘營業者及鑛業代理人は左の如し。

筑豊五郡石炭採掘鑛區一覽

遠賀郡

登錄番號	町村名	坪數	坑名	大正十三年産額	採掘者	採掘營業者
登 九六〇	長津外五	三、三七、二六五坪	中 外四坑	四四、〇三三佛郎	大正鑛業株式會社	◎大正鑛業株式會社
同 四五九	香月外二	一〇三、四〇一	大 辻	二六、九五	大辻岩屋炭礦株式會社	末次好太郎
同 七二〇	同	三〇三、三三一	同	同	同	同
同 九四五	同	九六〇、五七四	同	同	同	同
同 一〇八八	同	六〇九、三三三	高尾二鑛	一七、一三	大君鑛業株式會社	久野松次郎
同 四七〇	同	五〇、五〇六	同 三鑛	同	同	同
同 八七六	同	四八、〇七六	同	同	同	同
同 一〇四一	同	一六、九一〇	同	同	同	同
同 四五六	同	一四、一七七	高 江	一六、一〇	株式會社佐藤商店	平野吉五郎
同 二二三	同	一八、六〇三	同	同	同	同
同 二二四	同	同	同	同	同	同
同 二〇六	岡垣外一	一、〇三、七七八	海老津	二二、六二	海老津炭鑛株式會社	横山利三郎
同 二二	同	同	同	同	同	同
同 二二	底井野	一三、一三九	大 隈	三、二七	大隈鑛業株式會社	谷村良太
同 二二	外二	八二、〇〇〇	同	同	同	同
同 一〇二	同	九七、七九〇	高松二坑	五、五七	三好鑛業株式會社	三好孝宗
同 二二三	水卷外二	二四三、〇〇八	同 分坑	同	同	同

第三章 鑛區及炭坑並に産額

登	二二四	水卷外二	二、二五三、一七〇	高尾	四、三六	三好鑛業株式會社	三四	三好孝宗
同	一九八	香月外二	二七三、五三三 一五九、五五五	岩崎	四、七三	岩崎伴次郎	◎	岩崎伴次郎
同	一四〇	底井野	一三〇、三六〇	高橋垣生	三、五一	高橋恒次郎	◎	船津初太郎
同	一〇二	水卷外二	九七三、七九〇	高松	三、五二	三好鑛業株式會社	◎	三好孝宗
同	一二三	香月	五、六三三 九、二六六	楠橋	四、三六	小林勇平	◎	星野皆彦
同	八〇九	岡垣	三、六三三	藏生	二、五五	矢山清三郎 外二名	◎	矢山清三郎 外二名
同	七三三	同	八五、三五〇	柳谷	六	大東物産株式會社	◎	太田金七
同	元	淺木	四〇、八〇〇			井手辰次郎	◎	兼松百馬
同	二五	香月外一	六三、五五〇			安田森吉	◎	許斐直太郎
同	一七〇	岡垣	二〇、〇六六			吉田磯吉	◎	村上伸雄
同	一六六	香月	二五、〇〇八			三菱鑛業株式會社	◎	同
同	一七七	底井野	二〇八、四〇三			同	◎	村上伸雄
同	三七九	岡垣	五、六七七			野村半三郎	◎	朝尾直一
同	四〇四	上津役外一	一一、一〇〇			大正鑛業株式會社	◎	久野松次郎
同	四〇四	上津役外一	一一、一〇〇			大君鑛業株式會社	◎	村上伸雄
同	四〇四	上津役外一	一一、一〇〇			三菱鑛業株式會社	◎	村上伸雄

同	五五	上津役外一	七三、五五五			大正鑛業株式會社		朝尾直一
同	五七	岡垣	一八四、六七五			野村半三郎		朝尾直一
同	三七	水卷	二四、〇〇〇			株式會社佐藤商店		朝尾直一
同	七六	底井野	三七、〇三八			岡崎共同株式會社		朝尾直一
同	七一	香月	九〇、〇〇〇			桑原傳次郎		朝尾直一
同	八一	水卷	一一、五五五			株式會社佐藤商店		朝尾直一
同	八三	淺木外二	七四五、六六			御徳炭礦株式會社		朝尾直一
同	八〇	淺木	二八五、一五			株式會社麻生商店		朝尾直一
同	九四	折尾	九八三、〇〇〇			貝島合名會社		朝尾直一
同	九二	香月外一	五八、〇〇〇			大辻岩屋炭礦株式會社		朝尾直一
同	九三	芦屋	二四、六七七			株式會社麻生商店		朝尾直一
同	九六	淺木	一一、九九			南川ヤスヨ		朝尾直一
同	九五	岡垣	三八、〇二二			株式會社麻生商店		朝尾直一
同	九五	同	四六、八五二			大浦寛次郎		朝尾直一
同	一〇八	島門外一	五五、五九六			妹尾與志夫		朝尾直一
同	一〇三	岡垣	三五、六五八			株式會社麻生商店		朝尾直一
同	一〇六	同	三七、五〇〇			岩崎壽喜藏		朝尾直一

第三章 鑛區及炭坑並に産額

登 一四九 岡 垣 七九三、〇〇〇
 同 一〇五 同 六五、七三六
 同 一〇五 同 七九、五五五
 同 一〇七 島門外一 六一〇、〇〇〇
 同 一〇七 戶畑外一 四〇〇、〇〇〇
 同 一〇七 長 津 一〇〇、〇〇七
 同 一〇八 島門外一 三三、〇〇〇
 特 六〇九 島 門 八、六一
 計 三、四八五、二四二坪 一、四九七、九六〇佛壇

大隈礦業株式會社
 上野吉次郎
 廣海二三郎
 株式會社麻生商店
 秋吉德三郎 外一名
 大辻岩屋炭礦株式會社
 林友憲 外一名
 三好 德 松
 末次好太郎
 豐田 敬 藏

鞍 手 郡

登錄番號 町村名 坪 數 坑 名 大正三年 採掘權者
 特許番號 登 一〇三 香井田外四 五、〇七五、三七三坪 大之浦一、三〇六、三四佛壇 貝島合名會社 島本德三郎
 同 一四九 五三、四四一
 同 四九〇 二九、〇〇一
 同 五九六 一七〇、三六二 新 入 五三、九八三 三菱礦業株式會社 村上 伸 雄
 同 六〇七 七、七五一
 同 六〇七 三、三〇、一二二
 同 二〇四 四八三、四〇〇

◎採掘營業者
 礦業代理人

同 一〇六 木屋瀬外二 一、二六、八八八 木屋瀬 三三、六三三 帝國炭業株式會社 深 川 清
 同 一〇六 勝野外二 五二、七九二 御 德 一〇四、一七三 同 社 高 橋 千 太 郎
 同 八〇五 同 外一 三五、三六三
 同 八〇八 同 外一 四一、三〇〇 鴻之巢 九四、七三三 同 社 高 崎 勝 文
 同 二〇四 同 外一 一九四、二九三
 同 一〇五 西 川 四九、七〇四 泉 水 五八、二三〇 大正礦業株式會社 ◎大正礦業株式會社
 同 六三三 勝野外四 三、一五、六五四 三井本洞 四七、〇三九 三井礦山株式會社 不 破 熊 雄
 同 一〇五 西川外一 二五、六五二 香之浦 三三、七三一 御德炭礦株式會社 林 千 太 郎
 同 三三二 同 外一 四六五、一四六 三 笠 二六、一九八 株式會社三笠商會 野 口 善 市
 同 一〇三 同 外一 七六、七二三 新目尾 二七、四七七 猪 口 淺 吉 別 府 忠 藏
 同 一〇五 西 川 三〇、九五四 大 成 三三、〇一七 神 澤 又 市 郎 神 澤 光 雄
 同 一五 勝野外一 二九、七四〇 金丸繁幸田 三、三三三 金 丸 勘 太 郎 小 南 才 次 郎
 同 二四 頓 野 一六四、五〇〇 新高江 三、七三三 藤礦業株式會社 藤 庄 右 衛 門
 同 五八 同 野 一六三、〇〇〇
 同 二二〇 西川外一 三三、五〇八 旭 三、七六八 井上礦業合資會社 川 口 清 松
 同 一三三 同 野 七四、四〇三
 同 八六 勝 野 四、五五六 勝 山 三、三〇〇 立 石 德 次 原 口 谷 五 郎

第三章 鑛區及炭坑並に産額 二七

登	一三	笠松外一	一六、七二	富國	宮川謙一郎 外二名	◎宮川謙一郎
同	二	劍	三九、三〇		三菱鑛業株式會社	村上伸雄
同	七	西川	四八、八二		水野與平	
同	四	木屋瀬外一	一六、三〇		株式會社中野商店	
同	一〇	頓野外一	二八、一九一		同	
同	一三	宮田	一三、六七		貝島合名會社	
同	一九	頓野外一	九、六四〇		三菱鑛業株式會社	村上伸雄
同	一〇	木屋ノ瀬	一、〇三五		株式會社中野商店	
同	三三	直方	二九、七六		三菱鑛業株式會社	村上伸雄
同	二六	木屋瀬	二七、二六		株式會社中野商店	
同	二四	西川	一五、八八		株式會社佐藤商店	
同	三八	勝野	五、七七		大重シッ	
同	三三	古月外一	四三、七六		三菱鑛業株式會社	村上伸雄
同	三四	古月	一三、九四		同	
同	三三	宮田	二六、四六〇		芦立文助	古賀太助
同	四三	劍	二七、八九		三菱鑛業株式會社	村上伸雄
同	四九	植木外二	一九、四二		同	

同	四三	直方	一三〇、二三七
同	五	笠松	九三、六〇〇
同	六	頓野	五五、三四
同	六	植木	九三、八〇〇
同	六	宮田	二〇四、九七七
同	六	勝野外一	三五、三四
同	六	直方	六四、四八〇
同	七〇	古月外一	一五、一五〇
同	七	頓野	三七、八五
同	七	勝野	一三、八〇〇
同	七	古月外一	四七、八二
同	七	頓野	一八、三五二
同	七	宮田外一	一九、五六
同	七	宮田	五、三四三
同	七	西川外二	一〇四、九〇
同	八	宮田	六八、三〇
同	八	頓野外一	一〇、一八〇

第三章 鑛區及炭坑並に産額

林田タツ	川口清松
井上鑛業合資會社	不破熊雄
三井鑛山株式會社	村上伸雄
三菱鑛業株式會社	村上伸雄
仰木七太郎	
長網好富	
村上德造 外六名	
三菱鑛業株式會社	村上伸雄
株式會社中野商店	
山田留次郎	河村靜衛
三菱鑛業株式會社	村上伸雄
同	
田中慎吉	
同	
宮川謙一郎	
和田繁	
寶邊直三	

登	八三	西川	二四、五〇	古田與曾三郎	白川藏六
同	八三	勝野	一八、五〇	河野英良	
同	八〇	同	一三九、〇〇〇	長網好富	
同	九九	香井田	六〇、二四一	小野七郎	
同	九九	勝野	三四、三〇〇	河野英良	
同	九五	同	二五、七八四	大重シッ	
同	一〇一	笠松	九七、六〇〇	株式會社三笠商會	野口善市
同	一〇一	宮田	一七〇、五〇〇	齋藤宗誠	坂田稻吉
同	一〇三	勝野外一	一五、三三九	小畑秀吉	
同	一〇四	宮田	二五、二〇六	中村熊太郎	
同	一〇五	木屋ノ瀬外一	一三〇、〇〇〇	三菱鑛業株式會社	村上伸雄
同	一〇七	福地	八二、三六〇	田中新一名	
同	一〇六	古月外三	四九七、七六三	三菱鑛業株式會社	村上伸雄
同	一〇六	木屋ノ瀬外一	一六〇、八三三	同	
同	一〇一	西川	一四、三五九	井上鑛業合資會社	川口清松
同	一一〇	勝野	七八、二〇〇	辻村彌三郎	
同	一二三	笠松外一	三三九、四〇〇	松本亭造	

同	一二七	勝野	五〇、九六八	古河鑛業株式會社	長谷川恭平
同	一二〇	西川外一	三三、五〇八	井上鑛業合資會社	川口清松
同	一二三	西川	七四、四〇二	同	同
計			二、七〇六、八九七		

嘉穂郡

登録番号	町村名	坪數	坑名	大正三年産額	採掘權者	採掘營業者
登 一	大隈外一	三八四、四七四	製鐵所稻築	一五〇、六三三	同	林嘉雄
同 一〇七	幸袋外四	三、二九〇、五三三	製鐵所二瀬	九四、七七七	同	同
同 三五	飯塚外三	二、二九七、三三九	給田	五九、九八一	同	村上伸雄
同 九九	糠波外三	三七九、二〇〇	飯塚	五八、一五四	同	西原民平
同 一〇八	同	四、五三七、九四〇	三井山野	四六、四七四	同	富田太郎
同 一一三	稻築外三	一八三、七五五	住友忠隈	四〇、七〇九	同	吉田良春
同 七六	糠波外二	一、四三八、七五五	住友忠隈	四〇、七〇九	同	吉田良春
同 一〇四	幸袋外三	八五、八三三	目尾	三三、三〇一	同	長谷川恭平
同 一二六	同	六二九、三四七	明治	二九、五六六	同	岩永巖
同 一二一	穎田外四	一、八五七、三三一	明治	二九、五六六	同	岩永巖

第三章 鑛區及炭坑並に産額

登	九七	飯塚外二	二、〇〇、四〇〇	芳雄	二四、三五〇	株式會社麻生商店	野田勢次郎
同	一二七	山田外二	二、〇六九、一四六	上山田	三三、二九六	三菱鑛業株式會社	村上伸雄
同	三六三	大隈外一	三〇三、五三六	漆生	三三、三三三	久恒鑛業株式會社	◎久恒鑛業株式會社
同	九五	大隈外一	二二五、一八九	貴船	三三、三三三	久恒鑛業株式會社	◎久恒鑛業株式會社
同	一〇四	大隈外一	二〇八、五二二	日之出	三三、三三三	久恒鑛業株式會社	◎久恒鑛業株式會社
同	一〇七一	庄内	一、〇六七、五二〇	綱分	三三、三三三	株式會社麻生商店	野田勢次郎
同	一〇六	桂川外一	一、三九五、二五九	平山	一八、四三〇	平山炭礦株式會社	山崎藤藏
同	一〇六	熊田外一	五九、〇六九	下山田	一六、〇八四	古河鑛業株式會社	長谷川恭平
同	二二三	穗波外四	二、一三三、〇三六	吉隈	二二、七三三	株式會社麻生商店	野田勢次郎
同	九三〇	同外一	五五、七四七	神ノ浦	九、八九八	帝國炭業株式會社	新辰治
同	二七	上穗波外一	九七、七三二	豆田	九、八九八	株式會社麻生商店	野田勢次郎
同	六	猪位金	一、一四、五九九	中山田	七、一六六	帝國炭業株式會社	北野三郎
同	三六	猪位金	一〇、四六六	相田	六、三三三	株式會社中野商店	高松常吉
同	八六	二瀬	二九、六六〇	日吉	六、三三三	株式會社中野商店	高松常吉
同	一〇七	山田外一	九、三三五	鎮西	五、三三一	共同石炭株式會社外一名	杉嶋寅藏
同	一三〇	鎮西外一	三三、一四三	大浦	三、〇五五	永野田榮重	西原民平
同	一〇三	桂川外一	一〇、七七八				

同	三六	山田	二六六、五七	熊田	二七、〇三六	株式會社中野商店	高松常吉
同	一六	山田	五五、五三六	花瀬	一四、三三七	高野喜六	宮崎政雄
同	一〇四	鎮西	一四、三三九	大和	二、七三九	小島治平	◎小島治平
同	三三	同	一七八、一五三	筑紫	一〇、七八八	篠崎壽三郎外一名	◎篠崎壽三郎外一名
同	九七	幸袋	八〇、〇六六	上目尾	八、三三〇	猪ノ口淺吉	秀島兼介
同	一〇八	穗波	七、七五七	第二寶滿	七、七五七	松岡宇太松	◎松岡宇太松
同	一六九	幸袋外一	一四九、八〇〇	庄司	四、五三〇	古野春吉外二名	◎古野春吉外二名
同	四三	山田	一三六、五〇〇	朝倉	四、〇三〇	時津竹次郎	◎時津竹次郎
同	二九	山田	四三、〇一九	上山	一、九二〇	橋上保外一名	廣澤義彪
同	六三	大隈外二	一三〇、六六〇	小富士	一、五六六	藤井高文	村崎竹藏
同	一五	額田	四三、九九六	益隈	一、三五五	吉田久太郎外一名	林茂助
同	五五	確井	一五九、〇四三	本大城	一、二六六	藤波重次	◎藤波重次
同	九元	確井	三三、三三〇	吉野	一、二六六	井上松市外一名	◎井上松市外一名
同	一八	額田	一〇二、九七〇	天神	一、〇五五	野見山忠三郎	◎野見山忠三郎
同	一〇	同	二二、八六七	天野	一、〇五五	野見山忠三郎	◎野見山忠三郎
同	八九	鎮西外一	一〇八、四〇一	石原	一、〇五五	政造	伊藤竹次郎
同	三八	山田	五、四八五	支王	一、〇五五	政造	伊藤竹次郎

第三章 鑛區及炭坑並に産額

登	九六	飯塚外一	五〇、〇七三	白土	一、〇三三	白土清四郎	三四	白土道明
同	四四	碓井	三、四八五	白井	四四	橋本謹爾外一名	立石徳次	
同	八二	大隈	一、三五〇	山隈	四〇	大音加一郎	峰松五郎	
同	一〇四	幸袋外一	六六、六一	上高雄	三二	島田吉郎外一名	◎島田吉郎外一名	
同	八三	大隈	六、六五	生神	三七	中島衛三外一名	◎中島衛三外一名	
同	六四	大隈	一三、六四	大熊	二二	日本實業株式會社	◎日本實業株式會社	
同	五	穗波	六、九三			株式會社麻生商店		
同	九	千手外一	一四、二〇〇			松岡作七外二名	稻員眞一	
同	元	大分	一四、六八			中野昇外一名		
同	畜	山田	一〇五、八三			石川和三郎外一名	武谷元亨	
同	壹	幸袋	六五、九四			野見山平吉	吉村春作	
同	壹	飯塚	二九、七四			榊谷平三郎		
同	七	幸袋	六、一六〇			野見山平吉	吉村春作	
同	七	飯塚外一	一五、五七			松本作次	藤木直次	
同	八	桂川	三三、五九			齊藤株式會社		
同	八	上穗波	六四、二七			貝島合名會社		
同	六	大分	六五、九五					

同	允	上穗波外一	七四八、〇九八	同	社		
同	九	幸袋	三九、一三二	同	松本作次外一名		
同	一〇	大隈外一	二四、五六五	同	馬場貫之	吉岡重毅	
同	二三	山田外一	一六、一九七	同	株式會社麻生商店		
同	二七	穗波外一	二〇一、五九九	同	株式會社中野商店		
同	二六	穗波	一三、〇〇〇	同	同		
同	三六	碓井	三三八、二八三	同	株式會社麻生商店		
同	三五	上穗波	七、五三〇	同	榊原喜代治郎		
同	三二	桂川	一七、五〇〇	同	株式會社佐藤商店		
同	四〇	飯塚	一六、八三〇	同	株式會社麻生商店		
同	四九	大隈	八、七九	同	上村幸次郎		
同	四九	桂川	三八、三六七	同	榊谷平三郎		
同	四六	飯塚	五、七〇〇	同	松本作次外一名		
同	四九	大隈	四三、三七	同	吉田久太郎外一名		
同	四八	同	一六四、〇三五	同	長谷川ちよ子	澁田貴有	
同	五九	穎田	八六、〇八八	同	土肥暉雄		
同	五三	碓井外一	一四七、六六〇	同	佐藤滿		

第三章 鑛區及炭坑並に産額

登 五五 上穗波 二五、三〇
 同 五九 稻築外一 七、六〇〇
 同 六二 大隈 一三、六三五
 同 六五 鎮西 八二、六五〇
 同 六五 同 六三、五〇〇
 同 六三 上穗波 八、五八八
 同 六四 大隈 八、五〇一
 同 六五 桂川 一三、一五四
 同 六八 宮野外一 一九、九〇〇
 同 六七 飯塚 二九、一九七
 同 六八 同 五〇、三六〇
 同 七一 大分 五一、一三三
 同 七〇 同 一三、〇一五
 同 七〇 同外一 二四、八六一
 同 七四 同外一 一〇、二六九
 同 七三 山田 一九、三五五
 同 七四 幸袋 一〇、四〇五

三六
 貝島合名會社
 加治三益
 日本實業株式會社
 同
 同
 貝島合名會社
 木下徳次郎 外一名 上崎志郎
 寺島一郎
 尼田合名會社外二名 尼田徳造
 株式會社麻生商店
 同
 中野昇 外一名
 同
 同人 外一名
 同人 外一名
 同人 外一名 石渡信太郎
 久恒鑛業株式會社 ◎久恒鑛業株式會社
 合名會社成東商會 疋田音彦

同 七六 穗波 一八、五〇〇
 同 七五 大分 六、二〇〇
 同 七二 額田 二二、八三九
 同 七〇 庄内 二九、三三〇
 同 七二 幸袋 二六、三九〇
 同 八〇 稻築 七四、八七四
 同 八二 山田 三三、三九九
 同 八五 桂川外一 一三、五四〇
 同 八五 額田外一 五九、八九〇
 同 八五 額田 一〇、八四三
 同 八五 大隈外一 一九、八四四
 同 八九 内野 一五、五九八
 同 九三 山田外一 五、〇〇〇
 同 九三 大隈外一 二〇、六六一
 同 九七 上穗波 三三、五四四
 同 九七 内野 二六、三三五
 同 九三 上穗波 五七、八五四

三七
 高津龜太郎
 貝島合名會社
 野村半三郎 朝尾直一
 高野喜六 外一名
 寺島一郎
 中山山定 雄
 江口倉之助 外二名
 野見山廣吉
 森本常太郎 明石友助
 同 人
 龜田庄太郎 同 人
 吉成實太郎
 今泉淺次郎 外一名
 株式會社麻生商店 野田勢次郎
 貝島合名會社
 同 社
 同 社

第三章 鑛區及炭坑並に産額

登	九七	大隈外一	二、〇〇〇	小林善八 外一名
同	九八	額田外一	一、〇五七	明治鑛業株式會社
同	九八	穗波	一五〇、三六一	株式會社麻生商店
同	一〇三	大隈外一	一八七、八〇〇	大隈鑛業株式會社
同	一〇九	大分	一八、六四四	中野昇 外一名
同	一〇三	上穗波外一	一一、四二〇	岩崎廣吉
同	一〇五	二瀬	三五、三〇〇	九州鑛業株式會社
同	一〇五	穗波外一	五〇六、五五〇	中西七太郎
同	一〇八	桂川外一	九〇三、九七〇	貝島合名會社
同	一〇五	額田外一	五〇、一四三	貞許勸市
同	一〇八	庄内	一五三、四〇〇	松風工業株式會社
同	一〇九	同	一八三、七五四	三井鑛山株式會社
同	一三三	稻築	一〇七、八二〇	中島鑛業株式會社
特	七七	桂川	三四九、〇三三	榊谷平三郎
計			四六、六〇七、三七九坪	五、六四二、六五三坪

田川郡

登錄特許番號	町村名	坪數	坑名	大正十三年產額	採掘權者	採掘營業者
登 一〇八	大任外六	七、九四六、九〇九坪	三井田川	九四七、五九〇	三井鑛山株式會社	不破熊雄
同 一〇五	金川外四	九〇四、九五〇	豐國	四九六、四二〇	明治鑛業株式會社	小旗善
同 一〇六	大任外六	一五五、五七三	大峰新礦	三五、五三三	藏內鑛業株式會社	久良知敏
同 一〇七	方城外二	二、三三三、五五六	方城	三〇三、七一九	三菱鑛業株式會社	村上伸雄
同 一〇八	添田外二	五七七、九九七	大峰	二八四、二〇七	藏內鑛業株式會社 外一名	久良知敏
同 一〇九	上野外三	三、一六六、八八〇	赤池	三九、三三三	明治鑛業株式會社	窪内石太郎
同 一〇〇	添田外一	一、三〇一、一三五	峰地	三三、一八	藏內鑛業株式會社	久良知敏
同 一〇一	後藤寺外一	二六九、四四三	起行小松	一〇、二六六	帝國炭業株式會社	高崎勝文
同 一〇二	金田外三	六六五、八四二	金田	一六、〇二二	三菱鑛業株式會社	村上伸雄
同 一〇三	添田外一	一四三、三六四	大峰分礦	七、五五	藏內鑛業株式會社	久良知敏
同 一〇四	勾金外一	八四六、〇六七	宮尾	五、五七	株式會社宮尾炭礦	岩崎喜藏
同 一〇五	後藤寺外二	一、八〇八、四七三	岩崎後藤寺	五、四〇〇	岩崎喜藏	岩崎鶴龜
同 一〇六	系田外一	七三、三〇〇	第二旭	二、一七	井上鑛業合資會社	井上定雄

第三章 礦區及炭坑並に產額

◎採掘營業者

同	登	川崎外二	三五、七六	川崎	二、四	城島敬五郎	◎城島敬五郎
同	川崎外一	三五、三六	豐州	二、三	池永富三郎	福田定次	
同	三三、九七	本添田	一七、五八	秀村得一	青柳藤兵衛		
同	三六、四〇	第一川宮	三、六一	北代市治	◎北代市治		
同	二六、四〇	勝田	九、一四	川村榮吉	原田十八		
同	一三、〇四	成光	三、七六	植田與六	植田實		
同	一一、九二	極東川崎	三、七	極東鑛業株式會社	能村新		
同	七、〇一	第三炭坑	一、二	同	同		
同	一七、八五	極東川崎	一、〇九	身吉秋義	◎身吉秋義		
同	二七、八五	第二炭坑	一、〇九	權藤峯三郎	植木淺太郎		
同	二五、五五	眞崎	三、〇	三好孝宗	◎三好孝宗		
同	二五、二六	榊田	三、三	日露實業株式會社	藤尾敏郁		
同	一五、五五	金谷	三、三	日東探炭株式會社			
同	六五、六五	高尾	三、三	福田定次 外三名			
同	二五、三五			株式會社麻生商店			
同	九、四七						
同	一八、四〇						
同	三三、一三						

同	同	川崎	三、四、四七	千歲鑛業合資會社外一名			
同	同	川崎	二九、八〇	尼崎炭鑛株式會社			
同	同	川崎	一七、五九	三菱鑛業株式會社	村上伸雄		
同	同	猪位金外一	五九、七八	伊藤英十郎 外三名			
同	同	後藤寺外一	三、五七	福田定次 外三名			
同	同	猪位金外一	四七、六〇	岩崎壽喜藏			
同	同	同外一	一四、五二	住友合資會社	吉田良春		
同	同	添田	一九、一六	三菱鑛業株式會社	村上伸雄		
同	同	猪位金	三九、五〇	同	同		
同	同	金田外一	二〇、五八	林眞一	◎林眞一		
同	同	大任外一	一四、〇九	大友安利子 外一名	平名雅平		
同	同	上野外一	二七、三三	森本常太郎 外一名	明石友助		
同	同	金田	五〇、四〇	下澤善右衛門 外一名			
同	同	方城	九、三五	大友安利子 外一名	平名雅平		
同	同	上野	五五、八九	住友合資會社	吉田良春		
同	同	添田外三	三四、三〇	藤井高文	一瀬又治郎		
同	同	勾金	六、八七				

第三章 鑛區及炭坑並に産額

同	九六	安真木	二四、〇〇〇	住友合資會社	吉田	良春
同	九五	添田外一	四、〇六六	同	同	同
同	一〇〇	川崎	六、八〇〇	蘇我健次郎 外一名	同	同
同	一〇三	勾金	一三、八七	神澤 又市郎	同	同
同	一〇三	金田外一	五、八七七	森本常太郎	明石	友助
同	一〇五	方城外一	一八、七〇〇	平谷 大二	平名	雅平
同	一〇六	大任外一	七〇、七七	三井鑛山株式會社	不破	熊雄
同	一〇六	添田外一	二六、〇八〇	住友合資會社	吉田	良春
特	七〇六	添田	一六、六八八	境	六郎	同
計			三五、〇五、〇九坪	三、五四、八〇七佛噸		

企 救 郡

登録番號	町村名	坪數	坑名	大正三年產額	探掘權者	探掘營業者
登 一五	足立	七〇、〇〇坪	足原	三三佛噸	近藤悅次郎	◎近藤悅次郎
同 一五	同外一	二一、九七七			本郷松太郎	久永益太郎
同 二三	足立	四九、三七			友枝鑛業株式會社	
同 二七	同	一〇三、五九二			畑正通	

第三章 鑛區及炭坑並に產額

四三

四二

同	八八	金田	五、〇〇〇	緒方 半治	明石	友助
同	八八	添田	一七、九五	森本常太郎	同	同
同	九四	同	四八、七七二	榊見 俊英	宮城盛三郎	同
同	八五	猪位金	七九、〇〇〇	明治鑛業株式會社 外一名	同	同
同	八三	猪位金	一九、〇八八	緒方 半治	同	同
同	八六	後藤寺	一五、七六八	小森市太郎	小森	靜雄
同	八七	同	八、五三三	木村 嚴	木村	補一
同	八三	同外一	六九、一五三	明治鑛業株式會社	堀内	敬堯
同	七三	同	三、六九八	宮田寅之輔	藤木	直次
同	七三	添田	四八、四八	武田虎次郎	吉田	真春
同	六三	同	三、三九〇	住友合資會社	同	同
同	六三	金田	二七、三〇〇	宮井龜太郎 外二名	麻生	伴次
同	六〇	川崎外一	七三、七六〇	神林茂雄 外二名	同	同
同	五九	安真木	一四、九四〇	住友合資會社	吉田	良春
登	五六	方城外一	九、〇三五	三菱鑛業株式會社	村上	伸雄

縣名	郡名	礦名	十二年 產出額
茨城	多賀	茨城無煙	一、九八五
同	同	高萩	七、五七
同	同	磯原	四、〇三七
同	同	重内	八、〇九
同	同	山口無煙	三、八六〇
同	同	松原	二、九六九
同	同	廣部	六、八四
同	同	宇佐美	八、四一
同	同	千代田	三三、五一
同	同	華川無煙	七、七
同	同	那留	六
同	同	武儀	五

仙臺鑛山監督局管内

縣名	郡名	礦名	十二年 產出額
長野	小縣	田澤	七、五七
同	同	池田經營	六、〇三
同	同	東筑摩	三
同	同	橫道	三
同	同	芦澤	一、五七九
同	同	丸山	三
同	同	亂橋	一一一
同	同	田口	二〇三
同	同	桂口	三四九
同	同	野口	一四、二〇一
同	同	信越	五、四七
同	同	下水内	六、九、四八八

縣名	郡名	礦名	十二年 產出額
山形	北村山	山形	四、四五
同	同	大浦赤繩	一一、四八
同	同	大石田	一一、四七
同	同	龜井田	九、三三
同	同	羽前第一	一、四九一
同	同	淺見川	三、七〇一
同	同	高倉	六
同	同	廣野	九、六六〇
同	同	山田	三、七〇六
同	同	小花	二、一八〇
同	同	好間	三、六、四三八
同	同	小田津川	七、五三三
同	同	小田津川	四、九六
同	同	彌生三友	一、九四四
同	同	浪花	四、三三五
同	同	越賀	一、五、一六六
同	同	本島	五、四九九

縣名	郡名	礦名	十二年 產出額
福島	石城	宮	四、〇一
同	同	朝鮮	二八、〇五五
同	同	王城	七、一〇八
同	同	不動澤	三、〇七三
同	同	磐前	一、七、〇六九
同	同	山崎	一、〇三八
同	同	福石	一一、六六三
同	同	内郷	六八〇、三六
同	同	入山	三〇七、一一〇
同	同	東日本三星	一七〇
同	同	東日本赤井	四八〇
同	同	大北	七、一〇四
同	同	小田	四七、三三三
同	同	小田第二坑	二、五、四五一
同	同	常磐	一、六、九八七
同	同	寶山	一、六、〇三三
同	同	品川赤井	六、八二二

第三章 鑛區及炭坑並に産額

五一

銅路	銅路市	春	探	一〇九、六三三	計	四、五三〇、六八〇
千島	國	後	寶	沼	一	一六、〇四五、六九七

▲産額。明治三十一年以後、筑豊石炭鑛業組合炭坑の産額を列記し、尙全國の産額に對する歩合を示せば左の如し。

全國石炭産額に對する組合炭山産出高累年比較

年	全國産額	組合炭山産額	全國産額に對する組合産額の歩合
明治三十一年	六、七四九、六〇二	三、六三四、一六四	五、四〇
同 三十二年	六、七七五、五七一	三、四六〇、五五二	五、一一
同 三十三年	七、四八八、八九一	四、〇一七、五二一	五、三六
同 三十四年	九、〇二七、三二五	四、八五五、二四七	五、三八
同 三十五年	九、七〇一、六八二	四、九三〇、四〇九	五、〇八
同 三十六年	一〇、〇八八、八四五	五、〇五六、三二五	五、〇一
同 三十七年	一〇、七二三、七九六	五、三八七、四七三	五、〇二
同 三十八年	一一、五四二、三九七	五、八〇四、〇九〇	五、〇三
同 三十九年	一二、九八〇、一〇三	六、四四五、五五四	四、九七

同 四十年	一三、八〇三、九六九	六、九二九、一六六	五、〇二
同 四十一年	一四、八二五、三六三	七、四二四、一四六	五、〇一
同 四十二年	一五、〇四八、一一三	七、四七二、〇〇七	四、九六
同 四十三年	一五、六八一、三二四	七、八一〇、九八三	四、九八
同 四十四年	一七、六三二、七一〇	八、七二三、〇三八	四、九四
同 四十五年	一九、六三九、六五五	九、四九五、三八九	四、八四
大正元年	二一、三一五、九六二	一〇、五一七、〇七二	四、九三
同 二年	二二、二九三、四一九	一〇、三四一、四〇七	四、六四
同 三年	二〇、四九〇、七四七	八、七六九、五五八	四、二七
同 四年	二二、九〇一、五八〇	九、八四五、六七二	四、二九
同 五年	二六、三六一、四二〇	一一、二三一、九二二	四、二六
同 六年	二八、〇二九、四二五	一一、六三一、六八八	四、一五
同 七年	三一、二七一、〇九三	一二、七九九、九五二	四、一一
同 八年	二九、二四五、三八四	一一、六八九、七一四	四、〇〇
同 九年	二六、二二〇、六一七	一〇、六八九、二〇九	四、〇八
同 十年	二七、七〇一、七三一	一一、二四一、一八七	四、〇六

第三章 鑛區及炭坑並に産額

第四章 運炭

第一款 概説

各炭山の石炭運搬に就ては、坑内より坑外迄は捲機械の力により、更に人力、馬力、又は電車等により、之を撰炭場、艀船積場、又は汽車積場等に送致し、艀船若くは鐵道線によりて送出す。

▲水運 艀船の水運に據るものは、遠賀川の本支流によりて若松港に出すを主とし、一小部分を蘆屋港に出すものあり、往時は筑豊炭の全部此の水運に據りしも、鐵道の開通によりて年々艀船の數を水じ、明治四十一年一月の現在五千三百三十七隻なりしもの、四十三年一月に至りては三千三百六十一隻大正五年一月は千八百三十八隻、十年一月は一千五百四十二隻、現在は七百八十五隻に過ぎず。

▲陸運 鐵道線路に據るものは、若松、門司を主とし、東小倉、宇嶋港及び門司鐵道局所屬各驛等に送出すものにして、年々著しき増額を示しつゝあり。鐵道運炭の沿革に就ては、既に其の概要を第一章に掲げしも、尙其の發達の一斑を見んが爲め、之れを年別に表示すれば左の如し。

明治二十四年 八月若松直方間開業、九鐵本線亦本年より折尾にて接続す

筑豊線

豐州線

同 二十五年 十月小竹驛開業

同 二十六年 二月金田驛及堀川貨物驛、七月餘田、飯塚兩驛及餘田芳雄貨物驛、十一月筑前植木の各驛開業、十二月底井野、筑前植木間複線開業

同 二十七年 十月新入第三、第四の貨物驛、十二月幸袋驛、及庄司高雄の貨物驛及折尾中間、直方筑前植木間の複線開業す

同 二十八年 四月臼井驛開業

同 二十九年 四月若松折尾間複線開業

同 三十年 八月新入貨物驛開業、同月筑豊興業鐵道を九州鐵道に合併す

同 三十一年 二月大隈、下山田、中泉各驛、三月忠隈、平恒、藤棚、日燒の各貨物驛、十一月直方勝野間複線開業

同 三十二年 二月本洞貨物驛、八月二島驛開業

同 三十三年 一月伊岐須貨物驛、九月楠驛、大城第一、第二の貨物驛、十一月潤野貨物驛開業

同 三十四年 六月上山田驛、十一月大辻貨物驛、十二月天道、長尾驛開業

同 三十五年 二月勝野、桐野の兩驛、六月鹽頭、上三緒山野の各貨物驛開業

第四章 運炭 第一款 概説

.....

.....

.....

四月小倉伊田間開通、伊田、香春兩驛開業

二月後藤寺驛、西身内谷貨物驛開業

九月宇の島驛開業、十一月宮床驛、大蔵、豐國、起行の各貨物驛開業

十二月南身内谷貨物驛開業

一月夏吉、七月後藤寺原、池尻、川崎、第一大任の各貨物驛開業

四月東身内谷貨物驛開業

九月豐州鐵道を九州鐵道に合併す

.....

同 三十七年	業	十一月菅辛田貨物驛、勝野小竹間複線開業	添田驛及庄貨物驛開業
同 三十八年	業		
同 三十九年	業	四月方城貨物驛開業	
同 四十年	業		
同 四十一年	業	二月枝國貨物驛、五月中間底井野間複線、七月岩崎、香月各貨物驛開業	一月第二大任貨物驛開業
同 四十二年	業		
同 四十三年	業	十月第二菅辛田貨物驛開業、十二月中鶴貨物驛開業	
同 四十四年	業	十月中間香月間旅客取扱開業、關門間貨車航送開始	
同 四十五年	業	一月新平貨物驛開業、七月勝野磯光桐野驛旅客取扱開始	
大正二年	業	七月新多貨物驛開業、八月鴨生漆生貨物驛開業、十一月潤野驛を二瀬驛と改稱し旅客取扱を開始す	二月後藤寺原貨物驛廢止
同 三年	業		九月東身内谷貨物驛廢止

同 十四年	業	十二月新菅辛田貨物驛開業	
同 十五年	業	二月赤阪貨物驛開業	
同 十六年	業	三月新平恒貨物驛開業	
同 十八年	業	四月筑前中山貨物驛開業	
同 十九年	業	四月目尾分岐點廢止目尾驛にて一般旅客取扱開始五月山野分岐點廢止山野漆生兩驛にて一般旅客取扱開始	十二月西身内谷貨物驛廢止
同 十一年	業	十二月本洞貨物驛廢止	二月起行貨物驛に於て九州産業鐵道會社線と貨車の連帶輸送開始
同 十二年	業	五月大城第二停車場廢止、同月稻築驛貨物取扱開始、六月中鶴驛貸切及一車積貨物取扱開始	十二月豐州線を目豐線と改稱
同 十三年	業	二月芳雄、上三緒、赤坂、鴨生、漆生、筑前山野各驛の一般運輸營業開始	

附記。小倉鐵道は小倉鐵道株式會社の經營に係り、大正四年四月より旅客取扱を開始し石炭運輸は同年十一月より開始す、東小倉驛は同社に屬する一驛なり

第二款 水 運

▲炭坑名稱及若松迄の運賃 筑豊炭坑中、遠賀川の本支流によりて、水運を利用するもの、坑名並

第四章 運 炭 第二款 水 運

に運賃を示せば左の如し、但運賃は時によりて高低あり、今現行の標準額を示せば左如(大正十一年一月改定)

炭坑名	一萬斤に付運賃	炭坑名	一萬斤に付運賃	炭坑名	一萬斤に付運賃
高尾三嶺	五、二一	高松二坑	六、三六	高松	六、三九
高尾二坑	五、二六	垣生	七、四四		

▲水運送出高累年比較 水運に據る送出高は、鐵道輸送の開始前、其全部を占めしが、鐵道開通後漸次總送出に對する歩合を減し、大正十三年に於ては僅に一分七厘に過ぎざるに至りたり、今其の水運送出高と總送出高に對する歩合を表示すれば左の如し。

年	水運送出高	總送出高に對する歩合	年	水運送出高	總送出高に對する歩合
明治十九年	三〇九、八九九	一〇、〇〇	明治二十五年	八七〇、五七一	八、三七
同二十年	四〇〇、〇三三	一〇、〇〇	同二十六年	八五五、六〇八	六、六九
同二十一年	五五一、六三七	一〇、〇〇	同二十七年	八七一、六〇三	五、〇九
同二十二年	六六九、九六六	一〇、〇〇	同二十八年	九〇四、七九九	四、三三
同二十三年	七〇〇、八四八	一〇、〇〇	同二十九年	八三六、三三九	三、五七
同二十四年	八五五、五〇九	九、六五	同三十年	八二五、二〇三	三、〇三

年	陸運	水運	年	陸運	水運
明治三十一年	一、一三五、八四八	三、三四	明治四十五年	七〇五、三七四	八、一
同三十二年	一、〇八八、六三四	三、〇八	大正元年	七五九、四八〇	八、〇
同三十三年	九八三、九七三	二、四一	同二年	六四四、六八〇	六、六
同三十四年	一、〇六四、三六六	二、二四	同三年	四一五、九九二	五、一
同三十五年	一、〇八〇、〇九三	二、二四	同四年	四五〇、四七〇	四、九
同三十六年	九三三、八二五	一、八一	同五年	五七〇、三五三	五、六
同三十七年	七六六、九五五	一、四	同六年	六〇二、八〇〇	五、八
同三十八年	八八五、三八八	一、六三	同七年	五九五、一六三	五、三
同三十九年	一、〇八九、二八〇	一、八〇	同八年	四三三、五七三	四、三
同四十年	一、一六一、六五三	一、七九	同九年	四一五、九三三	四、一
同四十一年	一、〇六五、八四三	一、五四	同十年	四二一、三九五	四、〇
同四十二年	七六九、八三三	一、二二	同十一年	二七〇、〇二二	三、六
同四十三年	八〇五、七六七	一、二四	同十二年	一八八、八〇六	一、七
同四十四年	七五八、五五五	一、六	同十三年		

第三款 陸運

▲各炭坑より重要市場迄の距離及運賃(一噸當)本表は營業哩に依る

第四章 運炭 第三款 陸運

添田	第二大任		第一大任		川崎		池尻	南	起行	見立	起行	小松
第四章 運炭	島	大峰	島	川崎	大峰	大峰	門松	巴	三井田川四坑	豐洲	式部	第一川宮
第三款 陸運	廻	一坑	廻	二坑	成	成	成	成	成	成	成	成
運	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘
	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五
	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘
	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五

六三

(見立坑は九州産業鐵道の哩程を含む)

後藤寺	伊田	室木	八尋	新延	海老津	折尾	所屬驛	炭坑名	門司	若松	戸畑
三井田川一坑	三井田川斜坑	三井田川三坑	三井田川四坑	三井田川五坑	三井田川六坑	三井田川七坑	高尾三坑	高尾三坑	高尾三坑	高尾三坑	高尾三坑
壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘
一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五
壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘	壘
一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五	一、五

六二

筑前中山	新入六坑	新入第三、四坑	新入四坑	新入一坑	御德	鴻之巢	中御德	大瀧	日尾二坑	本入	鹽頭	金丸繁幸田	吉原	勝山	日尾	上目尾	總田五坑	總田五坑	
三	七	七	元	三	三	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
一、〇	一、〇	一、五	一、五	一、五	一、五	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
三	五	五	七	七	七	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
六	七	七	七	七	七	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
六	五	五	七	七	七	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
六	五	五	七	七	七	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク

六五

野木屋瀨	香月	岩崎	新	中	中	豐國	大藪	夏吉	庄	野					
野木屋瀨	楠橋	大辻	大隈	岩崎	新	中	大根	豐國一坑	豐國三坑	三井田二坑	勝田	宮尾	峰地一坑	栴田	野
三	三	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
一、五	一、五	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
八	八	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
六	六	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
六	六	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
三	三	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク
三	三	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク	ク

六四

菅牟田	新菅牟田	桐野	大之浦一坑	大之浦二坑	大之浦三坑	大之浦四坑	大之浦五坑	大之浦六坑	大之浦七坑	大之浦八坑	大之浦三坑	大之浦三坑	大之浦五坑
菅牟田	新菅牟田	桐野	大之浦一坑	大之浦二坑	大之浦三坑	大之浦四坑	大之浦五坑	大之浦六坑	大之浦七坑	大之浦八坑	大之浦三坑	大之浦三坑	大之浦五坑
菅牟田	新菅牟田	桐野	大之浦一坑	大之浦二坑	大之浦三坑	大之浦四坑	大之浦五坑	大之浦六坑	大之浦七坑	大之浦八坑	大之浦三坑	大之浦三坑	大之浦五坑
菅牟田	新菅牟田	桐野	大之浦一坑	大之浦二坑	大之浦三坑	大之浦四坑	大之浦五坑	大之浦六坑	大之浦七坑	大之浦八坑	大之浦三坑	大之浦三坑	大之浦五坑
菅牟田	新菅牟田	桐野	大之浦一坑	大之浦二坑	大之浦三坑	大之浦四坑	大之浦五坑	大之浦六坑	大之浦七坑	大之浦八坑	大之浦三坑	大之浦三坑	大之浦五坑

大城第一	藤棚	上山田	筑紫	朝倉	熊田	大昇	上山田	松岡	日吉	中山田	猪位
大城第一	藤棚	上山田	筑紫	朝倉	熊田	大昇	上山田	松岡	日吉	中山田	猪位
大城第一	藤棚	上山田	筑紫	朝倉	熊田	大昇	上山田	松岡	日吉	中山田	猪位
大城第一	藤棚	上山田	筑紫	朝倉	熊田	大昇	上山田	松岡	日吉	中山田	猪位
大城第一	藤棚	上山田	筑紫	朝倉	熊田	大昇	上山田	松岡	日吉	中山田	猪位

○筑豊炭の各驛總送出高 (若松、門司、宇島、東小倉を除く)(最近八ヶ年間比較)

驛名	大正十三年	大正十二年	大正十一年	大正十年	大正九年	大正八年	大正七年	大正六年
大里	一〇、〇二	五、七六	七、二六八	六、三九九	九、三六一	九、七六六	七、五三三	八、七四三
石田	一〇、〇二	八、二	四、六五	五、七	四、六	五、八	五、九	一、四
石原	三、八	四、〇六	二、七九	一、三六	三、八四	四、三四	八、〇〇	六、四
呼野	一、七	一、五	三、〇六	二、六	二、〇〇	三、二八四	三、一三三	二、五七
探銅	一、五二	一、五	四、七	二、五	二、七四	二、四九	一、六四	一、二四〇
上香	三、三	二、五八	二、〇九	六、〇	一、二五	二、七	三、〇五	六、四九
上伊	四、	二、五八	二、〇九	七、	一、二五	二、七	三、〇五	六、四九
今任	九、	八、	七、	一、二	一、	一、	一、	一、
梅田	九、	七、〇	七、	一、	一、	一、	一、	一、
伊原	九、	七、〇	七、	一、	一、	一、	一、	一、
上添	九、	七、〇	七、	一、	一、	一、	一、	一、
小倉	一、九、四六〇	一、五、二七	一、六、五七	一、九、二七五	一、六、七、七六	一、六、四、九	一、八、五、〇八五	一、三、九、三五
枝光	一、〇八、二五〇	八、九、八六〇	七、八、八九	七、八、七八	七、一、六五七	六、二、八七二	五、九、四七二	八、八、二九八
入尋	一、二、六	五、八、六	五、	四、六、三、八	五、〇、三、二	五、九、三、七九五	四、八、四、七四	四、五、三、五八
新延	一、二、六	五、八、六	五、	四、六、三、八	五、〇、三、二	五、九、三、七九五	四、八、四、七四	四、五、三、五八
遠賀	一、八、五	一、九、六、七	八、二	四、三、七	四、一、九	四、六、九	三、四、八	二、二、三
折尾	七、〇八	五、四	六、五〇	四、九二	二、八、八	五、五〇三	一、三、三四	三、四七
黒崎	一、七、〇六三	一、六、四、三	一、四、二、三〇	一、〇、九、八	二、一、〇、七	一、二、二、四三	一、一、七、六	一、六、四、〇二

第四章 運炭 第三款 陸運

驛名	大正十三年	大正十二年	大正十一年	大正十年	大正九年	大正八年	大正七年	大正六年
美殿	九	八	三、七	四、九	二、六	一、	九	一、
伊賀	一、三、	一、	三、	二、五、七	四、一、五	一、六、七	一、	五、
土井	三、	三、	八、五	一、〇、五	二、四、〇	一、九	二、四	六、
香椎	三、	三、	九	三、四	一、四	五、六	五、	一、
筑前	三、	三、	八、八	一、五、	八、〇	三、四	二、六、九	一、〇、四
古賀	一、三、四〇	九、八二	一、四、六六	一、一、四九	八、九三	九、九	一、一、〇〇〇	一、九、六四
福間	八、八二	八、五七	六、五五	一、一、三六	一、三、三	九、九	三、	三、
東郷	一、六九	六、	一、三、	二、四、五	三、九七	五、八	三、	三、
赤津	五、	八、	五、	四、四〇	二、三〇	九、	九	七、
海老	五、	八、	五、	四、四〇	二、三〇	九、	九	七、
室津	五、	八、	五、	四、四〇	二、三〇	九、	九	七、
入木	一、六	九、〇	五、	二、七	一、	三、	四、〇、九八	二、八、五七
新延	一、二、六	五、八、六	五、	四、三、七	四、一、九	四、六、九	三、四、八	二、二、三
遠賀	一、八、五	一、九、六、七	八、二	四、三、七	四、一、九	四、六、九	三、四、八	二、二、三
折尾	七、〇八	五、四	六、五〇	四、九二	二、八、八	五、五〇三	一、三、三四	三、四七
黒崎	一、七、〇六三	一、六、四、三	一、四、二、三〇	一、〇、九、八	二、一、〇、七	一、二、二、四三	一、一、七、六	一、六、四、〇二

田代	鳥栖	久留米	荒木	羽塚	矢部川	野町	南關	渡瀬	大田	萬田	長洲	高瀬	木葉	植木	長浦	山本橋
二一九	二七五	六、九七三	六、九七三	一、〇三二	三、五九	二、九	一〇	三	五、五七	一八一	一〇〇	八、五九	一、五九	一、五	六〇	八
二六二	一〇〇	七、七三〇	一、七八五	二、六五六	四、五	二、四	九七	一	七、九五六	七	一、四三	九、七三	一、三九七	一、五	七三	一
二六	五、六	三、〇四〇	三、一〇四	一、三四三	八、八	一	一	九	五、九、四三	三三	一、六三	六、九三	一、五四	七〇	一九九	一
五、五三	四、七	五、五四五	三、三四六	二、〇二	三、九〇	一	一	三	一三〇、五五	八、六	二、五三	一、二七四	一、二八八	三〇	七、六	六
一八九	二、六九九	四、九五二	七、九三	一、二四四	八、六	一	一	二、四四	二〇〇、五一	二、八〇	三、八七	一、二四	二、〇〇七	二、四	一、八五	六三
二五八	五、四三	四、五四〇	一、一六四	一、二六九	五、一	一	一	四、八四	一六〇、五八〇	二、九	四〇七	二、二六〇	二、二六八	四、六	三三	四七
五、九	六、九	五、三七	三、〇	二、六一	九	一	一	三	一、四、二九	六、九	二、九一	七、三	二、九、九	一、三、九	一	一
一九五	三、四九	六、九〇六	三、六	三、九二	三、八三	一	一	一	一、七、三、九、九	六、八	一	六、七	三、二〇	一、二、六	一	一

第四章 運炭 第三款 陸運

和	白	奈多	四崎	名島	箱崎	吉塚	原町	篠栗	上龜山	新志免	新前勝田	博多	竹下	雜餉	二日市	原山	基
一	一七	一三	八〇三	三、八〇	四、六四	三〇	一六	九	四、六三	一、四五一	一、三三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五	一、三五
一	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
一	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
一	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
一	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
一	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
一	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
一	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
一	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三

赤立	肥後	三龍	水龍	甲	淺	御	鯉	春	熊	上	山	來	宮	肥後
水野	津	里	田	前	井	船	竹	本	本	鹿	民	原	豐	田
二四	三〇	九	四	四九〇	二八	五六	三六四	七、七三	三八七	六八	四九	三三	一、〇〇九	
一七	三	七	九	一五	二六	七	四七四	二、五五	六、〇三八	五、四八七	七三	一、二六九	一、二二三	
一七	一〇	一	一	一	一	一	四八	二、四〇六	六、八二	五、八七	六三〇	六三	一、三七〇	
一七	一五	一〇	八	一	一	一	七三	二、〇七	六、〇五〇	五、七三	一、二〇四	三	一、〇九	
一七	二五	一	一	一	一	一	七八	二、六五	一〇、五二	五、八三	一、三三五	九八	九八	
一	一	一	一	一	一	一	三五	五、〇九	一、六九〇	六、九二	九〇	一、九六	一、九六	
一	一	一	一	一	一	一	一	一、二〇	一七、七九	一、八〇	一	一	七〇六	
一	一	一	一	一	一	一	一	七六	一八、三三	二、八二	一	一	一	

渡一	白	瀬	坂	日	球	八	有	小	松	三	網	宇	川	宮	内
勝地	石	石	本	奈	磨	代	佐	川	橋	角	田	土	尻	地	牧
二四	一	一	二五	八	二七五	五〇八	一九	一六	四七	四、二二	九	四三	七五	一四	一
二五	一	一	三七〇	一	一六九	七六	一九五	一八五	四七三	五、九六一	一	四一九	一〇三	三六	七
一八	一	一	二、二〇	一	一七四	八三九	九四	七六	二八五	四、三〇	一	三六	二〇	四八	一七
一五	一	一	三、八三〇	一	一三三	二六四	三三	三七	二八二	四、四二	一	二八九	二五	三	五
一	一〇	一	一七、四九五	一	一四〇	九八	七二	三七〇	六四	二、三三	一	四六	三八四	三	一
一	一	一	一九、六四	一	三七	一、五四〇	四、九七五	四、五五	四三〇	四、九七	一	五七	一五	三	一
一	一	一	二八、〇三	一	九	一、〇〇	三、〇六	四〇〇	二九五	二、二七	一	四六	二五	三	一
一	一	一	二四、五九五	一	一	三九〇	二、一六	七〇	四六	一五、五七	一	七五	四六	一	一

大隅	末吉	西都	都城	谷頭	高崎	高崎	小林	飯野	加藤	京町	吉松	矢嶽	湯前	多良	肥後	人吉
山	吉	城	城	頭	新	原	町	野	藤	町	松	嶽	前	木	村	吉
一五	二六	一七〇	二五二	九	三	六	二二	三	九	四	一	一	四	七	七	一、三四七
一八	八	九〇	二、五九	一	四	六	八	五	九	一	一	一	一	一	一	八五三
一	一	一	四、二九	七	四	五	八	一	一	一	一	一	一	一	一	六〇〇
一	一	一	二、三四	一	五	七	八	〇	三	五	一	一	一	一	一	八八
一	一	一	二、七四〇	六	五	三	四	二	六	一	一	一	一	一	一	二七九
一	一	一	一、五五	二	三	一	七	一	四	一	一	一	一	一	一	三〇三
一	一	一	五〇	九	五	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二、五七
一	一	一	一、二五	七	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	七五

都農	高鍋	三納	杉安	妻原	佐土	福島	廣瀬	次郎	花ヶ	宮崎	折生	大淀	清武	田野	山之	三股
農	鍋	代	安	原	土	島	瀬	別府	島	崎	迫	淀	武	野	口	股
二〇	四七	三	三	九	四	一	四	三	一、三七一	三、六二	一	九	四	一	三	六
一	五	七	九	一	二	一	二	九	一、二七一	三、六七	一	九	四	一	八	三
一	九	一	一	二	一	一	三	一	三、三五	三、三五	一	六	一	三	三	四
一	六	九	一	一	一	一	一	一	二、四九	二、四九	一	七	八	六	一	一
一	九	一	一	二	一	一	一	一	二、三六	二、三六	一	七	一	五	九	三
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一、七六	一、七六	一	一	一	一	一	五
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一、〇五	一、〇五	一	一	一	一	一	七
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一、一〇	一、一〇	一	一	一	一	一	九

小	久	佐	神	中	川	串	西	東	薩	加	南	北	伊	永	吉	日
城	保	賀	埼	原	内	木	市	市	摩	世	多	多	作	吉	利	置
運	田	賀	埼	原	内	木	市	市	摩	世	多	多	作	吉	利	置
炭	田	賀	埼	原	内	木	市	市	摩	世	多	多	作	吉	利	置
陸	田	賀	埼	原	内	木	市	市	摩	世	多	多	作	吉	利	置
運	田	賀	埼	原	内	木	市	市	摩	世	多	多	作	吉	利	置
元	田	賀	埼	原	内	木	市	市	摩	世	多	多	作	吉	利	置
元	田	賀	埼	原	内	木	市	市	摩	世	多	多	作	吉	利	置
元	田	賀	埼	原	内	木	市	市	摩	世	多	多	作	吉	利	置
元	田	賀	埼	原	内	木	市	市	摩	世	多	多	作	吉	利	置

伊	饒	武	鹿	重	加	國	大	山	薩	菱	栗	延	南	土	細	富
集	頭	藏	兒	兒	治	分	隅	野	摩	野	上	岡	岡	呂	島	高
院	石	野	島	富	木	分	横	野	大	野	野	岡	岡	呂	島	高
院	石	野	島	富	木	分	横	野	大	野	野	岡	岡	呂	島	高
院	石	野	島	富	木	分	横	野	大	野	野	岡	岡	呂	島	高
院	石	野	島	富	木	分	横	野	大	野	野	岡	岡	呂	島	高
院	石	野	島	富	木	分	横	野	大	野	野	岡	岡	呂	島	高
院	石	野	島	富	木	分	横	野	大	野	野	岡	岡	呂	島	高
院	石	野	島	富	木	分	横	野	大	野	野	岡	岡	呂	島	高
院	石	野	島	富	木	分	横	野	大	野	野	岡	岡	呂	島	高

早岐	三河	伊萬里	有田	上野	三間坂	武雄	北門	肥前山口	牛島津	大津	西津	唐津	鬼塚	岩屋	殿木	筋原
一八五	一三八	一三五	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六
一八五	一三八	一三五	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六
一八五	一三八	一三五	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六
一八五	一三八	一三五	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六
一八五	一三八	一三五	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六
一八五	一三八	一三五	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六
一八五	一三八	一三五	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六
一八五	一三八	一三五	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六
一八五	一三八	一三五	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六
一八五	一三八	一三五	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六	一三六

直方	新入	筑前植木	木屋瀬	香月	岩崎	新崎	中手	二島	長崎	浦上	島原	多比良町	諫早	大村	彼杵	佐世保
三、三二	九三	二、六六〇	二六	三三	二五	九九三	五〇一	一	六	三	一	一	一	〇	五	三、五〇
二、四八	一	四、〇四	一九三	一五	一	二六三	二七二	一	六	六、六〇	一	一	九	一五	一	二、六三
一、五五七	一	三、一〇	一六	一	一	一、三〇	一	一	六、九六	一	一	一	一	一	三	一、三三
二、八九	一	七、九一九	一〇	一五	一	二九〇	一三、八二九	一	二、二九	四、六三七	七	一	一	一五	一	一、二四八
二、五二五	一	一四、九〇七	一	一	一	三〇四	四、一六八	一	五、六八	九	八七	一六	一八	一	一	三、〇八五
五、四〇八	一	一一、二七七	一五	一	一	四三三	三、三五	一	五、六	一	一	一	一	一	一	六〇九
五、七〇八	一	七、九六五	一	一	一	二五九	四、九七	一	一、九二	一	一	一	一	一	一	八六
一四、九〇五	一	一〇、七三五	一	一	一	一五	二、八一	一	一、〇三	一	一	一	一	一	一	六

平	恒	天	道	長	尾	白	井	大	隈	下	山	上	山	中	泉	赤	池	金	田	堀	川	方	城	纒	田	伊	田	後	藤	寺	行	起	南		
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一		
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一		
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

第四章 運炭 第三款 陸運 八五

本	洞	藤	柵	勝	野	菅	牟	桐	野	小	竹	新	多	壺	頭	目	尾	幸	袋	伊	須	二	瀬	鮎	田	炭	坑	芳	雄	上	緒	飯					
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一				
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一		
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

第四章 運炭 第三款 陸運 八四

行	荊	曾	城	豐	犀	油	夏	香	庄	添	大	川	池	船	宮	大
橋	田	根	野	津	川	原	吉	春	田	任	崎	尻	尾	床	敷	
四、九〇四	三七、一九二	三八三	六、五九四	一六七	六七九	一〇七六	四四	一〇七六	四四	二四	二、九九九	七九	四五四	三、八九八	四七	一
四、四〇八	三七、三三三	五二八	五、四八七	一三三	七〇七	一五	一八二	九六一	一八二	二四	三、四三	七三五	一、四二〇	五、六六九	一四四	一
四、六一九	三三、四七八	六八四	七、〇三八	一一一	五八五	一六六	一〇〇	一六六	一〇〇	六四	五七八	一五〇	四、二八一	七五	一	一、五〇五
四、一四六	五、六五八	六〇二	四、九〇三	一三〇	五六六	九	三三三	三〇三	三三三	七二	一、〇八四	二四	五、四八	三〇	三九	一、五〇五
四、〇七九	四、六六八	一、〇〇三	六、三三五	一五三	四〇九	七八	一六六	六五一	一、六六五	四九九	一、六三三	一、四三七	四三六	五五	一、五〇五	一、五〇五
四、五二二	四、五五八	九七三	五、七三九	四二	三九	一	八七五	三六三	三六三	五〇	三、七八〇	八二一	四三六	五九一	一	一、五〇五
三、八六二	五、五五五	六六二	五、四三二	一八	二〇六	一	六〇	四〇〇	四〇〇	八五	二、三三七	一、〇四七	六三三	二六二	一	一、五〇五
三、六八四	四、二二三	七〇九	八、七五	一〇八	三四一	三四	一、八七二	二七三	二七三	一〇九	四、四〇三	六三三	一	七五	一	一、五〇五

新	田	原	椎	田	松	江	中	津	大	今	豐	柳	豐	字	橋	立	中	杵	杵
橋	築	町	八	幡	石	香	築	町	八	幡	石	香	築	町	八	幡	石	香	築
二九五	一、〇三三	一三五	一四、五五九	一、九四〇	二、三三七	三、四一〇	六、一〇六	二、八八六	八七	三、二九八	九七	六七三	三、六〇三	五六	一、三三九	八〇三	六五七	三三〇	
二五一	八七九	二三〇	二、四六九	一、八六六	二、二二〇	四、五二五	三、四三二	四九二	二、六七七	三、三七一	六九二	一〇、九六一	六三三	八九五	九四四	六五七	三三〇	三三〇	
五六六	七五二	二四三	一一、七〇四	二、五六六	一、九四六	三、四三三	五、五四九	三、四七八	八七三	三、三七二	四九	一七六	一〇、九六一	五八三	五三七	三三〇	三三〇	三三〇	
六六七	一、〇五五	二二三	一一、六六二	二、二四四	一、六〇二	三、〇九三	四、二七〇	一、七三七	七七八	三、〇一四	一〇二	三六	一一、一〇九	一四一	三四七	一	一	一	
六二七	八六〇	一八三	一四、九〇八	一、九六二	一、五四二	六、一八七	一、一七〇	八五〇	二、五三八	二、五三八	五三	三九七	九、五三七	七四	三三〇	一	一	一	
六六八	八二六	二三二	一五、四七〇	二、〇五一	一、八〇四	五、八八一	一、四一五	一、二八五	二、五七二	二、五七二	三三	六四	九、四九一	二九八	二三四	一	一	一	
四七二	八元	二八二	二、五八二	九四三	一、八三三	五、六三七	一、六四一	八〇〇	二、二七五	二、二七五	四二	四三	一〇、四三三	四六二	二九八	一	一	一	
二〇三	八七七	二二四	一一、五四一	一、六五九	二、一〇六	四、六六二	一、九三三	一、五三〇	二、六五七	二、六五七	二二	八	九、六九九	七六五	三三九	一	一	一	

第四章 運炭

第三款 陸運

Table with 12 columns and 20 rows of data. The columns contain names of locations such as 守江, 奈多八幡, 日山出, 龜川, 別府, 西大分, 大分, 永興, 向原, 小野屋, 庄内, 湯平, 瀧尾, 中判田, 竹中, 犬飼, 三重町. The rows contain numerical values, some with vertical bars. The page number 八八 is located at the bottom right.

Table with 12 columns and 20 rows of data. The columns contain names of locations such as 緒方, 朝地, 豊後竹田, 高城, 鶴崎, 坂市, 幸崎, 下江, 白杵, 津久見, 浅井, 佐伯, 上岡, 下關, 長門一宮, 幡生, 長府. The rows contain numerical values, some with vertical bars. The page number 八九 is located at the bottom left.

田	岩	島	下	德	堀	周	三	大	四	津	德	三	宮	山	湯	小
布						防	田			和						
施	田	田	松	山		宮	尻	道	辻	野	佐	谷	野	口	田	郡
	一	六	一	一	一	五	九	一	七	二	一	一	一	一	一	一
	二	一	一	一	一	五	四	一	四	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	九	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

第四章 運炭 第三款 陸運

嘉	阿	字	字	船	字	日	小	正	重	大	伊	厚	西	岡	下	小
	知	部	部	木			野	明							大	
川	須	岬	新	町	部	出	田	市	安	嶺	佐	狹	市	枝	野	月
三	一	三	二	九	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

三尾福笠西岡倉鹿妹茶港總法津津山
 原道山岡知山敷田尾町井社院川山口山

第四章
運
炭
第三款
陸
運

三	尾	福	笠	西	岡	倉	鹿	妹	茶	港	總	法	津	津	山
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

九三

柳井岩大已橫廣東矢吉甲三鹽矢吉吳八西
 津國浦斐川島島島口口田立次町野浦松

柳	井	岩	大	已	橫	廣	東	矢	吉	甲	三	鹽	矢	吉	吳	八	西
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

九二

池田 大阪 安治川 天満 玉造 桃谷 湊町 天王寺 平野 八尾 柏原 矢野 王寺 吉野 五條 名手 難波

第四章 運炭 第三款 陸運

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十

三石 那波 姫路 和山 飾磨 加古川 垂水 鷹取 兵庫 新川 小瀬 住吉 西宮 神崎 伊丹

第四章 運炭 第三款 陸運

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十

村松揖馬米境根里八由上倉青濱湖鳥用

曾根大上對

第四章
運炭

瀨取山村谷吉井良橋坂兩港子灣屋江瀉

八 一〇四 九 〇 齒 八 一 八 七 〇 金 九 六 一 齒 一 〇 七

第三款
陸運

| 全 | | | | 五 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |

| 八 | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | 八 | | | | | | | | | |

九七

尾崎田崎吹山向日向梅小路京石見濱都野津仁石見久江知出大尖
田崎田崎吹山向日向梅小路京石見濱都野津仁石見久江知出大尖
道社市宮南手田万津田田都路町崎田崎

三 八 一〇八 八 三 元 七 〇 元 三 齒 七 〇 一 二 六 一 五 一 五

| | | | | | | | | | | | | | | |

| 六 | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |

第四章
運炭
第三款
陸運

九六

第四章 運炭 第三款 陸運

加山相津龜水佐上西伊畝櫻丹京放住星
佐登田可山山口具町手野傍井市終出道田

| | | | | | | | | | 五 | | 九 | | 五

九 六 | | | | | | 五 二五 | | | | 六五 | |

| 四 | | | 五 三 六 二 五 全 九 七 七 三 | | |

| 三 五 | | | | | | | | | | 五 | | |

| | | | | | | | | | 八 | | 三 | 五 |

九九

| | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | |

| | | 四 七 | | | | | | | | | | | |

第四章 運炭 第三款 陸運

郡奈上字稻伏丹二山綾海福八江豐濱岩
山良狛治荷見口條家部鶴山鹿原岡坂美

| 一〇 | 七 | | | 三 三 二五 〇 | 〇 | | 七 八 八

五 六 | 三 六 | 五 四 | | | 九 | 三 四 | |

| 三 四 六 七 | 七 | | | | 八 六 二 | |

| | | 五 五 | 三 六 | | | | 二 六 | | |

| | | | | | 三 八 | | | | | | | |

九八

| | | | | 〇 | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | 二五 | | | | | |

| | | | | | 四 | | 九 三 | | | | | |

小松 金澤 西金 寶達 高岡 伏木 富山 笹津 東瀨 滑川 魚津 三井 下立 人善 親知 青海 黒井
 不立 善口 津市 川津 瀨津 山木 岡達 澤澤 松澤 金澤 西金 寶達 高岡 伏木 富山 笹津 東瀨 滑川 魚津 三井 下立 人善 親知 青海 黒井

第四章 運炭
 第三款 陸運

一〇二

四日市 富田 桑名 大津 濱大 近江 能登 長濱 刀根 敦賀 三宅 小濱 武生 鯖江 大津 福井 寺井

一〇〇

池野 美濃赤坂 岐阜 尾張一宮 萩原 津島 名古屋 熱田 武豐 安城 岡崎 豐橋 舞津 濱松 中井 袋井

第四章 運炭 第三款 陸運

池野	美濃赤坂	岐阜	尾張一宮	萩原	津島	名古屋	熱田	武豐	安城	岡崎	豐橋	舞津	濱松	中井	袋井
三〇四	三〇七	五	七六	八	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
三〇	六四	一〇	二六	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
三	四	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
三	七	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
三	七	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
三	七	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
三	七	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
三	七	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
三	七	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

1011

城岡 新瀉 高田 稻山 洗馬 瑞浪 出津 多治見 土岐口 下石 駄知 大曾根 千種 尾張瀬戸 醒ヶ井 近江長岡 大垣

城岡	新瀉	高田	稻山	洗馬	瑞浪	出津	多治見	土岐口	下石	駄知	大曾根	千種	尾張瀬戸	醒ヶ井	近江長岡	大垣
一〇六	一五	七	九〇	八三	三九〇	一四三	二〇七	四七	三	五三	三〇	三	三	三	三	三
一〇	一〇	一〇	四三	九三	二六二	一〇九七	二四	三	三	三	三	三	三	三	三	三
一〇	一〇	一〇	七三	四七	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
一〇	一〇	一〇	五	三	四	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
一〇	一〇	一〇	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
一〇	一〇	一〇	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
一〇	一〇	一〇	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
一〇	一〇	一〇	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
一〇	一〇	一〇	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

1011

新池葛板高隅南植淺曳北龜船千八日銚
 宿袋生橋川濱住草船住有橋葉街向子
 千 千 田 十

第四章
運炭
第三款
陸運

1,000
 1,070
 105
 105

一〇五

堀新藤用江富三國早鎌橫東大品沙大惠
 内ノ川枝宗尻士島津川倉濱奈神川森川須
 比須

第四章
運炭
第三款
陸運

104
 104

一〇四

五島	鶴田	足尾	一ノ宮	前橋	大井	輕澤	大宮	田端	上野	下野	四高	富士見	甲府	上野	八王寺	飯田町

明治二十四年 陸運送出高 對する割合

土崎 一、三三三、六六一、三六五、五五五、二五七、九七二、一〇六、八六一、四三三、六三一、四三九、七三二、二六八、九二二、三三九、六三六
 船川 一、三三三、六六一、三六五、五五五、二五七、九七二、一〇六、八六一、四三三、六三一、四三九、七三二、二六八、九二二、三三九、六三六
 合計 一、三三三、六六一、三六五、五五五、二五七、九七二、一〇六、八六一、四三三、六三一、四三九、七三二、二六八、九二二、三三九、六三六

○下關以下は九州以外の驛名なり。
 ▲陸運送出高累年比較 筑豊炭の陸路鐵道に據る運搬は、前期の如く明治二十四年より實行し爾來年々非常の進歩を以て増額せり、今其送出高の累年比較を試み、尙總送出高に對する割合を示せば左の如し。

明治廿四年	陸運送出高	總送出高に對する割合	明治廿二年	陸運送出高	總送出高に對する割合
同廿五年	三二、九〇二	〇、三五	同廿三年	二、四四、七二六	六、九三
同廿六年	一六九、二〇六	一、六三	同廿四年	三、一〇三、二八一	七、五九
同廿七年	四〇八、四七〇	三、三	同廿五年	三、六九七、三二六	七、六六
同廿八年	八三〇、二八四	四、九二	同廿六年	三、九六三、四五五	七、八六
同廿九年	一、三三一、八二七	五、七	同廿七年	四、三三〇、八六九	八、一九
同三十年	一、五〇六、三四三	六、四三	同廿八年	四、六〇九、五六四	八、五八
同卅一年	一、九〇一、二九九	六、九七	同廿九年	四、五七二、一四〇	八、三八
第四章 運炭 第三款 陸運	二、二六四、九四六	六、六六		四、九四七、六八一	八、二〇
					一〇七

同 四十年	五、三〇〇、八〇〇	八、三	同 廿五年	八、五六六、四五八	九、五〇
同 四十一年	五、八三六、七九四	八、四	同 廿六年	九、六六一、三七六	九、四四
同 四十二年	六、〇九九、七八七	八、八八	同 廿七年	九、七七四、九四六	九、四三
同 四十三年	六、二六四、〇四九	八、八六	同 廿八年	一〇、七二一、四四二	九、四七
同 四十四年	七、一六八、二三七	九、〇四	同 廿九年	一〇、〇〇〇、二〇四	九、五七
同 四十五年	七、九六六、五三〇	九、一九	同 三十年	九、二五四、〇八八	九、五九
大正元年	八、七七五、三四三	九、二〇	同 三十一年	九、八四四、九八三	九、六〇
同 二年	八、八五、二八五	九、三四	同 三十二年	一〇、一六四、六一九	九、七四
同 三年	七、五七、一三〇	九、四八	同 三十三年	一〇、九五〇、七九八	九、八三
同 四年					

第四款 總送出高内譯類別

筑豊炭の水陸總送出高は組合創立の翌年、即明治十九年に於て三十萬九千八百九十九噸に過ぎざりしもの大正八年には千百三十萬六千六百〇五噸となり今此送出高を各郡別、送出先別、送出炭種別の三種に區分し、順次之を表示すれば左の如し。

▲郡別累年比較 筑豊五郡總送出炭を郡別にして累年比較を試むれば左の如く、最近統計に就ては嘉穂第一位を占め、田川、鞍手、遠賀、企救の各郡順次之に次ぎ、其十九年以後送出高の合計は、田川、嘉穂の二郡稍相同じく、鞍手、遠賀之に次ぎ、企救郡最も少額なり。

組合炭山郡別送出高累年比較表 (半季統計表に依る)

年次	遠賀	鞍手	嘉穂	田川	企救	合計
明治十九年	四三、七二〇	一四二、七二二	八三、六三八	三九、八三九	一	三〇九、八九九
同 二十年	四四、六八〇	一八九、三五一	一二四、七六六	六一、二七五	一	四一〇、〇八二
同 廿一年	八七、四三三	二二、九四九	一五、九九六	九五、二六〇	一	五五二、六七
同 廿二年	一三二、九六七	二二三、〇六五	二九、八一	九五、二三	一	六六九、九五六
同 廿三年	一三八、八五七	二五六、〇一九	二七九、七七九	一二、九三六	一	七七七、五九一
廿四年筑豊興業及九州鐵道石炭運搬開始						
同 廿四年	一五七、七四九	二六二、四六三	三三、七四三	一八六、四五六	一	九二〇、四一一
同 廿五年	一三二、七四四	三三七、三〇五	三九、九四九	三九、七七九	一	一、〇三九、七七
同 廿六年	一四〇、三七四	四二四、二六一	三七三、二五九	一九七、一八四	一	一、二三四、〇七八
同 廿七年	一七五、七三五	五八二、四三五	五四二、五〇二	四一〇、二三五	一	一、七二〇、八八七
同 廿八年	二二三、〇六二	七九六、〇四〇	六八一、六六一	四四五、八七三	一	二、一三六、六六
廿八年豊州鐵道石炭運搬開始						
同 廿九年	三三八、三三〇	八三三、三三三	六六六、六六五	六四四、二四五	一	二、三四二、五二二
同 三十年	三〇〇、〇〇〇	八九五、〇一八	六六六、一六五	八九五、二二九	一	二、七六六、三三三

第四章 運炭 第四款 總送出高内譯類別

同卅一年	五〇、二六	九九八、一二二	七九八、五〇一	一、〇八三、九四六	—	三、四〇〇、七九四
同卅二年	五二、三三	一、〇一七、九〇一	九六、六七八	一、〇一八、〇八三	二四、三七八	三、五三三、三五〇
同卅三年	五二、五七一	九九三、八四六	一、〇六〇、五七七	一、四五〇、八八〇	六〇、四四〇	四、〇八七、二五四
同卅四年	六二八、五四一	一、二九一、四二四	一、三五八、三三三	一、五四〇、六四七	五二、七〇七	四、七六一、六三三
同卅五年	六三〇、二六九	一、四五九、一一一	一、三六六、八八六	一、五三三、一九九	六四、一六三	五、〇四三、五四八
同卅六年	五九八、五三三	一、五七六、五三四	一、四九七、八二〇	一、四八四、二五三	七、五六五	五、一六四、六八四
同卅七年	五五五、八八二	一、七三三、五三八	一、四六四、五四七	一、六三八、五七五	四三、九九七	五、三六六、五一九
同卅八年	五五五、〇三九	一、六三九、〇八四	一、四六四、六四三	一、七七五、一一三	六三、六四九	五、四七七、五二八
同卅九年	六九六、四三九	一、四六八、三五七	一、八七九、三七九	一、九五五、〇七六	三九、七三〇	六、〇三六、九六一
同四十年	七七〇、七三八	一、六四一、〇九一	二、一三三、五八五	一、八九六、九九七	二二、〇七二	六、四六二、四六三
同四十二年	八五四、〇二八	一、六七〇、九五四	二、三三三、四三七	二、〇三〇、八八五	一五、三三三	六、九〇三、六三六
同四十二年	八七六、〇七二	一、五九九、六五六	二、二七三、四三〇	二、二二〇、四七一	—	六、八六九、六一九
同四十二年	八七一、五三四	一、五九〇、一九一	二、三七七、八〇三	二、二三四、八四四	五、四四四	七、〇六九、八一六
同四十四年	九八七、三〇四	一、七九三、四四五	二、六六〇、八五〇	二、四七〇、七八五	一四、三九八	七、九二六、七八二
同四十五年	一、〇八〇、二六三	一、九三七、七三六	二、七四七、四五二	二、八九一、六九六	一四、七六八	八、六七一、九〇四
同四十五年	一、三七一、五八一	二、〇九八、二〇五	二、九四一、六二五	三、一一〇、三四三	一三、〇六八	九、五三四、八三三

同 三年 一、二六八、八九二 二、〇九八、七三七 三、〇〇二、五九〇 三、〇六一、九七六 一七、七七〇 九、四四九、九六五

同 四年 一、〇三六、〇一一 一、七三三、〇二六 二、六〇一、八七〇 二、五五四、〇四七 二八、一五八 八、〇〇三、一三三

同 五年 一、二三五、〇六一 一、八五九、三〇三 三、〇四七、七二〇 二、八七五、一五五 一九、七〇〇 九、〇三六、九二八

同 六年 一、五五四、八八四 二、〇〇八、八〇六 三、四六二、一四二 三、二〇八、五八〇 二七、三七七 一〇、二三二、七一九

同 七年 一、五六六、三四六 一、八七二、〇四九 三、七三六、六五四 三、二九、六五四 五三、〇〇三 一〇、三七七、七四六

同 八年 一、六三七、四一五 一、九八九、四六五 四、一一〇、八三三 三、五二七、六〇七 五一、二八七 一一、三〇六、六〇五

同 九年 一、三三五、七〇〇 一、七七九、四三〇 三、九〇三、二三八 三、四〇五、四七三 二九、九九六 一〇、四三三、七七七

同 十年 一、二六一、八三九 一、七〇九、七三三 三、五〇八、七七九 三、二六六、三八七 二九、四 九、六四七、〇二二

同 十一年 一、四〇六、一四九 二、一一一、八〇九 三、七〇四、九五〇 三、〇三三、四七〇 一 一〇、二五六、三七八

同 十二年 一、三六九、二六六 二、二〇五、三七八 三、七五六、〇二二 三、一〇一、四二二 二、五五四 一〇、四三四、六二二

同 十三年 一、四三四、一三六 二、四三三、一八三 四、〇七二、七七七 三、二〇九、八二二 六九六 一一、三三九、六〇四

▲送出炭着地別累年比較 筑豊送炭を着地別に之を見れば、最近統計は若松港其大部分を占め鐵道各驛、門司、小倉、鐵道用、宇島、芦屋之に次ぐ、尙其十九年以後の合計と、着地別累年増減の數量とを熟覽せば、自から市場の大勢を窺ふべきものあるべし。

組合炭山送出炭着地別累年比較

第四章 運炭 第四款 總送出高内譯類別

年次	松	門司	宇島	芦屋	小倉	鐵道各驛	鐵道用	合計
同十九年	三〇〇、七七七	—	—	九、一九二	—	—	—	三〇〇、七七七
同二十年	三九六、七七七	—	—	一三、三六五	—	—	—	四一〇、〇八二
同廿一年	五三三、九六七	—	—	一七、六六〇	—	—	—	五五一、六二七
同廿二年	六八八、八五二	—	—	五、一〇四	—	—	—	六六九、九五六
同廿三年	六九四、二七〇	—	—	九三、四六四	—	—	—	七八七、五九一
同廿四年	七四四、八三三	—	—	一九二、〇〇五	—	—	—	九二〇、四一〇
同廿五年	八〇二、七七六	—	—	一九三、七四八	—	—	—	一、〇三九、七七七
同廿六年	一、一六〇、五二七	—	—	五三、〇七二	—	—	—	一、二三四、〇七八
同廿七年	一、五三八、五三七	—	—	五八、一九八	—	—	—	一、七二〇、八八七
同廿八年	一、九〇三、〇〇九	—	—	八六、五七六	—	—	—	二、一三六、六六六
同廿九年	二、〇七四、四〇一	—	—	二、二九八	—	—	—	二、三四三、五六一
同三十年	二、二〇四、六六六	—	—	一、二六六	—	—	—	二、七三六、三四二
同卅一年	二、三五六、三五三	—	—	三三、九一六	—	—	—	三、四〇〇、七九四
同卅二年	二、七六九、〇六〇	—	—	三三、三五七	—	—	—	三、五五三、三五〇
同卅三年	二、八九八、八六七	—	—	八八、八二二	—	—	—	四、〇八七、二五四
同卅四年	三、二八二、二九八	—	—	一七六、四三四	—	—	—	四、七六六、〇三三

同卅五年	三、三三九、七四三	—	—	一、二四六、八三五	—	—	—	五、〇四三、五四八
同卅六年	三、七五五、四〇一	—	—	一、〇九二、二六六	—	—	—	五、一六四、六八四
同卅七年	四、〇六二、一五一	—	—	九六二、〇八五	—	—	—	五、三八六、五二九
同卅八年	四、二〇一、四二〇	—	—	七九六、二七八	—	—	—	五、四五六、五八八
同卅九年	四、四七二、六九五	—	—	九五〇、三八六	—	—	—	六、〇三六、九六一
同四十年	五、〇四六、九六六	—	—	九〇四、七三六	—	—	—	六、四六二、四六三
同四十年	五、四七〇、六四六	—	—	九四四、〇四七	—	—	—	六、九〇二、六三六
同四十二年	五、三四六、〇三三	—	—	九八八、一一二	—	—	—	七、二二二、六六九
同四十二年	五、四三四、一五一	—	—	九三七、三七七	—	—	—	七、〇六九、八二六
同四十四年	六、二八三、六七四	—	—	九九八、一六二	—	—	—	七、九二六、七八二
同四十五年	六、九六九、九六八	—	—	一、〇四九、七八九	—	—	—	八、六七二、九〇四
大正元年	七、五九三、五〇八	—	—	一、〇六四、四九七	—	—	—	九、五三四、八三三
同二年	七、五三七、三五七	—	—	八九二、九一九	—	—	—	一〇、〇三二、二二二
同三年	六、四〇二、〇一一	—	—	六〇六、四八一	—	—	—	八、〇〇三、一三三
同四年	七、〇六一、〇三三	—	—	六三二、八〇七	—	—	—	九、〇三六、九三八
同五年	七、四五六、八九八	—	—	八三九、六三四	—	—	—	一〇、三三一、七三九
同六年	七、四四八、八八九	—	—	八六九、七〇二	—	—	—	一〇、三七七、七四六
同七年	七、四八八、八九九	—	—	—	—	—	—	—

同八年	八、〇七、四三五	九〇一、四七六	一三六、六三九	六、二六八	五七、八九一	一、四五二、二六六	二二五、六四〇	一一、三〇六、六〇五
同九年	七、三六、九七一	八七三、五八一	一〇九、九六四	四、七四九	四〇一、七六七	一、四三七、〇八六	二四九、六五九	一〇、四五三、七七七
同十年	七、〇四一、五二〇	六七七、八六〇	七〇、五八八	四、二八六	四二二、六〇〇	一、二二二、三七九	二二七、七四八	九、六四七、〇二一
同十一年	七、五七三、七八	七四五、四九八	八四、四九五	五、〇六七	三八〇、二七二	一、三三五、五四九	二四一、七九一	一〇、二五六、三七八
同十二年	七、五五七、二四四	七四九、三二二	九八、〇五一	四、三二〇	三七三、九一九	一、三六五、五四五	二八六、三三〇	一〇、四三四、六三二
同十三年	八、一六九、〇七四	七五五、〇七	七五、二四八	二、四六七	四〇二、三四〇	一、三七一、七〇一	三三三、六八七	一一、一三九、六〇四

附記 小倉關數量は大正四年迄は水運送炭のみを掲げ大正五年は東小倉及水運送炭、六年以後は水運送炭中止に付東小倉送炭のみを掲ぐ。

▲炭種別累年比較 筑豊送炭を、塊炭、粉炭、切込炭、硬炭、燧石、無煙炭、骸炭、石殻の八種に類別すれば左の如し、累年各種別の増減と、十九年以後の合計とを熟覽せば、又以て斯業の内容を見るの資たるものあるべきを信す。

組合炭山送出炭炭種別累年比較表

年次	塊炭	粉炭	切込炭	硬炭	燧石	無煙炭	骸炭	石殻	合計
同十九年	一七五、三四四	一九五、六元	—	—	—	—	—	—	三〇九、八九九
同二十年	二二二、六三三	一三三、五四一	—	—	—	—	—	—	四二〇、〇八三
同廿一年	三七一、七六九	一九八、七六六	—	—	—	—	—	—	五五一、六三六
同廿二年	五七、一五一	九九、〇六五	—	—	—	—	—	—	一五六、二一六

同廿三年	五二二、〇〇三	八八、四四五	六、八七三	四、二六三	四八、九六二	三〇三	一、五四二	五、二〇〇	七七七、五九一
同廿四年	六五五、四九七	一二六、八三八	八四、五三三	六、五七七	四三、四三一	—	一、七九五	一、七五二	九二〇、四二一
同廿五年	六二七、四四四	二三八、六九〇	一一六、九九九	一一、四八九	五二、六四七	—	一、九八〇	一、五二八	一、〇三九、七七七
同廿六年	六九二、七〇五	二七三、三七四	一九一、二三四	二〇、一四八	五三、八二三	二五六	一、九四八	一、七二〇	一、三三四、〇七八
同廿七年	九四三、三四九	三五三、〇四一	三五七、二五	一一、一五〇	五〇、〇四六	—	三、七三五	一、四五二	一、七〇、八八七
同廿八年	一、〇二二、五七七	五二八、七三七	四三〇、九九二	一一、二六三	五四、九一八	—	六、八一九	一、三四〇	二、一三六、六二六
同廿九年	一、三二〇、九四六	五八一、三四	三六九、六八二	一〇、五九三	五五、二二八	二、四三六	二、三七五	一、〇六八	二、三四〇、五六二
同三十年	一、二九二、八三一	五七七、五五五	七〇、七五五	三八、〇四二	八〇、二六九	一〇、六三七	一四、五四六	一、七三七	二、七六六、三四二
同卅一年	一、六四六、四二五	六三八、八七六	一〇四四、二六九	五、六八一	五一、四八二	八、七七七	四、四三八	八四六	三、四〇〇、七九四
同卅二年	一、七四四、五三六	七八九、〇五一	九五五、七九五	六、六八〇	五三、一四三	七、一九三	五、九三三	一、〇三九	三、五三三、三五〇
同卅三年	二、一五五、九二八	八三六、九四一	九七四、八四	一五、三六二	一一五、八二四	四六九	六、八七三	一、〇三三	四、〇七、二五四
同卅四年	二、三三九、八五八	一、〇三六、〇四一	一、二八五、八九一	二〇、一六五	七二、六〇七	五一八	五、四四四	一、〇六五	四、七六二、六三二
同卅五年	二、二七九、一九六	一、〇五七、五四一	一、五八八、四三〇	一八、〇四三	九二、二三五	五二七	六、四七二	一、一二二	五、〇四三、五四八
同卅六年	二、〇一〇、〇三一	一、三五二、一四一	一、六三三、七七一	四三、〇三二	一一四、七九九	一、六五一	八、四二六	八四〇	五、一六四、六八四
同卅七年	二、〇四五、七一九	一、三九五、五五一	一、七三二、八九六	七、七四一	一一六、四四七	一〇、一五四	七、三四四	六六七	五、三六、五二九
同卅八年	一、八八三、九三三	一、三三八、三九六	二、〇二六、九八〇	六二、二八九	一二六、九四四	二八、四五〇	一九、七六〇	七九六	五、四七五、五二八
同卅九年	一、八五一、四三二	一、四四五、三四二	二、五五六、三五	三〇、六三八	一一二、四三二	三七、二七	一三、一九一	三九二	六、〇六、六六一

同四十年	二,〇四九,九九〇	一,六四〇,六八八	二,六三三,七三三	四二,七二六	七七,七四一	三四,一八二	一八,七七七	六七七	六,四六三	四六三
同四十年	二,〇六四,七〇八	一,八〇三,二八八	二,八四八,三三三	五二,六七一	七〇,三八五	四五,五九四	一五,八四〇	八三七	六,九〇二	六三六
同四十年	一,八七三,八四一	一,九八三,〇五八	二,八三六,九〇三	三二,九三五	六九,七〇九	五五,〇一九	一八,二九四	八八八	六,八六九	六一九
同四十年	一,九二六,六四五	二,一九〇,七八〇	二,七七七,二九〇	三三,三九九	八六,八三三	六六,九四八	一六,七九〇	一,三三一	七,〇六九	八一六
同四十年	二,一七三,七三〇	二,五七二,五五一	二,八九〇,七九一	六五,二二〇	一二五,七四四	七四,三四七	一八,二四五	一,一六四	七,九六六	七八二
同四十年	二,四〇三,四五九	三,〇三七,四七二	三,八七六,四三三	一六三,八四九	九五,〇一九	七八,九五七	一五,六八三	一,三三八	八,六七一	九〇四
同四十年	二,八四〇,一三二	二,九六三,〇九三	三,二八三,八〇九	二三〇,四七五	一三三,四三九	八五,三九五	一六,八三四	一,六七〇	九,五三四	八二二
同四十年	二,六六三,八〇九	二,八七六,七三三	三,五三七,五五三	二〇一,七四五	八〇,五八〇	八一,九四九	一五,三〇五	二,三〇三	九,四四九	九六五
同四十年	二,二七八,五三三	二,五九一,三三三	二,八九六,四三七	一三六,〇一一	九四,一二五	八〇,五三四	一一,八三五	三,三三四	八,〇〇三	一三三
同四十年	二,五九九,五五五	二,九五七,八九〇	三,〇三二,九五二	二五九,七二六	一〇五,二二五	九一,二四一	一八,〇五九	三,三〇一	九,〇三六	九二八
同四十年	二,七二二,五六六	三,一三九,〇五八	三,七九五,八四五	三八七,三二〇	九五,五三三	八〇,七六六	一六,三三九	二,四七三	一〇,三三二	七二九
同四十年	二,六三七,五九九	三,一三五,八〇五	四,〇三二,二二〇	三六五,三九三	一一三,七二四	八一,三九九	一九,八九九	二,八四七	一〇,三七七	四六六
同四十年	二,八四一,〇四八	三,五八一,三三〇	四,四七七,一〇八	三三四,六三九	九八,三二六	八一,七六五	一,〇六二	一,三六七	一一,三〇六	〇五五
同四十年	二,八三三,六三三	三,三六四,五八三	三,九八五,一九二	一三九,七三三	五五,七五六	七三,〇六七	二五三	一,六〇八	一〇,四五三	七七七
同四十年	二,七八八,三三四	三,三九八,八一三	三,九二二,三三九	一三〇,五二二	七二,七八七	六二,二四六	二,三〇二	九,六四七	〇三二	二二二
同四十年	二,九七六,五一二	三,五五五,四九三	四,八二二,〇五八	九〇,三三二	九一,八五一	六七,九〇四	—	二,三三六	一〇,三五六	三七八
同四十年	三,〇九八,七九八	三,七九七,四二一	四,三三二,一一二	三四三,三〇〇	一一八,七四七	七〇,〇九九	—	二,一四三	一〇,四三四	六三二

一一六

同十三年 三,一六五,九五三

四,二三三,三五三 三,五五七,二六二

三,七四三 九一,五九五 七五,八二四

一,九〇三 一一,三九九,〇六四

第五款 炭坑別總送出高 (最近八ヶ年間比較)

大正三年以後八ヶ年間、組合各炭坑別の送出高を比較すれば左の如し。

鑛	山名	大正十三年	大正十三年	大正十三年	大正十三年	大正十三年	大正十三年	大正十三年	大正十三年	大正十三年
大	之浦	一,二四三,二六	一,四四三,〇二六	九一〇,五〇〇	七四九,五八九	七四二,五四四	七九六,八五七	七五〇,五五五	九二二,一〇三	—
三	井田川	八五〇,〇三三	九〇三,一一三	八〇八,三二二	九〇五,九四三	九四二,四八七	八六九,五〇八	八七七,九二四	一,〇〇六,八四五	—
大	飯塚	五五七,五九四	四三三,五三九	五二一,九九七	三八三,〇九一	二七,二三八	三〇六,四四七	二三四,〇六六	一六九,九九五	—
新	飯塚	五〇五,八三三	四二〇,一七一	三三七,〇七五	三〇八,〇四四	三三,四五五	三四七,〇三九	二八六,九〇七	三三二,八〇〇	—
三	井山	四四九,九〇九	四〇三,六六二	四二〇,二二四	三八〇,一四〇	四〇〇,九三二	三四六,五八一	三四一,三八六	三四〇,九九八	—
新	飯塚	四四九,九〇九	四〇三,六六二	三七二,〇四二	三三二,五六六	三六三,四五七	三七七,五七八	四一一,八七〇	四七七,七九二	—
三	井山	四四三,三三七	四一七,〇五〇	四〇九,五〇四	三九八,二二九	四一七,九七〇	四〇四,七六二	四二〇,一七四	三九四,三六五	—
三	井山	三三七,一七六	三三九,四三三	二九九,九八二	二四〇,三三二	二五五,五四五	二四五,三七〇	二四九,六五七	三二三,四七四	—
中	木屋	三三三,一〇六	三三三,七二〇	三三六,六二四	二〇六,一四七	一五九,二四三	一七二,五三七	一七二,二八二	七二,三四	—
中	木屋	二八四,三三六	二〇五,八一	二二六,〇七六	二〇三,九一七	一七七,二五五	一七二,二六六	一四六,二四〇	一四三,六三九	—
方	城	二七三,八〇六	二三四,三〇五	一七三,二〇二	一八二,七二九	一八四,〇八一	二〇三,九八二	一九〇,三〇七	二〇三,六九九	—

大	辻	三六〇、七二五	二五九、三五四	二六九、五九六	二五五、九七七	二七六、三七四	三六六、七一九	三〇七、〇八八	三三一、五九一
明	治	二五〇、一一二	二二一、一〇三	二三八、六七八	二三八、八七	二四四、六四一	二八〇、九四〇	三七二、〇九八	四一七、四四五
日	尾	二五、四九九	二〇八、九二五	三三、六六四	二四八、六八六	二六三、一四〇	三二二、六五一	三三、八三〇	三七八、九〇四
芳	雄	二二、〇七八	一九一、五二二	二〇九、七九	一九七、三八〇	二二〇、一八	二二七、二六一	二四三、二二三	二六五、八九九
赤	池	二〇七、四〇五	一五〇、六三七	一一五、九九三	一一〇、九三〇	一一二、〇〇〇	一一三、五四〇	一〇一、四七一	一一〇、一七〇
上	田	一九九、三三二	一七八、四九九	一七九、二六三	一七八、〇六〇	一九四、〇五五	一六四、五九九	一二八、三三六	一二四、七三五
金	田	一七五、五五四	一六六、九七八	一八二、八二五	一六七、二四八	一四三、四七七	一六九、五四六	一九五、九〇四	二二七、七二二
平	山	一七〇、四九五	一七八、八三二	二二六、三三八	一六四、二八三	二四八、一九九	三四〇、四二〇	一六八、〇七四	一〇四、二九五
峰地(岩瀬ナ含ム)	山	一七〇、二七八	一六五、八四	二二五、〇八一	三三八、五七九	四六八、六四六	四四二、〇五二	五二六、六〇一	六二一、〇四七
高尾二嶺	高尾三嶺	一六六、一七九	一九五、二六一	一四三、五四六	一六、五六八	一三四、四七一	一八四、三〇六	一九五、〇五二	一三四、五六五
起行	小松	一六二、八六三	二二七、九八七	八八、八〇八	六二、五〇三	一四一、五八四	八五、七四二	一四、一四二	五、九〇二
漆	生	一四九、三六四	二二、〇四八	二二八、五三〇	一六、二九一	二四、七六五	六五、五七五	一三、四四六	三、四三九
下	田	一三八、〇六〇	二〇八、七七六	九四、七六五	二八、〇九九	一三三、五八二	二〇、七七八	八八、七〇三	八七、九〇四
赤	坂	一三七、一七五	二二、五四四	九七、三六〇	九三、八五八	八〇、七〇三	八九、一五六	九〇、一六九	八三、三五九
御	徳	一三六、六四七	一五、二九五	一一五、一三八	八五、八〇七	八八、二七一	一三、〇七二	九一、三四八	八五、一三二
大	根	一三、四八五	二九、八八〇	一三七、五三三	六三、五二二	四一、七七九	五四、六九九	六〇、九五三	七二、六六二
大	土	一〇七、八六〇	五五、七〇四	三五、五六八	四、三九六	—	—	—	—

海	老	一〇一、六八八	七七、五七〇	七三、六八三	六八、二八四	六六、二九〇	八二、一七三	五三、六二九	三四、五四四
吉	隈(元下日井)	九五、五二六	八一、五五八	六七、四七八	六〇、三五六	八四、六五三	一〇〇、八九〇	八三、一六一	九五、八四一
鴻	之	九二、八七一	七七、四三九	五四、七一	五六、三三二	五九、五五六	四〇、八七八	一一、五三五	六、七五九
神	ノ	八九、七四六	八〇、一七五	七三、七九三	四〇、二二五	三六、六七四	九八、九三〇	一五二、八九二	九五、一七五
豆	浦	八二、六二〇	七五、八七七	八五、七五三	一〇〇、三五九	二二、三三二	一四一、〇二二	一六七、三三八	一六五、三八八
大	田	七八、四九九	八九、五三三	一〇〇、〇七三	八〇、八八三	六八、八九九	一四、三五〇	一四〇、〇〇〇	一四六、二二二
川	崎	七五、九九九	六六、〇三二	七三、七一	八二、六二九	一一六、四五五	一〇八、一九二	七五、三〇四	六五、六九三
綱	分	七四、〇一〇	四三、三七七	三五、九〇四	四八、五〇六	四四、六〇五	三七、七六六	四一、九〇三	三〇、七〇〇
新	手	七三、八六六	五三、〇一九	七三、九八七	八四、八七一	九三、三九二	一〇三、三二四	一一二、二三五	一一七、二七七
島	廻	六九、四七七	六二、二七二	五七、七四	五四、三三六	六二、八七二	一〇三、二四	六三、二七六	六七、六五二
高尾(高松ナ含ム)	田	六三、七五八	一〇四、八三七	一三六、三三四	一四〇、五三三	二七、四七七	一六、三四三	一三九、七五〇	一五五、三二五
相	田	五三、〇四五	五二、四三二	四三、七四	四九、二一六	四九、二二四	五一、五九八	五二、四三三	四四、四八六
高松二坑(元鳳吉田)	崎	五三、〇四一	二二、三五二	三四、一〇〇	二二、七七	一五、五二八	二七、〇六〇	三、一四〇	三二、〇三三
岩	崎	五、五五四	六五、三〇六	八二、七二四	六二、一八〇	八五、八二五	一〇八、六一一	一三、一三六	九五、二〇四
鎮	西	四八、一四五	三四、七〇二	二〇、四〇一	一八、八〇一	一五、七五八	三六、四〇七	三六、七七九	二八、五三一
宮尾(仲津原ナ含ム)	水	四六、九九七	七七、九七〇	九五、九二	九一、一七九	九五、二六六	一〇〇、七七九	九一、二五五	七五、三四三
泉	山	四六、二四五	三六、八〇三	五二、二四五	五二、二六六	六〇、〇四四	六九、四六三	七八、六八	六四、一六

第四章 運炭

第五款 炭坑別總送出高

旭	熊	本	高	金	豐	大	第	三	香	垣	岩	日	新	貴	日	中
(元西川旭)	添	江	繁	丸	州	成	旭	笠	(元室木)	生	後	(元貴船二坑)	目	船	吉	山
田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	田	寺	尾	尾	尾	尾	田
一四、四〇七	一五、八六五	一七、六三三	一八、三〇五	二〇、八四四	二〇、八六三	二〇、九九五	二二、一五六	二六、一四一	二七、三七六	二九、七三七	三〇、九三三	三〇、九三三	三五、二八五	三五、七九二	四三、三八九	四五、五〇〇
五三、一六五	二〇、三九五	一九、二七三	四九、八五八	一八、四三三	三〇、五八〇	一一、三三九	五二、〇一四	二二、七二二	二二、六三三	三五、四九八	三五、四三三	二九、三三七	三七、四三八	三八、五〇三	二六、八三三	三七、三七〇
六一、八五三	二九、二九四	一四、〇一五	五九、八三四	六、二七二	二二、三四四	七、二六五	六三、九三八	二九、三六六	四四、〇五四	三八、〇三五	四六、〇七四	三三、二八三	七〇、四〇六	二九、〇六〇	七九	一三、九三〇
四三、七六五	二六、六五二	一四、四二二	五五、五三七	二、九八八	二四、三七七	九、一三四	四九、〇三四	三三、六六六	六、九八一	三七、八〇六	四三、七三三	二六、六八九	七五、六二四	二九、〇〇五	—	—
六〇、四四二	二〇、四九五	二六、二六二	四四、五五三	一八、八三三	三七、三五六	一八、四九一	五五、二四九	四六、七二五	五三、三二二	二七、六八三	四七、五二二	二六、六六四	七三、三九四	二〇、一三七	—	—
九二、七三二	二六、五〇二	二五、八八〇	六九、一九六	三三、五八七	六、八六七	一五、七四七	五八、三九六	四六、七二五	四七、三三七	七、九六六	四七、九〇八	二六、九八四	九六、九二〇	一四、八九九	—	—
七五、二二三	四〇、五〇五	一一、六七三	一一、三九七	一一、〇三〇	三三、〇三〇	二八、〇一八	三三、五五五	五三、一〇七	四五、六八四	—	四、五八四	一、八六三	七四、四七九	一四、三五九	—	—
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

上	中	大	筑	花	猪	大	木	大	大	第	門	巴	勢	勝		
御	御	和	紫	瀨	位	山	城	昇	瀧	實	松	田	田	田		
尾	德	和	紫	瀨	須	谷	城	昇	瀧	滿	松	田	田	田		
一三、七五五	一一、〇二二	一一、一三五	一一、二八一	一〇、三七八	九、四四一	八、七二六	七、五五五	七、二二三	七、二〇二	六、八五五	六、六三九	五、三六三	四、九六九	四、九四七		
一九、八五四	—	五、九六一	二二、四〇六	—	二五、〇六八	二、五五五	五、九六六	一〇、九三三	—	二五、三五八	三、三四二	三、六七五	—	—		
一四、六四四	—	八、九三三	一九、九九一	—	三六、九六六	一一、二六九	五、九六六	一九、八一〇	—	二七、三九一	七、四七九	—	—	—		
一三、〇四二	—	一、八五七	一七、八一九	—	三三、〇一五	五、八三〇	三、一〇四	四、二三四	—	一七、七四二	四、四三九	—	—	—		
一八、三七〇	—	二、四二二	一三、六四九	—	一六、二七七	七、七五七	三三	四、一五四	—	一三、五七四	八、四〇四	—	—	—		
二四、五七八	—	一、五二五	一六、一七九	—	二二、〇九九	一三、九五六	—	八、五六三	—	二一、四五六	七、二九六	—	—	—		
二五、四三七	—	—	一五、八八九	—	九、八〇二	一三、七七三	—	六、九三三	—	九、二〇八	—	—	—	—		
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第四章 運炭

第五款

炭坑別總送出高

伊原 (元岩ヶ鼻)	四、八八四	四、九五一	四、八四六	六、二二三	七、八四八	四、〇七四	五、二四	九、五
庄司 (元寺島)	四、五二八	五、六四四	—	八三一	五、三二一	一九、五六〇	二二、一〇九	九、〇二五
見立	四、五〇四	三、一七〇	四、四五五	七〇四	四、三八〇	二、五九〇	—	—
朝倉	四、二五七	七、〇七五	六、八八二	三、一六六	四、八六九	七、七〇五	九、八四四	一三、五〇二
楠橋	四、〇三九	—	—	—	—	—	—	—
勝山	二、九三三	三、八五五	四、八七三	七、五九八	八、八三四	七、三八七	二、〇二八	八、九〇六
新赤池	二、七九五	三、七〇三	六、七三二	六、一四五	九、四九八	八、〇九七	—	—
藏生 (元白谷當切)	二、三五八	一、六三三	五、四九	三、九八	—	二、八九	二、二四一	一、八四
成光	二、一三五	—	—	—	—	—	—	—
上山 (元山田)	二、一四四	二、〇〇四	二、七〇二	一、五	—	—	—	—
本貫大 (元山田)	一、九五〇	二、九七六	二、三九一	二、三七八	五、一一〇	七、一九五	一一、九三三	三、七五三
益一 (元山田)	一、九一八	一、六三四	一、八七六	—	—	—	—	—
金谷	一、八九〇	八、三三二	一、三〇四八	九、八九九	一、四二七	二、五六七	六、五三〇	九、三三〇
吉原	一、六五三	三、一六二	一、八六三	一、三四	一、一三七	二、一四四	一、八五二	二、二四
大成 (在、川崎)	一、〇五八	七九一	—	—	—	—	—	—
松岡	一、〇七二	一、一五〇	八、四七六	—	—	—	—	—
幸崎	一、〇六八	一、二六五	三、四六八	一、四六三	—	一、〇九〇	二、〇八一	—

榑田	七七七	八五七	一、二五七	—	—	—	—	—
天定 (元赤地)	七七〇	三、〇六一	—	三、七四九	二、三六〇	二四、三九六	二四、六七六	二七、七〇七
上雄	七三五	三、二〇〇	四、八八五	二、一六	九、九四九	一一、四八三	五、五九	一、五三二
岸田	六九六	二、五八四	—	—	—	—	—	—
本入	五八七	二、七八	二、二九三	—	—	—	—	—
片鉢	四六三	一、三五四	三、七六三	—	—	—	—	—
真崎	三三二	三、六五	—	—	—	—	—	—
白土金ノ木	三三八	一、〇八六	四、二八七	三、五三〇	九、九三	一一、四五五	八、八九〇	三、〇九三
白井	二五六	三、一一八	三、〇七五	五、〇二	三、〇三六	三、四三九	—	—
谷頭	一〇八	六六〇	五、七〇二	一、七六七	一、一六八	三、一六四	一、八八三	—
元勝	六〇	四、二六二	五、五六四	二、九〇五	三、一五四	五、八四八	六、三三三	四、九七二
不動	一五	一、九四四	二、八六九	五、九二二	五、四〇一	四、四六二	—	—
小浦	—	八、八六	二、九二五	—	—	—	—	—
輝龍	—	八、八四	二、七九七	三、四六三	二、八〇三	三、五四二	二〇、四三三	—
上隈	—	六三三	一〇、九九〇	一三、九七六	一五、三四一	四、三八八	一、四三九	—
柳谷	—	二六二	六、三三二	一、三八四	一、〇四二	二、九〇三	一、九二〇	一、五四
極東川崎二坑	—	二、八〇八	五、三四	一、九四七	一八、二九四	三〇、五四五	二二、五八八	一六、六七四

晴	赤	野	小	日	天	吉	石	梅	城	大	東	西	添	田	福	大
川	松	大	神	向	野	野	切	林	山	正	(元八木)	金	田	口	山	城
				(元櫻木)						(元一ノ谷)						
八九四	九六三	一、一五七	二、二九四	二、二九六	一、一九二	三、九三三	二、〇〇〇	四、五一	三、六六	七、三二	七、三三	九、五四	一、〇〇六	七、三八	一、〇四	二、四一七
五、一六一	四、五七四	四、四八一	三、八三二	三、八〇五	—	三、三四六	三、〇三三	三、〇〇〇	二、八六〇	二、五三四	二、二五六	二、二四五	二、一七一	二、一三六	—	二、〇三九
四、五〇二	一、三三〇	一、四、〇〇六	六、六三五	五、八一	—	三、六八九	六、四	三、一四	三、二	一、九三八	七、〇四	二、〇三〇	—	一、二五四	—	三、三六七
五、五六	八、三三	一、四、〇二二	六、四〇六	三、四三	—	二、〇三二	一、四五一	一、四七二	三、二五二	二、二二三	一、〇二八	二、〇〇〇	—	一、一五六	—	四、〇五九
—	二、六六七	七、九五六	二、五〇六	二、五八	—	二、〇八七	一、七四	一、二六四	二、二五三	二、七三	一、一九四	一、一九九	九	二、五八八	—	八、一八六
—	七、六一	二、八〇九	—	七、〇四九	—	一、一五七	四、四〇	九、九四	—	五、五〇一	一、七三八	一、九三七	五、六九	二、三三五	—	三、八三三
—	四、三七八	三、五二二	—	三、五五二	—	三、〇〇	—	—	—	三、八三〇	六、八	一、六〇九	一、三〇三	七、七九二	—	三、七三三

山	喜	樹	笹	大	笹	芳	三	千	富	眞	添	岡	若	七	大	糸
ノ	谷	谷	尾	宮	原	廣	(元椎ノ木)	手	國	木	城	浦	江	福	分	田
谷	福	田	(元井上)									(元中春)				
—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
五、七	四、七五	一、五〇六	三〇	二、五五	一、一四	一、五〇	六、六	三、五〇	四、四五	二、六四	一、五二	四、五	—	—	—	—
一、八五八	一、六七三	一、六〇七	一、二〇九	一、〇二四	九、九三	七、三	五、三五	四、一	四、〇〇	三、六九	一、七一	六、九	六、五五	六、九七〇	一、八四一	三、六四八
五、五五三	—	五、六八	一、三三〇	—	九、三	八、〇二	一、二七六	一、三	三、四五	一、一七	一、〇四	三、四九	九、五四	七、四三九	六、一六〇	五、六五四
二、三三九	—	二、五八〇	六、九	—	八、九八四	六、五九	一、七二八	二、八〇	一、〇七六	二、二二三	一、〇〇六	二、五五四	二、六二六	一、六、二八二	—	一、〇六一
一、六、〇三四	—	五、二五四	八、三五	—	二、三三六	二、四九	三、九二〇	一、二二三	二、八六四	二、〇九四	七、一四一	九、八五〇	七、八七九	一、七、三二	—	—
一〇、七三五	—	四、一五五	一、七六三	—	二〇、七九五	—	六、一七四	七、二五	二、二六四	四、七四一	八、〇四五	八、七〇二	一〇、七〇九	二、四八八	—	—
七、〇七三	—	九、八五〇	—	—	六、六七八	—	三、四七六	—	九、四	三、六五六	五、四八四	二、五三三	七、〇四四	一、八三六	—	—

第四章 運炭 第五款 炭坑別總送出高 一二五

勝野採炭	中里	井浦	淵上	極東川崎一坑	福豐(元爲朝)	平船三坑	貴船三坑	岩田(元川崎)	米田(元川崎)	高陽	生神	橫島	西川(在上山田)	寺ノ谷	佐藤(在相田)	鎮西二坑
二、六〇七	六、五三	三、二〇八	一、四六三	八三七	八七	四三五	八四一	二〇〇	八二二	一、二〇〇	二六一	一、七五〇	二三三	三〇〇	一、一〇四	一元
四、二九四	四、〇一一	三、八五	二、〇三六	一、九五二	一、八五一	一、三四一	一、一七五	一、一〇七	五八一	四六二	四八	二二七	二〇五	一	一	一
三、二二三	一〇、三〇〇	四、六五三	九八七	一八、七五四	五、四九七	二、三〇五	六、一六	二、八四	一、二七六	一六、〇六八	六三	一三、九三七	一、二八七	一	一	一
七、八六二	一四、二七五	四、九九	一、三三九	二八、六〇二	一六、八四〇	一、四三二	五、三九六	五、三五〇	一、三三	三、九四九	二、三八八	三〇、八三七	一、七七	四四六	一	一
九、一三三	五、二二三	五、八三五	一、四七〇	九七六	一七、三三三	二、四六四	一	五、四三六	一、七八五	一六、三六三	四、八八二	三、五五二	二、二七三	三、七八〇	一	一
一〇、二六	一	六、四四三	一、七三二	一	一四、四三三	二、八六	一	二、七七八	一、二〇九	八、三三〇	一、六二	四〇、〇三	一	四、六六二	一	一

中島(在太任)	上山ノ谷	小竹採炭	新二坑	川宮	石丸	中元寺	黒川	小松(元平岡小松)	新清(元大藤)	錦三(元眞上昇)	額田	平和田	四少(元高)	第一上目尾	吉久(元奈良坂)	神崎
三六	一三、七六	一四、七八	一三、一八〇	一〇、九九三	六、五〇二	三、八〇二	三、三七六	二、九三二	二、六二〇	二、三八六	二、三八三	一、七七九	一、七四三	一、五五六	一、三五八	一、三三二
一〇四、〇〇二	一七、八五三	一四、七八	一三、一八〇	一〇、九九三	六、五〇二	三、八〇二	三、三七六	二、九三二	二、六二〇	二、三八六	二、三八三	一、七七九	一、七四三	一、五五六	一、三五八	一、三三二
一三〇、四〇〇	二、〇五七	一三、〇三二	三三、〇〇五	一七、一九七	五、五五四	四、二八八	一四、一八	二、三六六	二、三九八	二、四九二	六、〇五六	六、〇六四	六、六	四、七〇〇	八、三六五	一、〇三二
一、二九、一九〇	三、七二	二、一八七	五、一三六	六、三三七	一	五、三〇九	一七、二八二	九三九	一四、六九三	一三、六三〇	一七、二六二	二四、六一	一、四四	一、九二九	一三、八三三	二、二五
九〇、八九八	三八、三七	一〇、三八四	五、七五	一	一	一一、三四	一五、四八	一	一、六七八	一四、〇九一	一三、二六	四、七三九	一、二二	一、二九	一、六六八	二、九六
七五、三五六	一五、八七	一五、八五	五、〇三二	一	一	三、七元	一六、一八九	一	一	七四	一	二、五五七	一	一、五四六	一	二、六七九

運炭別總送出高

宮	神	上	佐々木(在岩瀬)	德	起	第三 喜(元大石)	前	大	上	芝	大	今	利	大	宮
(元宮野)	八(武)	土(日)	木(在岩瀬)	滿	行	嶺	畑	任	寺ノ谷	沖	熊	任	田	日	脇
八三三	七九二	七五〇	六〇〇	五九六	四二二	二九四	一八四	一八七	一七六	一三〇	一〇六三	二〇一	一四七五	一四八〇	一四〇一五
四八	八五二	八五一	三〇七七	二、三九	二〇八	三、八六二	一、三三七	二〇四	一、六三七	九三五	二〇一	一一三	一、二二	九八九	一四〇
一、九六六	一、三六四	—	三、二一六	八七四	二、九五六	三、三三三	三、二〇八	一、四八八	四、〇四四	一〇五	八八八	五、一〇四	八六三	一、一五六	一、九二
二〇一	七四八	—	二、四五三	—	三、八六二	二、一五六	三、七三四	二、一五五	三、二七〇	—	一、二一八	七、二七一	—	—	六六八
二八	—	—	三、二九六	—	二五、一八六	一、七九四	一、五四四	—	—	—	一、三三八	三、四〇〇	—	—	八五三

運炭別總送出高

若	牟	緒	上	東	針金(新目尾ニ包含ス)	赤地(御徳ニ包含ス)	牟多田三坑	小谷(御徳ニ包含ス)	門	幸	平	奈	谷	宮	中
松	田	方	田	倉	尾ニ包含ス)	包含ス)	坑	ス)	田	(元白旗)	林	良	倉	床	屋
三四、八八五	一〇、〇七四	九、四九五	八、四九五	八、〇七二	五、四〇七	五、三〇七	四、〇四二	三、七〇七	三、六六九	三、一三〇	三、〇四六	二、九六三	二、四〇七	一、三〇八	九二一
三五、二七	七、〇九九	二、〇四四	一三、六九八	二七、九七四	一一、三三六	五、五三一	五、一八〇	三、八四六	二、三三〇	五、五六〇	五、八五一	四、二三七	二、二九七	二、八四三	二、四六九
二九、〇三三	一一、九八三	一四、一九七	二、八三六	四〇、八四七	一一、九〇七	五、六八七	二、七五五	四、二〇六	六、八二二	七、七四二	四、四六四	五、八三四	九二元	一、三四四	—
二五、五四九	二、三四五	三、四〇九	二、六七六	二五、五二三	一三、三四四	五、二〇三	—	四、二九六	—	—	—	—	—	—	三六六

第四章 運炭 第五款 炭坑別總送出高

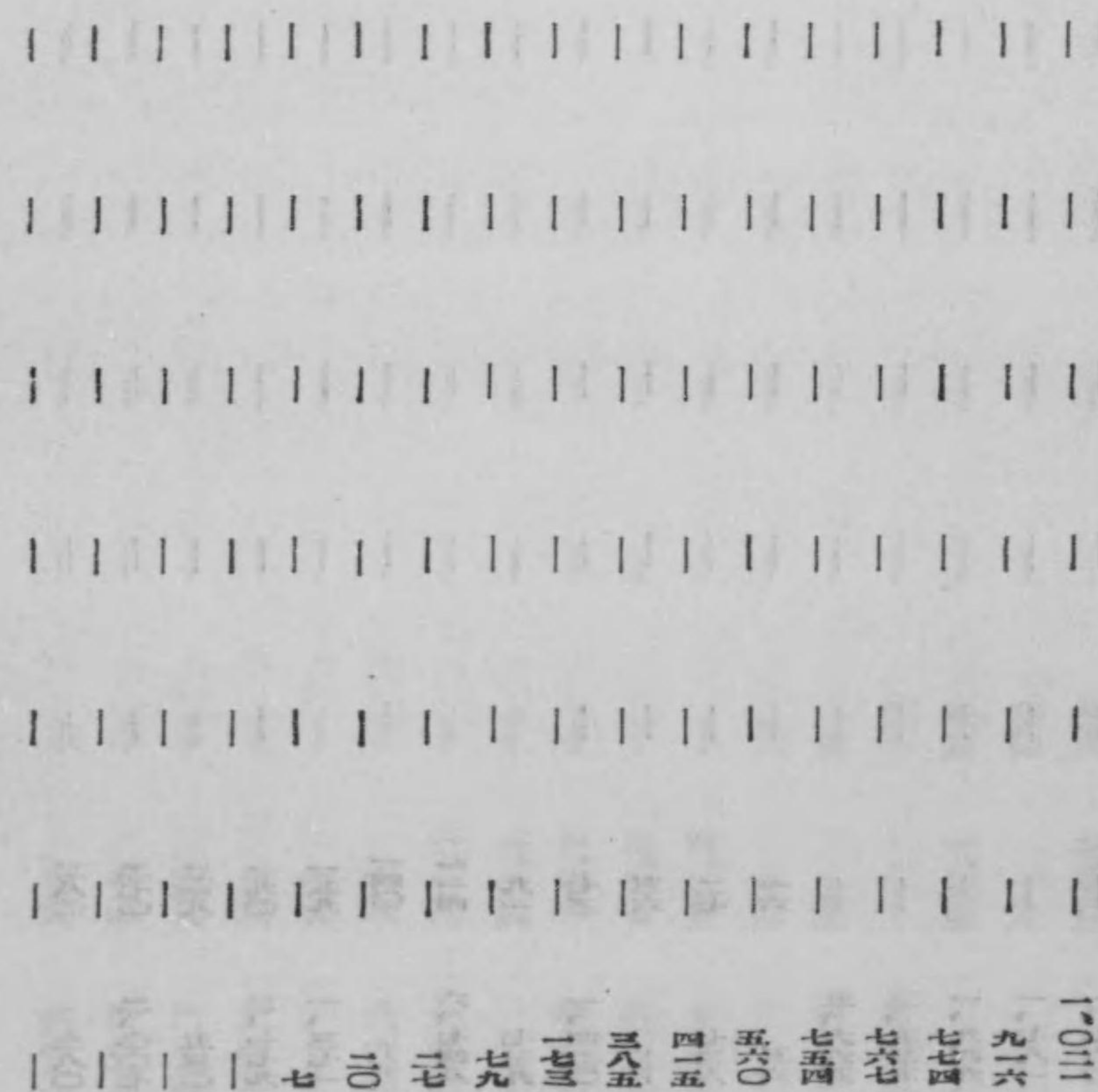
第四章 運炭 第五款 炭坑別總送出高

大平	山留	吉田	新島	柿谷	長生	天城	第二橫島	新相田	第一田寺	西尾	下原	道善	岩下	永谷	須賀	第二新相田
736	2,733	684	1,005	505	2,001	766	4,153	3,557	1,551	2,366	1,270	2,699	8,637	1,520	1,764	2,011
280	2,007	530	3,731	1,071	1,007	2,007	2,007	2,007	2,007	2,007	2,007	2,007	2,007	2,007	2,007	2,007
280	563	776	1,863	776	1,863	776	1,863	776	1,863	776	1,863	776	1,863	776	1,863	776

峰木	春日	角石	牛坑	西川	蘇我	天我	小松	第二福	寶浦	油泉	最上	本江	吉野	藤村	猪山	小富
280	2,007	530	3,731	1,071	1,007	2,007	2,007	2,007	2,007	2,007	2,007	2,007	2,007	2,007	2,007	
280	563	776	1,863	776	1,863	776	1,863	776	1,863	776	1,863	776	1,863	776	1,863	
280	563	776	1,863	776	1,863	776	1,863	776	1,863	776	1,863	776	1,863	776	1,863	

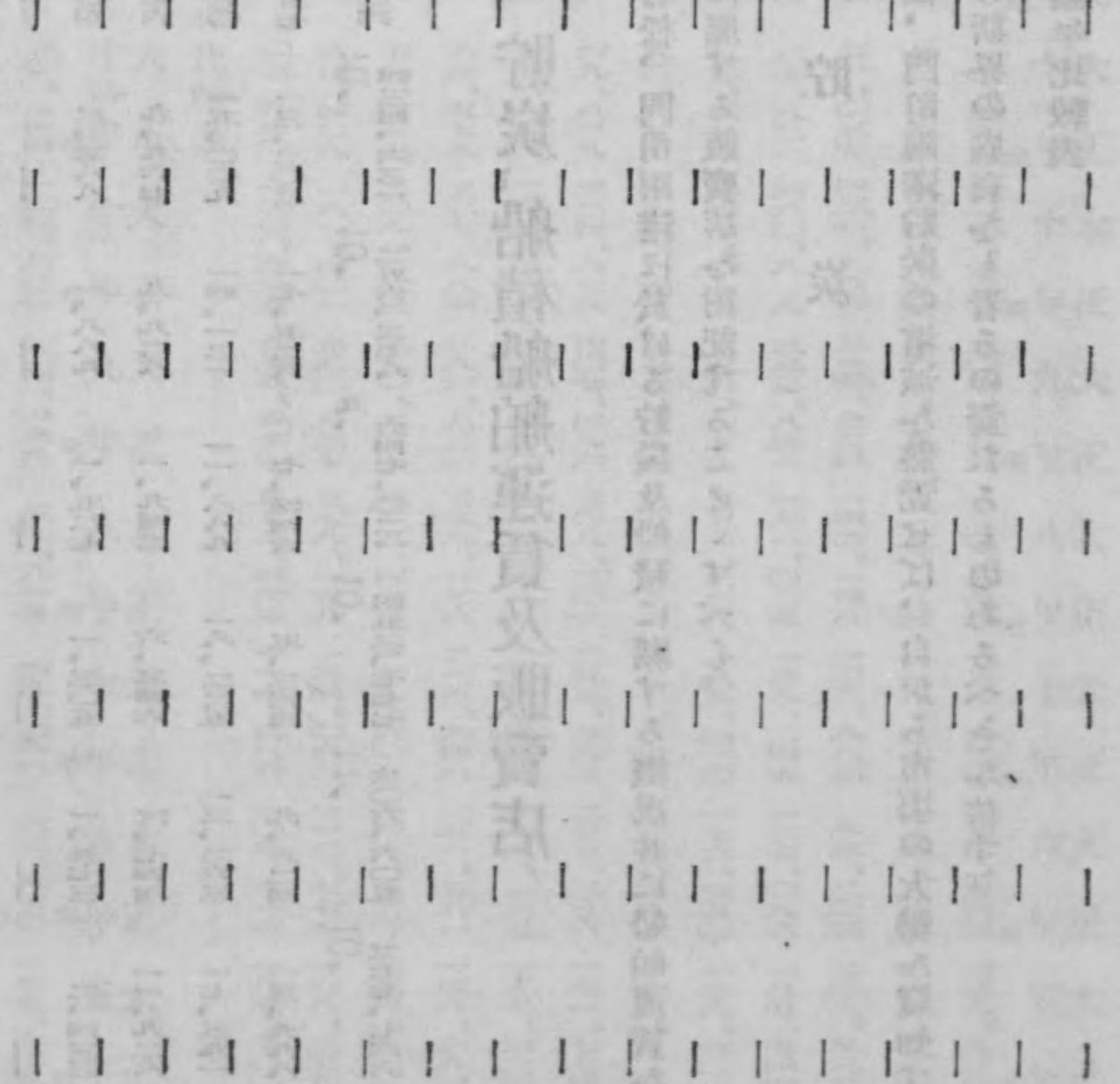
第四章 運炭 第五款 炭坑別總送出高

井長宮新爲松西矢猪都手高山宮爲佐橫
ノ朝ノ之ノ朝々木
前(元飯塚)分坑尾郷峰膝浦尾本前坑(在池尻)川
上田朝坑尾郷峰膝浦尾本前坑(在池尻)川



1,011 九元
1,011 九元
九二六
七二四
七二七
七五四
五〇〇
四二五
三八五
一七五
七九
七〇
七
1,270
1,661
2,330
2,350
3,334
3,334

中島(在後藤寺)
大原
大谷
勢正
大谷
新吉
吉北
伊方
眞鶴
岸松
下畑
峰山
大坑
三谷
大谷
三角
猪銅
江頭松
頭小松



第四章運炭 第五款炭坑別總送出高

一三三

一、五九二
九二
七二
六八八
五八八
五三三
四九八
四九八
四九八
三七七
一八三
一七四
一六三
二二五
五二
二八

梶原小松	雜	1,704	2,588	1,889	1,527	1,305	1,573	2,433	621
遠賀	雜	1,487	9,967	9,967	1,942	6,346	4,744	11,928	5,183
鞍手	雜	1,760	15,009	14,221	11,889	18,355	13,263	17,591	8,233
嘉穂	雜	10,957	13,102	17,556	7,446	5,344	9,624	13,998	5,546
田川	雜	10,957	13,102	17,556	7,446	5,344	9,624	13,998	5,546
合	計	21,296,644	44,631,256	37,847,021	45,377,777	306,605,377	377,746,231	712,729	

第五章 貯炭、船積船舶運賃及販賣店

今筑豊炭の最大市場たる、若松、門司兩港に於ける貯炭及船積に關する概況并に船舶運賃を左に略記し、併せて兩港の石炭商組合に屬する販賣店を附記することとすべし。

第一款 貯炭

▲月末貯炭累年比較 若松、門司兩港貯炭の増減を熟覽せば、自から市場の大勢を窺知するを得、從ふて本邦及東洋方面に於ける斯界の盛衰をも看るの資たるものあるべきを信す。

若松港月末貯炭累年比較表

一	大正十三年	19,996
二	大正十二年	19,891
三	大正十一年	12,054
四	大正十年	3,048
五	大正九年	1,869
六	大正八年	1,346
七	大正七年	1,346
八	大正六年	1,794
九	大正五年	1,794
十	大正四年	2,750
十一	大正三年	2,750
十二	大正二年	2,895
一	大正十三年	28,835
二	大正十二年	73,123
三	大正十一年	71,037
四	大正十年	43,686
五	大正九年	35,334
六	大正八年	35,334
七	大正七年	14,214
八	大正六年	10,693
九	大正五年	9,533
十	大正四年	2,709
十一	大正三年	2,709
十二	大正二年	2,845
一	大正十三年	19,996
二	大正十二年	19,891
三	大正十一年	12,054
四	大正十年	3,048
五	大正九年	1,869
六	大正八年	1,346
七	大正七年	1,346
八	大正六年	1,794
九	大正五年	1,794
十	大正四年	2,750
十一	大正三年	2,750
十二	大正二年	2,895

門司港月末貯炭累年比較表

第五章 貯炭、船積船舶運賃及販賣店 第一款 貯炭

二月	三三、六二二	二七、〇八四	三六、六五四	九七、八六七	六六、七三八	四四、五九八	六〇、六七三	四二、九〇七	一一、八七六	三三、四一五
三月	一八、二一九	三三、八七五	二九、六三九	一二五、五四七	六二、四六九	六六、七八五	六七、六四六	四四、八四一	一一、一六五	三三、五二二
四月	二五、五三三	二六、六九〇	二二、一六九	一二三、一三一	六六、九一六	八六、五七四	七六、七三四	四三、六〇六	八九、六八七	三三、四〇六
五月	二六、三三三	三〇、四二四	二〇、一〇一	一二七、四八五	六三、一四〇	一四〇、四九〇	七二、四〇五	五三、三二九	九一、七七三	三三、〇三二
六月	三四、八一二	二二、一八一	三三、四三九	一〇七、三八一	七七、九二一	一一三、五五一	七三、四八〇	五九、四七四	七九、六〇一	二九、三〇六
七月	三九、五五九	一九、四四〇	二七、一五三	八二、二二六	九四、八二八	一一三、四八一	七七、五四七	六三、八三八	七六、五六〇	二七、八二二
八月	四一、一八七	一五、六八三	二八、五七二	六〇、六一一	一〇一、一八四	一〇九、九六二	七八、六二二	六七、二七六	六三、五〇五	二七、二七二
九月	四八、四七二	二八、〇六九	三三、〇五一	六四、六七二	一〇五、六五九	一一二、三三〇	六八、七八二	五二、三三五	五五、四二二	二四、八〇九
十月	四八、〇八七	二四、三九八	三〇、八四一	五七、三三五	一〇五、五七七	一一三、三三〇	八二、七二一	五五、八六六	六四、八六二	二二、〇〇三
十一月	三九、四六八	二四、四一〇	三六、三七九	三七、六四四	九一、四六一	一〇一、五〇〇	四三、四六七	五〇、二〇四	六〇、三五六	二九、〇三九
十二月	四〇、一四八	二二、〇八三	二六、六四三	三三、七七九	九五、三五七	九四、一六四	四五、八九六	三八、七三九	七五、二九一	一三、四一四

若松、門司兩港月末貯炭累年比較表

大正	十二年	十一年	十年	九年	八年	七年	六年	五年	四年	三年
二六、九八四	一〇〇、一〇五	二四、一九四	五二、三三〇	四〇、八九八	一七、七八二	一八、三二四	三三、三三四	三九、八八九	四〇、四四四	三六、六九八
二四、七八七	二〇五、七七一	一七一、〇三三	五三、七三三	三六、八〇三	一五、七八二	一八、〇六五	一六二、六五六	三五、九〇〇	七八、九三二	一九、九五五
一八、九五五	一〇三、七六二	一九六、五八四	五六、二二三	三七、七九三	二〇、八九三	一七、四六九	一四〇、〇四四	三四、六九八	八二、二六九	一六、六八二

四月	二七、二七一	一三九、七七九	一九〇、九五二	五八三、九四九	四〇〇、七五七	二七七、五九九	二五、九九九	一七〇、七〇二	二七五、四三一	七八九、五四〇
五月	三〇、三四六	一八三、八三五	一七〇、七一一	五二四、五五五	四一九、七九九	三三五、七八八	二六、一八五	二九九、五七九	二六〇、三三九	七四三、一三七
六月	三二、四〇六	一八三、九九九	一六六、三三三	四七三、三三六	四五五、一九八	三八七、一五四	二九六、五三四	二七六、九五五	二五四、二二五	七三六、七六四
七月	三七、〇六三	一八七、四八九	一五一、九五五	四〇六、九五三	五〇二、三三四	四三〇、六八二	三三〇、九三〇	二九七、二三四	二四八、三三四	七二九、一八〇
八月	三八、九五三	一八〇、八〇五	一三七、八〇五	三三七、四二七	五〇六、一八四	四三三、六二七	三一一、一九二	二五五、四〇一	二三〇、九二五	六九一、一一一
九月	三八、三二〇	一九七、八二七	一三九、二五一	二九二、六五六	五〇一、八七九	四九一、三六六	二八四、七三〇	二二〇、九一六	二二四、九三六	六五二、九一九
十月	三三、二五五	二六、二八七	一三五、八七八	二六六、四〇八	四七五、八三三	四七八、八〇三	二六二、三六二	二〇二、七八六	二一九、四三三	五八八、八四二
十一月	三四、三八九	二四、一〇三	一一三、〇五三	二二九、〇四五	四四二、二九八	四七九、六五九	一七七、五二九	一六二、九九九	二八、六九四	五二二、九八八
十二月	二七、〇八一	一九二、六六六	一三七、七三九	一五四、二七四	四九〇、九七七	四六七、六九五	一五七、二八二	一四二、三五〇	二六〇、八一九	四六五、四三五

第二款 貯炭場の面積及使用料

▲若松之部

貯炭場位置	面積	使用料(一ヶ月)	貯炭場位置	面積	使用料(一ヶ月)
牧山	一、四二四坪	自用	新機橋	二五、八〇一坪	自〇五〇〇
葛島	一〇、八六二	自用	藤木	七〇、〇〇〇	自〇八五〇
第五章 貯炭、船積船運賃及販賣店			第二款 貯炭場の面積及使用料		
			一三七		

新川	一七、八七〇	自〇八〇 至二五〇	
築港濱	二、三五〇	自用	沙井崎 二、二二六
二島	一四六、〇〇〇	自用	計 二七八、九四〇
中島	二、四〇七	自用	

▲門司之部

西海岸通	一四、一三〇	自三〇〇 至五五〇	弟子待(彦島) 四、八七三
江ノ浦(彦島)	六、三〇九	三〇〇内外	計 二五、三二二

▲東小倉之部

東小倉驛高濱海岸貯炭場面積は一萬〇六百七十一坪にして使用料一ヶ月一坪に付金拾貳錢乃至貳拾五錢也

(備考) 水運事情

遠賀川 水深淺く、且砂土の流出烈しく自然の流水に任ずるときは、通航し能はざるを以て、常に浚渫及水寄工事を施し、航路を作り、通路を便するも夏期濁水甚しき場合は、積荷額を減じ、又全く通船し能はざることあり。

堀川 川幅平均約四五間に過ぎざる處、上下の通船頻繁輻輳し、動もすれば航路を塞ぎ、混雜することあり、且井堰の開閉等を爲すの要あるを以て、之れを便する爲め、係員を置き處辨せしむ

本川は毎年春秋二回、定期に修繕工事を施す爲め毎回五日、乃至七日間閉樋し、其間は全く通船を停止す、又夏期村方用水期中は、三ヶ所の用水堰ありて、任意通船し能はず、爲めに同川通過に約二日乃至四日を費すことあり。

遠賀川筋所屬船の上り船は、古來堀川通航を許さざる慣行ありしも、大正二年四月十日より、此舊慣を解放せり。

江川 晝夜の満潮を利用し、通船を便し、大旱魃の外、井堰築設等のことなし。

船積載量 石炭積載は、河水の模様により、増減ありて一定せざるも、平均一艘一航廻、約八噸半を積載せり。

船運賃 里程の遠近のみに依らず、通航河川の難易等を斟酌し、古來協定したる賃率を基礎として定めたるものにして、時に依り高低あり、最近協定のもの別掲の如し。

第三款 船積設備及手数料

若松港沿岸若松驛内に新舊二臺、同じく戸畑牧山沿岸に、三臺の石炭積込機械を装置する外、何れも仲仕の手を以て船積するを例せり、今門司若松兩港に區別し、其取扱にかゝる手数料を列記すれば左の如し。

若松港 に於ける一噸當り諸手数料は左の如し。但し特約あるものは例外なり。

第五章 貯炭、船積船舶運賃及販賣店 第二款 貯炭場の面積及使用料 一三九

若松、戸畑兩驛着炭後
停滯料

着驛後六時間を經過せしも
のに限り、毎十二時間又は
其の未滿毎に科する金額

一噸に付
一噸に付

金拾五錢
金五錢

石炭商同業組合經費

平等割
着炭、積出炭とも各別に

一ヶ月

金壹圓六拾錢
金參毛五朱

解船運賃表

(大正十四年四月一日實施)

區別	單位	賃金	日待	滯船料	金
自若山陽松	石炭一噸に付	五六、〇	着船二日用拾三日目より五日目迄金五錢五厘六日目より		
至門司弟子待	汽船燃料一噸ニ付	五七、〇	但し門司行は積掛三日用拾積切迄港内日待を支拂ふ		
自若小倉松	石炭一噸に付	五四、〇			
至福命寺	全	六〇、〇			
自皇ヶ崎	全	二六、〇	日待積掛三日用拾四日目より六日目迄金參錢五厘七日目		
港内取廻	全		より金五錢五厘九日目より金六錢十五日目より金七錢		

自若木松	全	二八、〇			
至藤ノ西を云ふ	全	三四、〇			
自二子島東方	全	二九、〇			
至若光松	全	三七、〇			
自若崎松	全	三七、〇			
至若崎松	全	四〇、〇			
自若鐵下松	全	六、五	日待二日用拾三日目より金九厘八日目より金壹錢壹厘		
至門司	全	六、五	日待二日用拾三日目より金五厘八日目より金八厘		
港内取廻	全				

備考 一、荷主の都合による端數には「下ダメ」を支拂ふ事
二、特約あるものは本表に依る限にあらず

若松港石炭仲仕賃金最高標準表

(大正十三年五月一日より改定實施)

第五章 貯炭、船積船舶運賃及販賣店 第三款 船積設備及手数料 一四一

作 業	別 業	單 位	改 定 前 賃 金	改 定 賃 金
汽船荷物捲積込賃(穴繰賃共)		一 屯	四四二九	四四二九
汽船荷物擔積込賃(穴繰賃共)		全	四五〇〇	四八四
汽船燃料積込賃(穴繰賃共)		全	五二〇	五五九
解より解又は帆船瀬取賃		全	二四六	二六五
履 日 役		一 人	一五〇〇	一六二〇
解 陸 上 賃		一 屯	二二一	二二七
解 陸 下 賃		全	一七七	一九〇
貯炭場より汽船直下(穴繰賃共)		全	三一六	三四〇
繰 替 賃		全	一七九	一九二
棧橋より汽船積穴繰賃		全	〇四〇	〇四三
新棧橋 西部		全	〇三五	〇三六
新棧橋 中部		全	〇三〇	〇三一
新棧橋 東部		全	〇三〇	〇三一
棧橋卸賃 水壓クレーン		全	〇三〇	〇三一
棧橋卸賃 戸畑 棧橋		全	〇三〇	〇三一
新棧橋 下陸 上下賃		全	二〇三	二〇五

全 繰 替 賃 全 一 九 七 二 二 二
 操 出 賃 全 〇 七 九 〇 八 五
 檢 量 賃 全 〇 八 八 〇 九 五
 川 艀 陸 上 賃 全 一 八 〇 一 九 四
 コークス 噸 積 込 百 斤 入 一 俵 〇 三 八 〇 四 一
 噸 作 り 百 斤 入 全 〇 三 〇 〇 三 二

汽船荷物夜業、燃料夜業、燃料片サイド持越は各當該賃金の四割増とす
 陸仲仕夜業は各當該賃金の三割増とす
 貯炭場は貳拾五間を以て壹肩とす
 塊粉篩分賃は解陸上賃解陸下賃の合計に金三錢を加ふるものとす
 補助機関付の帆船積込賃(穴繰賃共)は汽船積込賃より貳割五分引きの事
 鐵道省より指定されたる棧橋卸場所着炭噸数が一ヶ月四萬噸に充たざる場合は特に賃金の割増を要す
 る事

◎特約あるものは本表に依る限に非す
 ●●●● 門司港に於ける一噸當り諸手数料は左の如し、但し特約あるものは此限りにあらず
 ●●●● 門司驛着炭停滯料 (若松の記事に同じ)

石炭商同業組合経費 取 別 課 金 一ヶ月に付 金 貳 圓 一四四

門司港石炭船最高標準賃金表 (大正十年三月十一日より實施)

作業別	單位	賃 金
港内船運賃	壹 噸	二九七
滞 船 料	全	五〇

但滞船料は二日用捨(荷役不能の日を除く)三日目より壹日に付

門司港石炭仲仕賃金最高標準表 (大正十三年七月十一日より實施)

作業別	單位	改正賃金
一、陸 上	壹 噸	四〇、九
一、陸 上	全	三二、一
一、全 夜 業	全	三割増
一、高架棧橋撤除	全	二五、四
一、汽 車 卸	全	三五、五
一、船 瀬 取	全	三九、五

一、纜	管	全	二七、七
一、精 撰	全	五一、〇	
一、硬 撰	百 斤	一五、六	
一、叭 作	百斤入、八十斤入、一叭に付	五、二	
一、本船燃料積	壹 噸	七二、四	
但水面より「デッキ」迄廿四呎以上の船舶にして積込みに依り全呎迄降下するまでは船舶の高低及荷役の難易に依り壹割乃至四割の増賃を支拂ふ事あべし			
一、荷物貫々使用積	壹 噸	七二、四	
一、全 無貫々積	全	六五、二	
但水面より「デッキ」迄廿四呎以上の船舶に一部少量の積荷をなす場合は便宜増賃を支拂ふ事あるべし			
一、全 夜 業	壹 噸	五割増	
一、穴 纜	壹時間	一七、七	

第四款 船舶運賃 (若松港より各地間)

船舶運賃は時により高低あるも左に好景氣時代の 大正七年と昨十四年のものを掲げ参考に供すべし

帆 船 運 賃

仕向地	大正七年		大正十四年	
	最高	最低	最高	最低
武藏東	一三、〇〇	八、八〇	五、五〇	五、一〇
周防徳	一、七五	一、四〇	一、五〇	一、〇五
長門萩	一、五〇	一、二〇	二、二五	一、九〇
伊勢	八、五〇	六、八〇	四、一五	三、七五
志摩鳥	八、三〇	六、五〇	四、〇五	三、六〇
紀伊勝	六、四〇	五、三〇	三、九五	三、六〇
全和歌山	六、〇〇	三、八五	三、七〇	二、〇五
和泉岸	五、八〇	三、七〇	三、七〇	三、九五
全堺	四、九〇	二、九〇	三、四〇	二、五五
攝津大	四、九〇	三、〇〇	三、二五	二、三五
全尼崎	四、五〇	三、〇〇	三、五〇	二、三五
全神戸	四、九〇	三、〇〇	三、二〇	二、四〇
播摩明	四、四〇	二、八〇	三、五〇	二、三〇
全飾磨	四、四〇	二、七〇	二、九五	二、〇〇
備前岡	四、四〇	二、七五	二、八〇	一、九〇
仕向地	最高	最低	最高	最低
備前宇	四、〇〇	二、四〇	四、〇〇	二、四〇
備中玉	四、〇〇	二、五〇	二、八〇	一、六五
全糸	三、七〇	二、四〇	二、六〇	一、五五
安藝竹	三、一〇	二、〇〇	二、四〇	一、五〇
石見濱	三、〇五	二、〇〇	二、三〇	一、五五
出雲松	一、六五	一、二五	二、七〇	二、〇五
伯耆境	六、七〇	四、七〇	三、五〇	二、〇〇
丹後舞	六、三〇	四、二〇	三、四〇	二、四〇
越前敦	九、五〇	五、五〇	四、一〇	三、〇五
能登七	九、五〇	五、五〇	四、一〇	三、〇五
越中伏	二、五〇	七、〇〇	—	—
全魚津	二、五〇	八、〇〇	—	—
越後青	一、五〇	九、二〇	—	—
全新	二、五〇	八、五〇	—	—

仕向地	大正七年		大正十四年	
	最高	最低	最高	最低
伊豫宇	二、五〇	二、二〇	二、五〇	一、七五
全長濱	二、六〇	二、〇〇	二、一五	一、四〇
全高濱	二、七〇	一、八〇	二、一五	一、四〇
全今治	三、〇〇	一、九〇	二、二五	一、四五
全新居	三、〇〇	二、〇〇	二、五五	一、八〇
全吳	三、〇〇	二、〇〇	二、一〇	一、三〇
全宇品	三、〇〇	一、九五	二、二五	一、三〇
讚岐坂	三、六〇	二、二〇	二、七〇	一、九五
全高松	三、七〇	二、二五	二、七〇	一、九五
淡路洲	五、〇〇	三、一〇	三、二〇	二、三〇
仕向地	最高	最低	最高	最低
越中伏	八、〇〇	七、〇〇	—	—
越後直	九、七〇	八、五〇	—	—
全新	一〇、九〇	八、〇〇	—	—
陸奥青	一四、一〇	一三、〇〇	—	—
阿波撫	四、七〇	三、〇〇	二、八〇	二、一五
全徳島	五、五〇	三、三〇	三、二〇	二、四〇
全高知	四、八〇	四、〇〇	四、一五	三、三〇
伊豫川	二、九〇	二、〇〇	二、七〇	一、八五
豐後佐	二、一〇	一、七〇	二、二〇	一、六〇
全津久	二、三〇	一、七五	二、三〇	一、六五
日向内	三、二〇	二、八〇	三、七五	三、三〇
朝鮮釜	四、五〇	三、三〇	二、八〇	二、四〇
全木浦	九、八〇	六、一〇	四、二〇	三、九〇

第五章 貯炭、船積船舶運賃及販賣店 第四款 船舶運賃 一四七

仕向地	汽船運賃		(外國)	
	最高	最低	最高	最低
伊勢灣	七、八〇	六、一〇	朝鮮釜山	四、五〇
攝津大坂	三、三〇	二、七〇	全仁川	六、一〇
全神戶	三、五〇	二、六〇	全木浦	七、〇〇
伯耆境	五、〇〇	三、五〇	全鎮南浦	九、〇〇
丹後舞鶴	七、七〇	四、五〇	全元山	一〇、〇〇
越前敦賀	七、六〇	六、五〇		六、〇〇
能登七尾	八、〇〇	七、〇〇		六、〇〇
支那上海	九、三〇	七、〇〇	仕向地	最高
全廣東	一六、〇〇	一四、〇〇	英領新嘉坡	二六、〇〇
全芝罘	七、〇〇	六、五〇	露領浦蘆斯德	一〇、〇〇
全青島	八、〇〇	六、〇〇	米領馬尼刺	一九、〇〇
英領香港	一五、五〇	一三、〇〇	佛領西貢	一八、〇〇

第五款 販賣店

筑豊炭の販賣店は其送出先毎にあり、其主要市場たる門司、若松兩港別に、石炭商同業組合人名を掲ぐれば左の如し。

若松石炭商同業組合員

大正十四年六月二日現在 組合員百九十五人

(商號)麻生商店 麻生 米吉	株式會社麻生商店	(商號)安部商店 安部永太郎
(商號)尼崎汽船部 尼崎伊三郎	(商號)東商店 東 伍助	(商號)安倍増夫商店 安倍増夫
(商號)有田商店 有田助四郎	(商號)太七組 有村 繁吉	(商號)大藤商店 有田 一成
安部 辰見	安西安太郎	(商號)今西商店 今西林三郎
(商號)池田商店 池田伊三郎	(商號)伊藤商店 伊藤 健輔	(商號)飯田商店 飯田 幹璋
井上鐵業合資會社(商號)今井コークス商店今井棟一郎	(商號)今泉商店 今泉藤三郎	(商號)今田商店 今田 靜江
(商號)石田商店 石田 與吉	(商號)岩田商店 岩田 熊吉	(商號)日本商會 今井多三郎
(商號)石元商店 石元直太郎	(商號)伊勢田商店 伊勢田捨三郎	(商號)山陽石炭社 井上 泰藏
飯野商事株式會社	(商號)岩下商店 岩下 方正	(商號)岩崎炭坑 岩崎伴次郎
岩淵 晃也	(商號)長江商店 市原 榮作	(商號)池永商店 笛吹 次松
合資會社今西石炭商店	(商號)宇都宮商店 宇都宮幸次郎	(商號)植谷商店 植谷 忠吉
(商號)瓜生又藏商店瓜生 又藏	(商號)占部茂吉郎商店占部茂吉郎	(商號)植谷商店 植谷 忠吉
(商號)上野商店 上野 盛二	(商號)植山石炭商店 植山平治	(商號)上野益藏商店 上野益藏

第五章 貯炭、船積船舶運賃及販賣店 第五款 販賣店

牛神 勇吾
 海老津炭礦株式會社
 株式會社大島商店
 (商號)江口商店 江口倉之助
 (商號)小田國商店 小田國太郎
 (商號)大森商店 大森 程藏
 大阪商船株式會社
 株式會社尾崎商店 尾崎寅之助
 株式會社大森商店
 (商號)尾崎商店 尾崎寅之助
 株式會社大森商店
 (商號)大森商店 大森 程藏
 株式會社太田商店
 (商號)沖商店 沖 庄吉
 (商號)小島商店 小島 治平
 神戶棧橋株式會社
 (商號)加藤商店 加藤 乙秀
 九州炭業株式會社
 (商號)菊永商店 菊永 秋豐
 共同曳船株式會社
 (商號)倉田商店 倉田 嘉平
 (商號)古賀商店 古賀 忠護
 (商號)小林商店 小林 禎三
 (商號)小島商店 小島 正輔
 (商號)坂本商店 坂本 芳枝
 (商號)白井商店 白井 祖市
 山九運輸株式會社
 (商號)佐藤桃商店 佐藤 桃藏
 株式會社木原商店
 (商號)倉田商店 倉田 嘉平
 (商號)古賀商店 古賀 忠護
 (商號)小林商店 小林 禎三
 (商號)小島商店 小島 正輔
 (商號)坂本商店 坂本 芳枝
 (商號)白井商店 白井 祖市
 清友商事株式會社
 (商號)岸田商店 岸田 春駒
 株式會社木原商店
 (商號)倉田商店 倉田 嘉平
 (商號)古賀商店 古賀 忠護
 (商號)小林商店 小林 禎三
 (商號)小島商店 小島 正輔
 (商號)坂本商店 坂本 芳枝
 (商號)白井商店 白井 祖市
 共同石炭株式會社
 (商號)岸田商店 岸田 春駒
 株式會社木原商店
 (商號)倉田商店 倉田 嘉平
 (商號)古賀商店 古賀 忠護
 (商號)小林商店 小林 禎三
 (商號)小島商店 小島 正輔
 (商號)坂本商店 坂本 芳枝
 (商號)白井商店 白井 祖市
 貝島炭業株式會社
 (商號)金丸礦業所 金丸勘太郎
 九州炭業株式會社
 (商號)菊永商店 菊永 秋豐
 共同曳船株式會社
 (商號)倉田商店 倉田 嘉平
 (商號)古賀商店 古賀 忠護
 (商號)小林商店 小林 禎三
 (商號)小島商店 小島 正輔
 (商號)坂本商店 坂本 芳枝
 (商號)白井商店 白井 祖市
 河本千市商店河本 千市
 (商號)菊永商店 菊永 秋豐
 共同曳船株式會社
 (商號)倉田商店 倉田 嘉平
 (商號)古賀商店 古賀 忠護
 (商號)小林商店 小林 禎三
 (商號)小島商店 小島 正輔
 (商號)坂本商店 坂本 芳枝
 (商號)白井商店 白井 祖市
 木下石炭商會 木下 龜
 (商號)岸田商店 岸田 春駒
 株式會社木原商店
 (商號)倉田商店 倉田 嘉平
 (商號)古賀商店 古賀 忠護
 (商號)小林商店 小林 禎三
 (商號)小島商店 小島 正輔
 (商號)坂本商店 坂本 芳枝
 (商號)白井商店 白井 祖市
 兒島商店 兒島卯太郎
 (商號)小林商店 小林 禎三
 御德炭礦株式會社
 (商號)小島商店 小島 正輔
 (商號)坂本商店 坂本 芳枝
 (商號)白井商店 白井 祖市
 濱田商店 是枝 綱吉
 株式會社佐藤商店
 (商號)坂本商店 坂本 芳枝
 (商號)白井商店 白井 祖市
 小林 林平
 株式會社佐藤商店
 (商號)坂本商店 坂本 芳枝
 (商號)白井商店 白井 祖市
 窪田 貞吉
 (商號)小林商店 小林 禎三
 御德炭礦株式會社
 (商號)小島商店 小島 正輔
 (商號)坂本商店 坂本 芳枝
 (商號)白井商店 白井 祖市
 島津商店 島津勇太郎
 合資會社自念組
 (商號)篠原商店 篠原坂次郎
 篠原 利則
 山陽帆船商會 白井四平
 篠原海運株式會社
 (商號)關商店 關 市 作
 須田壯一郎
 (商號)副田商店 副田 萬吉
 (商號)寶邊商店 寶邊 直之
 (商號)峠商店 峠 國松
 高橋恒太郎
 (商號)田口商店 田口 環
 (商號)高取商店 高取 乙平
 高木長三郎
 (商號)和田同盟石炭商店田中幾松
 (商號)高取商店 高取 乙平
 高山 寬一
 知元吉太郎
 筑肥炭礦株式會社
 (商號)鶴丸商店 鶴丸廣太郎
 合資會社巴組
 (商號)繩手商店 繩手 山吉
 中野商店 永見 治郎
 (商號)中村商店 中村岩太郎
 (商號)永松商店 永松 實
 中里 忠治
 (商號)中里商店 中里 忠治
 中平石炭株式會社
 (商號)永松商店 永松 實
 中島 三郎
 (商號)仲石炭商店 仲 保太郎
 (商號)中島商店 中島 久吉
 中村 德次
 (商號)中村商店 中村 一
 (商號)中地商店 中地 寅市
 淡盛商會若松出張所中野義一
 (商號)中島商店 中島 三郎
 (商號)中谷商店 中谷 久吉
 中德商店 中村 德次
 (商號)中村商店 中村 一
 (商號)中地商店 中地 寅市

島津商店 島津勇太郎
 合資會社自念組
 (商號)篠原商店 篠原坂次郎
 篠原 利則
 山陽帆船商會 白井四平
 篠原海運株式會社
 (商號)關商店 關 市 作
 須田壯一郎
 (商號)副田商店 副田 萬吉
 (商號)寶邊商店 寶邊 直之
 (商號)峠商店 峠 國松
 高橋恒太郎
 (商號)田口商店 田口 環
 (商號)高取商店 高取 乙平
 高木長三郎
 (商號)和田同盟石炭商店田中幾松
 (商號)高取商店 高取 乙平
 高山 寬一
 知元吉太郎
 筑肥炭礦株式會社
 (商號)鶴丸商店 鶴丸廣太郎
 合資會社巴組
 (商號)繩手商店 繩手 山吉
 中野商店 永見 治郎
 (商號)中村商店 中村岩太郎
 (商號)永松商店 永松 實
 中里 忠治
 (商號)中里商店 中里 忠治
 中平石炭株式會社
 (商號)永松商店 永松 實
 中島 三郎
 (商號)仲石炭商店 仲 保太郎
 (商號)中島商店 中島 久吉
 中村 德次
 (商號)中村商店 中村 一
 (商號)中地商店 中地 寅市
 淡盛商會若松出張所中野義一
 (商號)中島商店 中島 三郎
 (商號)中谷商店 中谷 久吉
 中德商店 中村 德次
 (商號)中村商店 中村 一
 (商號)中地商店 中地 寅市

- 中村忠五郎
- (商號)野村商店 野村作太郎
- (商號)濱田石炭商店 濱田國松
- (商號)林石炭商店 林 麻司
- (商號)平井商店 平井萬次郎
- 平山炭礦株式會社
- (商號)藤田商店 藤田 歡治
- (商號)福田商店 福田 茂平
- (商號)眞鍋商店 眞鍋 道彦
- 株式會社丸一商會
- (商號)松井商店 松井光太郎
- 株式會社三笠商會
- 水之江商事株式會社
- 村井礦業株式會社
- (商號)諸井商店 諸井千三郎
- (商號)山久商店 山本 久吉
- (商號)野口商會 野口爲太郎
- (商號)池田炭礦營業所蓮池正六
- (商號)葉山商店 葉山 豐一
- (商號)樋田商店 樋田 健
- 平松初治郎
- 古河礦業株式會社(商號)新滿之浦炭坑出張所藤本駒吉
- (商號)古川商店 古川又四郎
- 合資會社松川商店
- (商號)松本商店 松本 吾市
- (商號)松江商店 松江金太郎
- (商號)水町商店 水町 一介
- 三菱礦業株式會社
- (商號)守田商店 守田喜代松
- (商號)森下商店 森下 恭甫
- (商號)柳川商店 柳川精四郎
- (商號)森本商店 野口才之助
- (商號)端野商店 端野 米吉
- (商號)平野商店 平野幸太郎
- 久恒礦業株式會社
- 廣島電氣株式會社
- (商號)結城商店出張所結城林清
- (商號)財間商店 橫田 善市
- 若松帆船運輸株式會社
- (商號)松田商店 松田繁太郎
- (商號)森山商店 森山 信通
- (商號)安川松本商店安川清三郎
- (商號)矢田商店 矢田友三郎
- (商號)大信工業商會 前川 巖
- 三井物產株式會社
- 三好商事株式會社
- 株式會社宗像商會

- (商號)彌登商店 彌登 善六
- (商號)大松商店 吉原伊太郎
- (商號)小泉商會 橫田 眞一
- (商號)脇谷商店 脇谷十三郎
- 門司石炭商同業組合員 (大正十四年六月一日現在 四十一名)
- 三菱礦業株式會社門司出張所
- 安川松本商店門司支店
- 瓜 生 商 會
- 九州炭業株式會社
- 柳川商店門司出張所
- 帝國炭業株式會社門司出張所
- 是 木 商 店
- 藏內礦業株式會社販賣部
- 小林 石 炭 商 店
- 株式會社麻生商店若松出張所
- 埴生炭坑出張所太田石炭商會
- 小 島 商 店
- 山下礦業株式會社
- (商號)和田商店 和田實之助
- 柴田 壽雄
- (商號)結城商店出張所結城林清
- (商號)財間商店 橫田 善市
- 若松帆船運輸株式會社
- (商號)松田商店 松田繁太郎
- 宮 崎 商 店
- 山九運輸株式會社
- 森 本 商 店
- 大阪商船株式會社門司支店
- 有 部 商 店
- 合資會社星野商店
- 古河礦業株式會社若松支店
- 山下 礦業株式會社門司支店
- 二 葉 商 店
- 御德炭礦株式會社門司出張所
- 川 原 田 商 店
- 來 島 商 店
- 三井物產株式會社門司支店
- 合資會社大橋商會
- 寶 邊 支 店
- 清友商事株式會社
- 若松佐藤石炭商店出張所
- 合 資 會 社 巴 組
- 古 川 商 店
- 小 原 田 石 炭 商 店
- 植 山 石 炭 商 店
- 貝島商業株式會社門司出張所
- 穴 吹 商 店
- 中 德 商 店
- 小 島 商 店

第五章 貯炭、船積船舶運賃及販賣店 第五款 販賣店

内田商店 中島商店 竹井商店
鶴池商店 占部茂吉郎商店門司派出所

第六章 内外仕向高

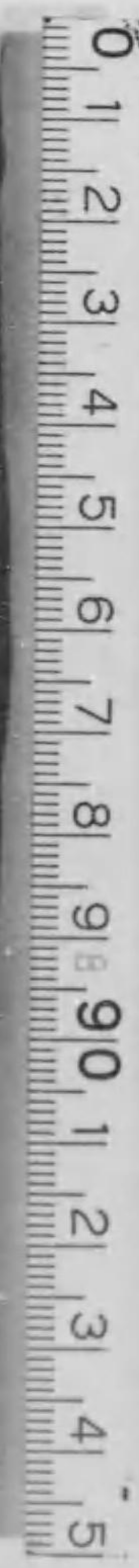
筑豊炭の需要地は之を内外二途に區別して説明するを便利とす、尤も需要地に對する仕向高の外、門司若松兩港にて内外汽船燃料として直接供給せしものは、其汽船の所屬により、之を内外二途に分轄して、前記仕向高に合計し、以て内外別の需要總高を見るの便に供することとせり。

第一款 内地輸送高

▲輸送類別累年比較 筑豊炭の産額より、其坑所に於ける燃料又は販賣高を控除し、(一)各炭坑より鐵道により直に各驛(門司、若松、宇ノ島を除く)に送出せしもの、(二)鐵道の燃料として供給せしもの、(三)水運によりて小倉及芦屋に送出せしもの、(四)門司、若松、宇ノ島、小倉四港より海路内國各地に輸送せしものを合し、(五)尙門司、若松兩港に於て内國汽船燃料に供給せし數量を總計し、最近二十二年間の統計を比較すれば左の如し。(別表参照)

▲全國消費炭總額に對する筑豊炭内地輸送高 前表の示す處に依り、筑豊炭の内地輸送高を以て、全國消費炭の總額に對比すれば實に左の如し。但し左表中全國消費炭の總額は農商務統計に據り、其の船舶、鐵道、工業、製糖の四途を合計せしものにして、其の他の雜用炭を脱したる缺點あるのみならず

昭和二十二年	昭和二十一年	昭和二十年	昭和十九年	昭和十八年	昭和十七年	昭和十六年	昭和十五年	昭和十四年	昭和十三年	昭和十二年	昭和十一年	昭和十年	昭和九年	昭和八年	昭和七年	昭和六年	昭和五年	昭和四年	昭和三年	昭和二年	昭和元年	
1,234,567	1,123,456	1,012,345	901,234	890,123	789,012	678,901	567,890	456,789	345,678	234,567	123,456	112,345	101,234	90,123	89,012	78,901	67,890	56,789	45,678	34,567	23,456	12,345
12.34%	11.23%	10.12%	9.01%	8.90%	7.89%	6.78%	5.67%	4.56%	3.45%	2.34%	1.23%	1.12%	1.01%	0.90%	0.89%	0.78%	0.67%	0.56%	0.45%	0.34%	0.23%	0.12%



内田商店 中島商店 竹井商店
 池商商店 吉部茂吉郎商店門司派出所

第六章 内外仕向高

筑豊炭の需要地は之を内外二途に區別して説明するを便利とす、尤も需要地に對する仕向高の外、門司若松兩港にて内外流船燃料として直接供給せしものは、其流船の所屬により、之を内外二途に分轄して、前記仕向高に合計し、以て内外別の需要地高を見るの便に供することとせり。

第一款 内地輸送高

▲輸送別年比較 筑豊炭の産額より、其坑所に於ける燃料又は販賣高を控除し、(一)各炭坑より鐵道により直に各縣(門司、若松、宇ノ島を除く)に運出せしもの、(二)鐵道の燃料として供給せしもの、(三)水運によりて小倉及青屋に運出せしもの、(四)門司、若松、宇ノ島、小倉四港より海路内國各地に輸送せしものを合し、(五)備門司、若松兩港に於て内國流船燃料に供給せし數量を總計し、最近二十二年間の統計を比較すれば左の如し。(別表参照)

▲全國消費炭總額に對する筑豊炭内地輸送高 前表の示す處に依り、筑豊炭の内地輸送高を以て、全國消費炭の總額に對比すれば實に左の如し。但し左表中全國消費炭の總額は農務統計に據り、其の船舶、鐵道、工業、製糖の四途を合計せしものにして、其の他の雜用炭を脱したる缺點あるのみならず

内地輸送炭輸送類別及内國汽船燃料供給高累年比較表

(月細送炭は四十一年以降若松送炭に、其以前は各縣送炭中に算入す)

年別	海路					鐵路各縣					内國汽船供給高				
	門司より	若松より	宇嶋より	小倉より	小計	水運大	水運小	鐵道	以上合計	門司	若松	小計	總計		
明治三十一年	四六、六六	?	?	?	四六、六六	四、〇〇〇	二、四九、六六	?	七三、九六六	?	?	?	七三、九六六		
三十二年	五七、七八	四八、八七	七、四九	?	一〇七、一五〇	三、九三三	二、四九、七八	?	一、五七、〇六六	?	?	?	一、五七、〇六六		
三十三年	六四、二二	九四、三三	七、六六	?	一六六、二二	六、六三三	一、八三、九七	?	二、五〇、六六	?	?	?	二、五〇、六六		
三十四年	四八、五九	一、四〇、六六	一六、八九	?	一七九、〇〇	一〇、三三三	二、〇四、八四	?	二、一五、六六	?	?	?	二、一五、六六		
三十五年	四四、三三	一、四九、八八	一三、〇四	?	一六七、二五五	一五、七三六	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
三十六年	五三、七〇	一、三九、七九	一三、〇四	?	一七六、五三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
三十七年	四六、五七	一、五三、二八	一〇、九八	?	一六一、八三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
三十八年	五〇、三三	一、七六、五二	一四、四九	?	一八一、三二四	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
三十九年	七六、四七	一、七六、五二	九、五七	?	一五七、五六	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
四十年	八四、九一	一、九七、三三	七、八九	?	一八四、〇二	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
四十一年	八七、〇五	二、三六、五七	七、八九	?	一一〇、三三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
四十二年	七六、一八	二、三六、五七	六、二六	?	一〇九、〇九	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
四十三年	五九、〇九	二、九六、八〇	九、八九	?	一一〇、三三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
四十四年	六八、一九	三、六六、〇七	九、八九	?	一一〇、三三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
四十五年	六八、一九	三、六六、〇七	九、八九	?	一一〇、三三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
大正元年	六八、一九	三、六六、〇七	九、八九	?	一一〇、三三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
二年	四七、四二	四、一六、四四	一〇、三三三	?	一一〇、三三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
三年	四〇、四二	四、一六、四四	九、八九	?	一一〇、三三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
四年	三九、五九	四、一六、四四	八、六〇	?	一一〇、三三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
五年	四九、六四	五、一七、六八	八、六〇	?	一一〇、三三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
六年	四八、五九	五、一七、六八	九、八九	?	一一〇、三三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
七年	四七、九〇	六、二〇、二九	二、三三	?	一一〇、三三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
八年	三九、八二	六、四二、八二	二、三三	?	一一〇、三三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
九年	二四、六七	五、九七、三〇	九、八九	?	一一〇、三三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
十年	二二、五七	五、七九、〇八	七、三三	?	一一〇、三三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
十一年	二〇、八七	六、三三、四六	八、六〇	?	一一〇、三三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
十二年	一三、五八	六、三三、四六	九、八九	?	一一〇、三三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		
十三年	九、〇八	六、三三、四六	七、三三	?	一一〇、三三三	一〇、三三三	一、八三、九七	?	一、八三、九七	?	?	?	一、八三、九七		

筑豊炭の統計に於ても、門司、若松、小倉等にて、地元の工場其他雑用に消費せしもの、及各炭坑にて消費（産出額の約一割内外）せしものを脱したれば本表を以て直に筑豊炭の需要額なりと見るべからず二者共に比較資料として不備を感ずるものなきにあらざれども、今得るが儘を列記し以上の缺點を明にして参考に供することとすべし。

最近二十四年間内國總消費高に對する筑豊炭内國輸送高比較

明治三十一年	四、三九二、九一三	七一三、九八八
同 三十二年	五、〇三四、八四一	一、二二〇、八四七
同 三十三年	五、二六二、一七二	一、九五二、六四五
同 三十四年	六、六七八、八六四	二、一四八、四九三
同 三十五年	六、五〇一、七八六	二、三五一、五二八
同 三十六年	六、九七四、一四五	二、四一三、二二四
同 三十七年	七、四一五、四三九	二、七四一、三八六
同 三十八年	七、一一三、九〇〇	三、三〇五、五三二
同 三十九年	七、二八〇、六四九	三、六五一、五九六
同 四十年	一〇、八五八、一三六	三、七五六、〇二五

第六節 内國總消費高

第六節 内國輸送高

筑豊炭の統計に於ても、門司、若松、小倉等にて、地元の工場其他雑用に消費せしもの、及各炭坑にて消費（産出額の約一割内外）せしものを脱したれば本表を以て直に筑豊炭の需要額なりと見るべからず二者共に比較資料として不備を感ずるものなきにあらざれども、今得るが儘を列記し以上の缺點を明にして参考に供することとすべし。

最近二十四年間内國總消費高に對する筑豊炭内國輸送高比較

年 別	内國總消費高	筑豊炭内國輸送高(内船用を含む)
明治三十一年	四、三九二、九一三	七一三、九八八
同 三十二年	五、〇三四、八四一	一、二二〇、八四七
同 三十三年	五、二六二、一七二	一、九五二、六四五
同 三十四年	六、六七八、八六四	二、一四八、四九三
同 三十五年	六、五〇一、七八六	二、三五一、五二八
同 三十六年	六、九七四、一四五	二、四一三、二二四
同 三十七年	七、四一五、四三九	二、七四一、三八六
同 三十八年	七、一一三、九〇〇	三、三〇五、五三二
同 三十九年	七、二八〇、六四九	三、六五一、五九六
同 四十年	一〇、八五八、一三六	三、七五六、〇二五

同	四十年	一〇、二二一、〇八一	三、九九三、九〇六
同	四十一年	一〇、一二九、八二一	四、一六二、六一九
同	四十二年	一〇、五九二、八一六	五、一六〇、九九六
同	四十三年	一二、〇七〇、九〇三	五、八五九、七五五
同	四十四年	一三、四八七、九〇七	六、五九二、〇八五
同	四十五年	一四、九二四、四三七	七、一九〇、〇九一
大正	二年	一六、二一九、五三七	六、八〇九、四六三
同	三年	一六、二五九、九七八	六、九三二、三三三
同	四年	一八、五七九、一二六	七、九三五、五九五
同	五年	二〇、七〇七、四五二	九、一五二、五四五
同	六年	二三、〇二五、八〇三	九、五二九、一九三
同	七年	二四、八〇〇、九六八	一〇、二四二、五八八
同	八年	二五、六六四、五二一	九、三一〇、六六九
同	九年	二四、六二三、三二四	八、八九〇、六二五
同	十年		九、三五七、九三八
同	十一年		九、六四二、三二五
同	十二年		

震災の爲め調査不能

同十三年
 ▲内國海路輸送先別八ヶ年比較
 前記海路輸送戻に就き、各仕向先國別、主要仕向先地別、最近八ヶ年間の輸送高を比較すれば左の如し。

積送先	大正十三年	大正十二年	大正十一年	大正十年	大正九年	大正八年	大正七年	大正六年
國別	二、六〇〇、三三九	二、六五六、八八三	二、五六六、七四七	二、三八三、五六六	二、八五九、五四八	三、一九三、一七三	三、〇九一、二二五	二、九四一、三〇五
攝津	五三五、三三〇	四八二、二七二	五五八、二四六	四八一、六二九	五二四、五八九	五五八、九〇八	五六一、一五三	五七六、二二一
武藏	五五三、三五四	四九五、七九六	四七九、九七二	四四六、二七九	三三一、三〇八	四四〇、八四九	四〇〇、四五〇	四三九、三三二
尾張	三六八、六八〇	三七〇、七八八	四〇七、八五〇	四九四、一五〇	四八六、七六四	四一三、三六七	三四〇、九七七	三五一、一一七
安藝	四一一、〇三二	四〇五、七〇一	三八三、四六四	三三三、三二二	三三四、六〇二	三三四、一三五	三二六、三六九	二九〇、一〇四
播磨	二〇七、四〇六	二〇三、七六〇	二四、二二二	二三八、三三九	二〇四、三一一	二五三、六八	三四三、八三一	二七〇、九九七
長門	二二一、六〇八	二二〇、五二一	二二一、〇八五	一八〇、一七一	二二五、〇四〇	二三八、七〇一	二四六、七五五	二五二、四四七
備前	二四六、六〇四	二三四、六七三	二二〇、六四一	一九三、二二九	二〇一、〇五一	二二一、〇二九	一九八、六〇六	二三四、九四三
伊豫	一九七、五七九	二〇三、二〇一	二二六、八八五	一九四、五七五	一五四、六七九	一九二、〇二八	一九八、四四三	一八九、五二二
和泉	一六七、九三三	一七八、七三五	一六二、二〇五	一五二、二八五	一二六、一七六	一七二、三四九	一五四、四三九	一五五、二八〇
紀伊	三〇、三五五	三一、三四一	三一、〇四九	三四、四一一	三七、一三三	四三、九六五	八六、五八二	一二六、九三二
備中								

第六章 内外仕向高 第一款 内地輸送高 一五七

備	朝	周	伊	阿	土	讚	豐	越	伯	駿	三	越	淡	越	丹	筑
後	鮮	防	勢	波	佐	岐	後	後	書	河	河	前	路	中	後	前
九七、〇一四	二七、二三八	五四、一〇五	八一、三二三	九八、五八九	九九、三七三	一七、九三三	六四、五一五	九一、八四六	五一、六〇〇	九五、一五八	八六、一五	六六、九七〇	六五、八七二	三六、三四一	五二、二四〇	八、二八
九七、五七一	一一七、二九八	五一、一八五	八五、五〇一	八九、四三〇	八五、二九	七九、四二二	五三、七三七	四九、八三四	四九、三九六	七二、四六五	七七、八四六	五〇、七五二	六〇、二七	三〇、二六五	四三、七七八	三、二八〇
一〇四、七四三	一〇八、八二四	六六、五七九	九一、五五七	七九、〇四二	八五、四七九	九三、六三〇	五三、五九二	五〇、八九〇	四九、三六一	六九、六〇七	六六、〇〇一	六〇、二一一	四四、七二二	二二、六八七	三九、〇五一	八、九〇八
六八、二三五	一五八、五七九	六〇、八一六	七六、六九二	六七、〇五一	六三、四二三	五三、三五六	四七、二五三	二二、九七五	四一、一五四	五六、五九五	五九、九五四	三四、七六四	三四、二四〇	一六、一〇六	三〇、〇五二	一四、二六〇
一〇九、九八〇	一三五、一九〇	八〇、五九五	四六、三八	六四、六八四	五三、九〇一	五三、三八四	三九、五二四	一一、六四四	四四、九八七	二二、一六	三〇、二三〇	二四、五二七	二八、七五二	二二、四二九	四九、一九〇	一四、九七一
一三〇、二七五	二〇六、五三三	七五、五六三	六四、三三〇	六四、二六八	五九、五六八	五四、一九一	三四、六一三	三九、一一二	四四、九三五	二二、九一六	四八、四〇五	二〇、九〇六	三八、五九二	一七、二二四	七、九一〇	二五、二四五
一一九、二〇四	一一七、四四六	六一、七一一	六七、六七四	五七、七四二	五八、六七七	四六、三七三	二九、六九一	八七、八〇二	四三、八五	三八、一四六	三三、八一七	二二、二四五	二五、二九一	二二、二八二	一一、三二八	一六、七〇五
一〇四、三五七	七三、五七六	七〇、〇六六	六四、九八四	五九、三四九	五七、二九八	四六、三七八	四一、一八八	三九、七一一	三四、八四八	三三、六四四	三一、五七五	二五、六七	二二、九〇三	一五、七三二	七、二六七	六、九七四

能	琉	日	豐	若	志	石	陸	肥	因	出	羽	對	佐	陸	大	筑
登	球	向	前	狹	摩	見	中	前	幡	雲	後	馬	渡	奧	隅	後
四〇、三三〇	三、七八一	一、〇三三	四、〇七八	五、七五七	三八、一九一	一、五三三	三、〇七七	三、一一三	三、二七	一、四三三	一、〇一一	九七九	—	七〇	—	
三三、七〇一	一、四一六	一、九六一	二、〇九四	四、〇〇七	二八、八七九	一、九五四	—	二、二〇〇	七九〇	三、六四八	一、二二二	一、一六〇	—	—	—	
二九、四六六	八四九	一、六一	五、〇〇六	五〇〇	七、九七八	一、八五二	—	二、〇七二	六〇〇	二、三九四	三、三八	一、三九一	—	一七一	—	
二二、四九四	一、〇二九	二、四四四	一一、七六八	一、二五四	七、五八八	二、五九三	—	七、一六二	九三三	二、一八五	三、六五七	一、四九二	—	—	—	
二〇、七〇二	八、五四六	二、三五〇	二〇、三七四	三、〇七九	七、三六八	一、七二二	—	四、六七四	一、五六九	一、八〇九	—	一、一五	—	一五	—	
三八、四七	三、七三五	二、七三六	三三、八〇〇	三、二一六	一一、〇七〇	一、五八五	四五三	三、八六三	二、七三二	二、五二二	二、五四六	七三五	—	一〇〇	九〇	
二九、三四九	五、二八三	二、七三〇	一〇、六二二	六、〇六二	三、三五五	二、四八七	三五三	一、九三四	三、二七〇	三、九二五	二、六七四	一、五六一	—	九五	二八〇	
六、九〇八	六、九〇四	六、三〇二	五、九五九	四、二二	四、〇五一	三、四四九	三、三七五	三、〇六七	三、〇五〇	二、九九〇	二、二八〇	一、一四四	—	四九三	—	

第六章 内外仕向高 第一款 内地輸送高

廣島	一二、九八五	一二、六二二	二四、二〇七	一九、七六七	二〇、六九九	二八、〇二八	二八、〇二八	二二、九六五
德島	三三、三三六	四〇、七五七	三七、六三二	三四、七三二	三三、五三三	三三、五三三	三三、五三三	三三、五三三
高知	八〇、六六三	七一、〇二二	六八、七五二	五〇、九九二	四〇、六九二	四〇、六九二	四〇、六九二	四〇、六九二
字品	一四六、三七七	一三三、五〇九	九六、七三〇	五六、九九五	四五、六一七	四五、六一七	四五、六一七	四五、六一七
糸崎	一九、三三三	二四、五五五	二二、七四三	一三、九九三	四四、七三三	四四、七三三	四四、七三三	四四、七三三
小野田	四七、〇八九	三三、六〇〇	二八、一九二	二六、六九二	二二、七二〇	二二、七二〇	二二、七二〇	二二、七二〇
四日市	八一、一九三	八五、三五二	九〇、八二九	七五、一四八	四五、一三七	四五、一三七	四五、一三七	四五、一三七
四股島	二九、九九八	三〇、八二〇	四一、八〇三	四〇、一〇〇	五九、九四七	五九、九四七	五九、九四七	五九、九四七
彦島	二八、四三八	二五、七五六	一九、五二七	三一、〇四四	二八、三二〇	二八、三二〇	二八、三二〇	二八、三二〇
名古屋	八九、三三九	七、七九八	六七、六三五	九八、二七五	一一〇、七五七	一一〇、七五七	一一〇、七五七	一一〇、七五七
宇野	六四、九五四	八二、三九二	六九、三〇一	五四、七八二	七四、九五四	七四、九五四	七四、九五四	七四、九五四
堺	五四、六〇四	四八、九五八	六〇、四六二	六六、八七二	五一、八三六	五一、八三六	五一、八三六	五一、八三六
高砂	七五、九一八	八二、七五九	六二、五六一	六〇、四六八	六二、九〇六	六二、九〇六	六二、九〇六	六二、九〇六
岸和田	一〇六、八三三	一一四、三三五	一一四、三九〇	一一〇、八八〇	八一、四〇八	八一、四〇八	八一、四〇八	八一、四〇八
尼崎	一〇四、〇三五	一〇七、六六四	一〇九、二五一	一一一、八五七	一一〇、四八一	一一〇、四八一	一一〇、四八一	一一〇、四八一
中田	一一三、四三七	一一三、一六〇	九七、五八六	八八、八九六	三四、三七四	三四、三七四	三四、三七四	三四、三七四
岡山	七二、七四九	七八、七六四	九六、九九三	七六、四八四	九六、六三二	九六、六三二	九六、六三二	九六、六三二

新瀉	二九、六九五	三三、六四〇	二〇、六三三	一七、六六七	六、八四四	八、七三二	三七、六五七	三〇、六〇〇
東京	一〇八、〇〇五	一一二、七二六	一六、七七七	七四、九六〇	一三四、二九一	三三、〇二二	四八、七〇六	二八、三三五
徳山	一〇、七五五	一一、八三八	二一、一六七	一五、三七五	三三、四〇六	二七、五三四	二四、四八四	二七、八四二
宇和島	四一、七三三	三六、四三二	三三、四四〇	二六、四九六	二七、〇三八	二七、〇八二	二四、六一一	二六、八七六
津久見	一三、八五七	五、四八〇	四、七三三	五、七五六	三、七七八	二、一五九	三〇	三〇
佐賀	一九、二九六	一六、一三三	一六、六五五	一〇、七二九	一一、六五九	一一、三二七	一一、八〇三	二六、四六六
高濱	三〇、一〇七	二七、一八六	二三、六六七	二五、七五二	二四、一九九	二三、三〇六	二三、三九二	二六、四三七
西宮	六五、七二七	二七、一八六	四五、六七六	二三、四二二	一八、七四二	二三、五六九	二三、九九一	二五、五四八
境	四九、五五〇	四七、五〇五	四八、五〇九	三九、一九三	四一、七九八	四一、九三一	三四、八七五	二五、五一九
今治	三六、五三一	三三、三三四	三二、六〇〇	二五、六四九	二二、六〇〇	二三、七二八	一七、〇〇七	二五、〇三三
清水	二二、五六六	四九、二二七	四六、三三三	二七、九九七	一四、八五一	一四、四八二	二五、三三九	二四、二四八
釜山	四三、四八九	五〇、〇五九	五〇、四三八	五九、六三四	五三、一七四	二六、五九六	三八、二二三	二二、二九一
敦賀	五八、四四七	四三、八六五	五〇、九六一	二七、二九二	一八、〇三四	一七、四三七	二〇、二一九	二二、六四八
三谷	三二、四〇五	二五、六八八	三〇、九〇二	二二、九九九	二二、八二八	四三、一〇四	三二、三六四	二二、三三一
高松	六二、五〇九	四一、五二七	五三、二三〇	二三、五三三	二八、七二一	二八、一五三	二三、三六二	二二、二〇五
因島	九、七〇四	一八、〇二九	二六、四九九	一四、二二四	三〇、八八八	三二、二四六	三〇、三三五	一九、〇五〇
尾道	三〇、五三六	二四、二一九	二六、四〇一	一三、七五一	一四、五三五	一一、七一九	一三、五三二	一七、三四六

第六章

内外仕向高

第一款

内地輸送高

宮ノ浦	一〇、九九九	三、五九三	四、九二七	一三、六九二	一三、二〇〇	一〇、七六三	二、〇八六	五、八八七
片上	一三、九八七	九、二八二	七、九八七	四、八一七	八、一二七	九、五六五	一四、三五〇	一六、四三三
福山	二七、七三八	二三、八二五	二二、五二七	一九、四一九	一四、三七一	一〇、九九〇	一一、四〇五	一六、〇六三
撫養	三四、六六六	一八、五〇二	一七、二八五	一七、〇七八	一八、六五〇	一七、五四七	一三、〇六三	一五、九〇三
阪出	一〇、〇六二	六、六四二	九、八九〇	七、四九八	八、四七七	九、九一五	九、四〇一	一五、三九九
洲本	四五、一四一	三七、九三九	二七、三八九	二二、〇二一	二九、四三八	二二、四一〇	一三、七四六	一四、〇〇七
二見	一一、三三四	一三、三三〇	九、五六〇	六、一五五	二、五九〇	四、〇一四	三、八七二	三、五三一
明石	二七、四一一	二四、二六二	三三、九八一	一九、五二八	一四、九三六	一一、八二七	一八、六八六	一三、六三〇
網干	二、四七六	二〇、五二二	九、八五五	八、六八一	九、六三一	二〇、七六一	二二、〇八八	一三、五四一
伏木	三四、七二〇	二八、七三三	二二、一八六	二二、九八三	一九、八二九	一一、九三八	一七、六三三	一三、四三三
玉島	一三、四五二	一四、二六二	一五、四六三	一四、七〇〇	一〇、三〇〇	一一、五二一	一〇、九三五	一三、四〇七
多度津	一六、三六三	一〇、一三六	九、三四九	五、四四四	五、七四	二、三二一	三、四七	一、一〇四
川之石	一一、七〇三	九、二二三	一一、一六八	一一、四三七	一五、五一五	一一、六四〇	一一、〇六七	一一、二四〇
三津ヶ濱	一四、六五六	一五、一八五	一五、〇三九	一〇、〇一六	七、四一六	六、九三三	九、六三三	一一、九八四
元山	一五、二五五	一三、四六二	一一、二六五	六、三三八	一〇、四〇一	八、一三四	四、九四二	一一、八八六
西大寺	一四、一八三	九、九二三	一三、一八〇	四、七九二	六、一五四	一一、二五八	一三、八六八	一一、八三〇
笠岡	一四、一〇六	一一、九五七	一一、〇〇七	一〇、四八四	八、八七五	七、八九四	八、五三二	一〇、一九五

仁川	三六、四七八	三七、〇四六	二七、八九三	三八、五五七	三七、七二一	四五、五四三	三、三六一	九、七四二
由良	一四、四三三	一一、七九一	四、七九一	八、三六八	五、五八〇	一〇、六二六	六、五八二	—
若松	八、二〇一	三、二四二	八、九〇八	一〇、六七四	一一、四〇八	二五、〇〇四	一六、六一六	六、九六八
江尻	七、五九二	一三、二三八	一三、二八四	二八、三三七	五、二二四	八、二九九	一三、八一七	九、七三二
八幡濱	一一、五三二	一一、二六六	八、七九六	七、五九七	六、四四一	九、〇五四	七、五二〇	九、二九九
前田	二二、一六一	一八、二七八	一七、一五八	七、一九五	—	—	—	—
新居濱	一三、二二八	一〇、二九一	二、四六五	二、〇六三	九、七五	七、三五	六、九五	二、八四五
那波	二〇、〇五三	一〇、九八〇	一四、八八九	一一、六五二	八、九二四	一八、〇八八	一一、四六九	八、四〇一
岩國	九、八四〇	八、七〇一	七、二九二	九、九一五	六、六一一	六、八〇七	六、八五三	八、一六四
勝浦	六、三七四	八、五〇六	四、四五二	五、六一八	三、三七九	三、八四七	一一、二八二	八、一三〇
長濱	一〇、八四三	一一、三七〇	一一、八五一	一一、〇六一	七、七七七	八、八一〇	六、九〇六	八、一三三
曾根	五、六三六	四、一七七	一、二二九	—	—	—	—	—
別府(播磨)	一〇、七九三	七、九八〇	七、七七五	五、五二四	四、四九三	七、九七一	七、八〇三	七、五二七
七尾	四〇、三三〇	三三、四三三	二九、四六六	二二、四九四	二〇、七〇二	三七、八七一	一九、三四九	六、六四八
舞鶴	四二、五五六	三五、〇一九	二八、二八五	二四、八五五	四六、四六五	六、六八四	一一、二二三	六、六〇五
三田尻	一一、八六三	九、〇三七	一三、〇八九	八、九三一	一九、七四一	一三、一四七	四、九二六	六、五八二
林田	一三、四七四	一、七五〇	一、五三四	—	—	—	—	—

第六章 内外仕向高 第一款 内地輸送高

木浦	一一、四五七	七、三三三	四、五九一	五、八〇七	一〇、〇七一	一〇、三二〇	八、一三七	六、五二九
西條	九、五二七	九、一三九	七、四八二	四、九六三	六、九〇二	三、六四六	四、三四〇	六、二六三
直江津	六〇、九六七	二五、九〇五	二八、八八〇	三、七七七	三、一五五	二八、八五五	四六、九〇五	六、一六九
能美島	六、三三五	六、一七	七、六一	五、八二二	四、八三七	七、一七七	五、六二一	六、一三二
三國	五、三四	三、四一九	五、五〇六	四、二二一	一、九二二	二、二八九	二、一六六	一、一三三
貝塚	九、一五八	一一、一六八	一三、一五九	六、一八五	九、〇六二	八、四七五	五、四八七	五、八一九
樽井	七、五二六	六、九二五	三、〇三二	三、二四六	一八五	六九八	二五一	九九五
小豆島	五、四五八	四、六四四	四、六四三	七、五六〇	三、六二八	四、四九九	二、三五八	五、〇三八
味野	九、六〇四	八、六七九	八、七八四	六、九四七	六、八〇二	四、九三三	五、〇五六	四、三五六
吉見	八、〇六二	八、八五三	一〇、五三六	七、五三三	九、九四〇	六、五三七	二、〇八〇	—
小松島	二五、五九一	二三、〇二二	一六、九三九	一〇、九六三	九、七六六	七、〇五六	六、五七七	—
鳥羽	三八、一九一	二八、八七九	七、九七八	七、四八六	一、四〇一	三、九二〇	三、五二〇	三、九五二
鹽津	一九、五四二	一七、一六三	六、八三三	一、六五五	—	—	—	—
野田寒	一〇、二二五	一九、六六六	—	—	—	—	—	—
赤穂	五、〇四四	四、〇六三	九、三五六	二、四〇五	四、七二七	三、八八一	二、四三五	—
徳浦	一一、五三一	一〇、四七二	七、七七二	九、三〇八	一〇、七〇七	八、五八四	三、七二二	—
吉浦	六七、五二五	六〇、九八五	四九、八一七	四三、九二〇	二〇、八三三	一、九七四	五、二三五	—

一六六

蒲郡	六二、三〇七	五一、九四三	三四、三九九	三六、六六八	五、二八	三、八七七	一、七三二	—
日字郡	七、〇七一	六、三〇二	二、三二八	—	—	—	—	—
阿賀	六、四五六	一八、六二六	一八、八七六	二、六五二	一、七三三	一、二八四	一、三五五	三四八

以下略す。

第二款 海外輸出高 (附外國船燃料供給高)

▲累年比較 門司、若松兩港より筑豊炭の海外に輸出せられし數量、及外國船燃料として供給せし數量に就き、明治三十一年以後の累計比較を表示すれば左の如し。

年別	海外輸出高			外船燃料炭供給高			合計
	門司	若松	小計	門司	若松	小計	
明治三十一年	七三四、〇六四	—	七三四、〇六四	二七一、六八〇	—	二七一、六八〇	一、〇〇五、七四四
同三十二年	九七八、一六四	—	九七八、一六四	二六七、二四二	—	二六七、二四二	一、二四五、三七八
同三十三年	一一、一四六、三七三	—	一一、一四六、三七三	四三〇、四九九	—	四三〇、四九九	一、五七六、八七二
同三十四年	一一、八五〇、一三八	—	一一、八五〇、一三八	五二七、八三三	—	五二七、八三三	二、三七七、九七一
同三十五年	一、六八三、四八二	—	一、六八三、四八二	四八五、二九六	—	四八五、二九六	二、一六八、七七八

第六章 内外仕向高 第二款 海外輸出高

一六七

同	三十六年	一、九〇四、七七一	一、九〇四、七七一	五六六、六九五	一六八	五六六、六九五	二、四七〇、九六六
同	三十七年	一、五四一、七八八	九〇、七八八一、六三三、五七六	六六三、八三三	五、六五二	六六三、八三三	二、三〇三、〇六〇
同	三十八年	一、一五二、六三二	二〇六、〇八二、三五八、七〇四	七三五、四八五	一四、〇六八	七四九、五五三	二、一〇八、七五五
同	三十九年	九〇四、七七六	三九四、三三九、二九九、一一五	六三九、八四二	二九、五二九	六六九、二七〇	一、九六八、四八五
同	四十年	一、二四、九九七	五二三、〇七七、一、六三八、〇七四	六二九、九五八	四一、三九五	六七一、三五三	二、三〇九、四二七
同	四十一年	一、〇七六、四三四	六六七、三五五、一、七四三、八二九	五六五、七四九	五四、四四八	六二〇、一九七	二、三六四、〇二六
同	四十二年	八三、九七二	七三、三六七、一、五五八、三三九	四一、九一五	六二、一九	四七四、〇四四	二、〇三三、三三三
同	四十三年	八九八、四九八	六九三、八一六、一、五九二、三三四	四七八、六七二	六一、六五九	五四〇、三三一	二、一三三、六四五
同	四十四年	七三六、五三六	七〇九、八二四、一、四四六、三五二	四四六、〇三三	五八、二七八	五四〇、三〇一	一、九五〇、六五三
同	四十五年	七七八、九八五	八六二、九七七、一、六五〇、九六二	五〇七、二八一	一八、二三五	五二五、五〇六	二、一七六、四六八
大正	元年	九七三、五六四	九四三、一三六、一、九一六、七〇〇	五七一、九〇九	七、六四〇	五七九、五四九	二、四九六、三四九
同	二年	七三〇、一一〇	九一六、〇五一、一、六四六、一七一	四三三、九〇七	一〇、一二七	四四四、〇三四	二、〇九〇、二〇五
同	三年	三八八、〇〇五	八三三、七八七、一、二二一、七九二	二二〇、六七二	一、四九八	二二二、一七〇	一、四四三、九六二
同	四年	二六九、八五三	八〇一、五八八、一、〇七一、四四一	三〇一、三四	七、五八二	三〇八、八九六	一、三八〇、三三七
同	五年	二四八、四〇六	七七九、〇三二、一、〇二七、四三八	一七一、六八四	二、七九〇	一七四、四七四	一、一〇一、九二二
同	六年	二四六、五九四	四九八、四七七、七四五、〇七一	一一一、四八七	二、九六八	一二四、四五五	八六九、五二六
同	七年	八三、五九〇	五三九、八八五、六三三、四七五	一四六、七二四	二、〇三六	一八四、七六〇	七二二、二三五

同	九年	一五四、二四二	五三四、一五一	六六八、五九二	二、一五四	二八七、〇三三	九六五、四二五
同	十年	二六三、九四一	五九五、三三三	八五九、二五四	二五八、七〇三	二五九、四七三	一、一八、七七七
同	十一年	一三三、〇一九	三四三、八三〇	四七六、八四九	三四一、一七七	五、三〇八	八三三、三四四
同	十二年	二八、九八一	三五一、〇一〇	三六〇、〇〇一	一七〇、二四二	一、九二四	六五二、一五七
同	十三年	一一、九六九	四八〇、四二四	四九三、三九三	三六、七四八	六、六八〇	八二六、八二二

▲全国海外輸出炭に對する筑豊炭輸出高累年比較
 内地輸送の例に依り、更に全国各港より海外各地に輸出せし數量に對し、門司、若松に於ける筑豊炭の海外輸出高を比較するが爲め、累年表を示せば左の如し。

全國海外輸出炭に對する筑豊炭輸出高累年比較		
年	別	
明治三十一年	全國海外輸出高 二、二〇七、六六六	
同	三十二年	二、五一一、〇七一
同	三十三年	三、三八四、五九〇
同	三十四年	二、九五一、一八六
同	三十五年	二、九六九、八八五
第六節 内外仕向高 第二款 海外輸出高		
筑豊炭海外輸出高 七三四、〇六四		
九七八、一六四		
一、一四六、三七三		
一、八五〇、一三八		
一、六八三、四八二		
一六九		

同	三十六年	三、四六〇、九二八	一七〇
同	三十七年	二、九〇一、五三二	一、九〇四、二七一
同	三十八年	二、五二七、五八八	一、六三二、五七六
同	三十九年	二、四四〇、九一二	一、三五八、七〇四
同	四十一年	二、九六九、三九七	一、二九九、一一五
同	四十二年	二、九〇九、〇六七	一、六三八、〇七四
同	四十三年	二、八一六、〇四七	一、七四三、八二九
同	四十四年	三、〇六五、六七八	一、五五八、三三九
同	四十五年	三、四六七、八七〇	一、五九二、三一四
大正元	年	三、八七〇、六〇〇	一、四四六、三五二
同	二年	三、五八六、八〇六	一、六五〇、九六二
同	三年	二、九二四、〇九二	一、九一六、七〇〇
同	四年	三、〇一六、九四七	一、六四六、一七一
同	五年	二、八一三、四六二	一、二一一、七九二
同	六年	二、一九七、〇三七	一、〇七一、四四一
同	七年	二、〇一六、七〇三	七四五、〇七一
同	八年		六二三、四七五

同	九年	二、一四六、五六六	六七八、三九二
同	十年	二、三八七、七〇九	八五九、二五四
同	十一年	一、六九〇、六九九	四七六、八四九
同	十二年	一、五七四、三〇五	三八〇、〇〇一
同	十三年		四九三、三九三

海外輸出先別八ヶ年間比較

輸出先	大正十三年	大正十二年	大正十一年	大正十年	大正九年	大正八年	大正七年	大正六年
上海	二九二、〇三三	二八、九〇一	一九三、〇三八	二四五、八二二	二五六、三五〇	三七、八八八	三六、八九五	四〇五、二八四
香港	八一、六五四	九五、七三四	八二、七二一	一六二、〇四二	一〇三、六三五	一〇九、八八七	一五九、五五六	三四二、二四四
漢口	三六、一八五	—	一、七三三	二、二〇〇	七、三八九	一〇、三八	六二、七二七	六九、七〇二
廣東	三五、〇三四	二二、九六六	五、〇七七	一六、九七七	—	—	一、六四三	二七、七二二
青島	八、一六九	六、六二一	三、三四	五、五六九	三、四八四	一八、〇二七	五、一九五	一、八〇八
新嘉坡	七八、六〇〇	二二、五三五	五七、六〇六	一六、〇一〇	七二、三〇三	七、五五六	七九、五九七	八九、五八七
アンガリア	五、〇〇九	五、九六七	二、四〇〇	二、四八一	二、五〇七	—	—	—
イラノド	四、六六九	一、六〇三	一、七〇〇	—	—	—	—	—
寧波	三、六〇一	一、五〇九	二、九二九	五、〇二二	五、〇三四	三、五九七	三、一八一	二、五七五
蕪湖	—	—	—	—	—	—	—	—

第六章 内外仕向高 第二款 海外輸出高

孟買	西貢	カラチエー	マドラス	浦墟斯德	カルカッタ	ハイフオン	パタピヤ	古倫母	漢陽	蘭貢	馬尼刺	マカツサイ	タンシヨ	アリオク	盤谷	新西蘭	イロイロ
六、三六七	三〇、六五一	一〇、一五〇	五、八一〇	二、二五〇	二、一九〇	三〇〇	四〇、五七四	二九、八五八	二五、四〇七	一六、四六二	一〇、五三四	四、五二五	三、八三〇	三、三七	三、〇九六	二、六〇〇	
二四、四八九	二四、一九三	七五、一六一		七、五九二	九、〇六四		二〇、九七七										
	二四、五二			二四、〇三							三、〇七六			一、四七三	五、一〇三		
				五、四六八				一、〇〇〇			一三、七八九			三三三		一七三	
	一一、〇五二	二、二〇〇		四、八四六				六、一三三			二七、三五五			四、〇〇〇			
	三、三九八			一、五九〇				七、六三三			一六、二八						

第六章 内外仕向高 第二款 海外輸出高

通州	黄浦	天津	ニユー	カレドニア	當沙頭港	トラツク	厦門	サイパン	九江	南京	大連	ヤツプ島	海防	汕頭	萩港	セブ	ヤールト
二、七七一	二、七一〇	二、一〇五	二、一八八	二、〇〇〇	一、八七九	一、五二三	一、四三〇	二、一七七	二、一七〇	二、〇六六	三、三〇	三、六三五	三、四三六	二、四九〇	一、九〇九	一、三六五	一、〇〇〇
								二、九六五			二、六七五						
											二、〇七、三四						
											大六、九七						
											大二、〇七						
											大六、九七						
											大五、一四〇						
											大五、一〇						
											七、三六						

一七二

瓜哇	1,500	4,000	1,800	174	
アレクサンドリア	1,000				
リビア	1,150				
旅順口	750				
サマラン	5,400		2,950		
セノア	9,780				
牛莊	8,000				
秦皇島	4,800		9,500		
スラバヤ	3,600		490		
芝罘	3,180				
大冶	1,900		5,100		1,000
倫敦	1,600	200	3		
鎮江	1,250				
安南	1,290				
智利	600				
福州	500				
ベナン	400				
合計	33,600	200			6,150

マソラン					2,365
南洋					90
鴻基					3,643
マシナル島					2,700
廣州灣					550
小計	493,393	380,001	476,849	859,254	678,392
外國船燃料	333,426	272,156	346,455	259,473	287,033
合計	826,819	652,157	823,304	1,118,727	965,425
合計					772,235
合計					869,561
合計					1,017,438
合計					1,174,474
合計					1,701,922

第三款 内外仕向高總額

(附筑豊炭船用の全國船用炭に對する比較)

▲内外仕向高總額 以上第一款及第二款に掲げたる、内外兩途の仕向高を合計して、其累年比較を表示すれば左の如し。

筑豊炭内外仕向高總額累年比較表

年次	内國輸送高 (船用とも)	海外輸出高 (船用とも)	合計
明治三十一年	713,988	1,005,744	1,719,732
第六章 内外仕向地			175
第二款 海外輸出			

同	三十二年	一、三〇、八四七	一、二四五、三七八	二、四六六、二五
同	三十三年	一、九五二、六四五	一、五七六、八七二	三、五三九、五二七
同	三十四年	二、一四八、四九三	二、三三七、九七一	四、五二六、四六四
同	三十五年	二、三五一、五二八	二、一六八、七八	四、五二〇、三〇六
同	三十六年	二、四一三、二三四	二、四七〇、九六六	四、八八四、一九〇
同	三十七年	二、七四一、三八六	二、三〇一、〇六〇	五、〇四三、四四六
同	三十八年	三、三〇五、五三二	二、一〇八、二五七	五、四一三、七八九
同	三十九年	三、六五一、五九六	一、九六八、四八五	五、六二〇、〇八一
同	四十年	三、七五六、〇二五	二、三〇九、四二七	六、〇六五、四五二
同	四十一年	三、九九三、九〇六	二、三六四、〇三六	六、三五七、九三二
同	四十二年	四、一六二、六一九	二、〇三二、三八三	六、一九五、〇〇一
同	四十三年	五、一六〇、九九六	二、一三二、六四五	七、二九三、六四一
同	四十四年	五、八五九、七五五	一、九五〇、六五三	七、八二〇、四〇八
同	四十五年	六、五九二、〇八五	二、一七六、四六八	八、七六八、五五三
大正	元年	七、一九〇、〇九一	二、四九六、二四九	九、六六六、三四〇
同	二年	六、八〇九、四六三	二、〇九〇、二〇五	八、八九九、六六八
同	三年	六、九三二、三五三	一、四四三、九六二	八、三七六、三二五

同	五	年	七、九三五、五九五	一、三八〇、三三七	九、三二五、九三二
同	六	年	九、一五二、五四五	一、二〇一、九二二	一〇、三五四、四五七
同	七	年	九、五二九、一九三	八六九、五二六	一〇、三九八、七一九
同	八	年	一〇、二四二、五八八	七七二、三五	一一、〇一四、八三
同	九	年	九、三三〇、六六九	九六五、四二五	一〇、二七六、〇九四
同	十	年	八、八九〇、六二五	一、二八、七七	一〇、〇〇九、三三二
同	十一	年	九、三三七、九三八	八三三、三四	一〇、一八一、二七二
同	十二	年	九、六四二、三五	六五二、一五七	一〇、二九四、四八二
同	十三	年	一〇、一五、八八一	八二六、八二二	一〇、九四二、七〇二

▲前表中船用炭の總額、並に全國船用炭に對する比較を見るが爲め、更に左に一表を附す。

年	内國艦船用炭	外國艦船用炭	合計	内船用	外船用	合計
明治三十一年	七九一、一五八	—	七九一、一五八	—	—	七九一、一五八
同 三十二年	一、二四四、七七一	—	一、二四四、七七一	—	—	一、二四四、七七一
同 三十三年	一、四六三、八二二	—	一、四六三、八二二	—	—	一、四六三、八二二

第六章 内外仕向高 第二款 海外輸出

門司若松兩港に於ける筑豊炭船用供給高

同三十四年	一、三九六、七四五	一、三九六、七四五	一、三三、六六九	一七七八	六五、五〇二
同三十五年	一、五三四、二七二	一、五三四、二七二	一、六七、〇五三	四八五、二九六	六五二、三四九
同三十六年	一、七四四、三四二	一、七四四、三四二	二、二、〇一五	五六六、六九五	七七八、七二〇
同三十七年	二、二八、一七	二、二八、一七	四一〇、二八六	六六九、四八四	一、〇七九、七七〇
同三十八年	一、九九七、〇六九	一、九九七、〇六九	六一四、二三四	七四九、五五三	一、三六二、七八七
同三十九年	一、八〇四、七八七	一、八〇四、七八七	五〇五、一六五	六六九、三七〇	一、一七四、五三五
同四十年	二、三三三、〇四五	二、二八六、四七四	四一一、六五二	六七一、三五三	一、〇八三、〇〇五
同四十一年	二、三三三、五二〇	一、五三三、一八六	三、八三六、六九六	六〇〇、一九七	九八〇、九二二
同四十二年	二、四〇八、四二二	一、二五八、八五四	三、六六七、二六六	三五四、〇八六	六〇〇、一九七
同四十三年	二、三五八、〇六九	一、三八一、九四七	三、七四〇、〇二六	八八一、六三二	五四〇、三三一
同四十四年	二、六〇七、一七六	一、二九六、五四五	三、九〇三、七二一	九一〇、八八五	五〇四、三〇一
同四十五年	三、一七、八〇七	一、三八一、七七六	四、四九九、五八三	九六六、〇一七	五二五、五〇六
大正元年	三、一六〇、〇三二	一、五六六、五二六	四、七二六、五四八	一、一四六、四四四	五七九、五四九
同二年	三、九四二、四六四	一、一九一、八五七	五、一三四、三二一	一、一六七、八一四	四四四、〇三四
同三年	四、五七五、九六一	八〇九、二五四	五、三八五、二五	一、一七二、五二四	二二二、一七〇
同四年	四、三八八、三三九	九三二、八八一	五、三二一、二〇	一、一〇二、三五九	三〇八、八九六

同六年	四、四七九、七五一	八二二、二五六	五、三〇二、〇〇七	一、〇九二、一七七	一七四、四七四	一、二六六、六五一
同七年	四、七七五、五七三	四九九、九二二	五、三七五、四九四	一、二九、五七一	一、二四、四五五	一、二五四、〇二六
同八年	五、一六七、五五〇	六七六、四八七	五、八四四、〇三七	一、四五八、八七六	一、四八、七六〇	一、六〇七、六三六
同九年	六、〇一五、九三五	九五五、八〇九	六、九七一、七四四	一、二六一、七二五	二八七、〇三三	一、五四八、七五八
同十年	五、四二一、〇七五	七二六、五二七	六、一四七、五九二	一、三五一、七三九	二五九、四七三	一、六一一、二二二
同十一年	震災ノ爲メ調査不能		一、二六三、七七九	一、三三三、六六一	三四六、四八五	一、六二〇、二六四
同十二年			一、三三三、六六一	二七二、一五六	一、五八五、八二七	
同十三年			一、四八三、三八三	二〇九、八一三	一、六九三、一九六	

第七章 全國石炭輸出入高

年 別	輸 出 高	輸 入 數量
明治三十九年	二、四〇二、三五四	二一、六八二
同 四十年	二、九二二、四九〇	一八、四六一
同 四十一年	二、八八六、〇二一	三〇、八八五
第七章 全國石炭輸出入高		一七九

其大室小函眞新伏七敦境宮橫清武名四

古日

他泊蘭樽館岡湯木尾賀津濱水豐屋市

第七章 全國石炭輸出入高

二一、四二九
 二七三、六八五
 二四、〇八〇
 五一、九三二
 四三三、七九七
 二、二〇〇
 一七、九九七
 八、五六〇
 三五、八四七
 三一、〇〇〇
 二七、二五五
 一二、一五〇
 一五、九五〇
 一八、三〇九
 三、三八〇
 一、三六二
 六六七

其英
 吉
 他利

三一〇九

一八三

大神今德鹿長三若門
 兒

阪戶治山島崎池松司

四四五、六八一
 一一二、二七四
 五、八〇〇
 三九、〇〇八
 三五
 二六、一七三
 六四、四九七
 二七五、九四九
 二八、七三五
 大正十三年

合露印濠海關佛關支積
 衆領領太峽峽領領東出
 國亞亞細度刺殖殖印印支那
 亞細亞度利地地度支那

五六一
 八一、五六三
 二、一〇〇
 一六〇
 三五
 一七、一〇九
 一八八、五九九
 一一二五、二八〇
 五六二、〇四六

合其室小函

計他蘭樽館

△輸

入

一、七一一、二六二
 四七、八〇五
 一〇、一一五
 五四三

合其獨白
 計他乙義

一、七一一、二六二
 七、一七六
 一

一八二

合

計

一、九七七、七五二

合

計

一八四

一、九七七、七五二

第八章 筑豊石炭鑛業組合

第一款 組合事業の成績

筑豊石炭鑛業組合は、明治十八年四月福岡縣布達第三十四號同業組合準則に據り、組織せられしものにして、其の初め筑前の遠賀、鞍手、嘉麻、糟波四郡、及び豊前田川郡にて、各別の組合を設けしもの同年十一月中、更に各郡組合聯合の必要を感じ、鞍手郡直方町に其の聯合會を閉らき、縣官及び有志者の斡旋により、互に主張を抛棄して五郡一致の團體とし、其の翌一月より遠賀郡若松港に筑豊五郡坑業組合取締所并に石炭一括販賣所を設立することとし、福岡縣屬官石野寛平氏を推して組合總長とし、稻垣徹之進、安達仁造、安川敬一郎、麻生太吉の諸氏を経て松本健次郎氏現任たり、其間幾多の年月を共に組合事務を改善し二十八年十一月中今の組合事務所を新築して益々諸般の設備を改め本邦實業團體中最も有力なるもの、一として世に知らるゝに至れり。

當初組合の常務は、唯一の運炭機關たりし遠賀川、及堀川筋の浚渫と、川船に對する取締を主とし、兼て組合員の懇親を結び、相携て斯業の發達を圖るにありしを以て、先づ鑛業振興の機運に投じ、筑豊興業鐵道の敷設を促し、若松築港會社の發企を助け、各種の困難を排して其の成立を容易ならしめ、以

て海陸運輸の大改善を遂げたるは、實に組合の公共的事業として第一に盡力したる効果なり。後明治二十三年鑛業條例の發布及び廿七年、鑛業法の公布に先ち、屢組合員の意見を徴して、之を當局者の參考に供し、法律制定上其の便宜を圖るに努めしこと又幾何なるを知らず、其他九州鐵道の開通、門司若松の特別輸出開始等に依り、斯業俄に勃興して年々著しき進歩を見るに従ひ、組合の業務亦複雑となり、他の壓迫を排除して内部の改善を圖りしもの一々屈指に暇なく、縣郡町村に對する組合一般の關係は、常に其處理の任に當り、互に彼我の利益を計りて其の行政上の便宜に努め、公共事業に對しては遠賀川改修工事費として金貳拾八萬圓を寄附せしを始め、東筑嘉穂兩中學校の建築費として各參萬圓宛、福岡縣立工業學校採礦科設置費として金參萬壹千圓、福岡工業博覽會に金壹萬圓、警察電話架設費に壹萬貳千圓、直方高等女學校建築費、及福岡縣協賛會費として各金六千圓宛、其他教育、衛生、土木等の費用として、各方面に寄附せし金額は、尙幾十筆の多きに及ぶも今一々列記せず、尙明治三十七年七月以後「筑豊石炭鑛業組合月報」と題する石炭専門の雜誌を發刊して廣く斯業上の研究に資し、四十五年七月よりは毎月數回救助器使用の練習を行ひて不時の變災に備へ、大正四年には農商務省と共同して石炭坑爆發豫防調査所を設置して鋭意鑛山保安に關する研究に従事し大正六年には地を鞍手郡頓野村西尾の高台に卜し三十二萬圓の巨資を投じて筑豊鑛山學校を設立して斯界有用の人材養成に努むる等直接に間接に本邦文物の進歩を補翼しつゝあり。

斯くの如くにして組合設立後三十餘年間、一意石炭鑛業の發達に努め、其の面目を一新して、地方の文物を改善し、成立の當時孤穴程巢の觀ありし筑豊二州の煤田をして、本邦有數の大富源ならしめ、門

司、若松の兩港をして、東洋屈指の大市場たらしむるに至りしは、我組合の經營措置其の宜しきを得たるもの、實に多きに居るべきを信する也、今左に重なる事業の二三につき摘記すべし。若し夫れ此の間に於ける斯業發達の度合に至りては、明治十九年の送炭僅に三十餘萬噸に過ぎざりしもの、現今に至りては一千餘萬噸内外となりしに徴しても明か也。其の内容に至りては、本書第二章以下第五章に涉り、一々統計表を掲げれば、今亦茲に贅せざるべし。

一、筑豊鑛山學校

(イ) 沿革 略叙

一、大正六年六月筑豊石炭鑛業組合常議員會に於て、各鑛山、坑内作業及労働者を監督する坑内係員の缺乏せる爲め、其の養成の必要を認め之に適應する特殊教育を授く可き簡易なる鑛業學校を設立せんとするの議起り、之に關する調査を経たるに、時勢の進運に伴ふには少くも中學校卒業以上の基礎學科の學力を有する者を必要とするを認め、再び其の調査を進行せり。○十二月十一日組合臨時總會に於て中學校卒業程度以上の學力を有するものを集め、之に鑛業に關する學理を教授し、坑内諸作業を充分に實習せしめ、卒業後直に坑内事業を擔任し得る優良なる技術者を養成するの目的を以て私立筑豊鑛山學校設立を決議す。○大正七年三月本校敷地として縣下鞍手郡頓野村字西尾に壹萬參千四百五拾坪を買収す。○五月七日本校創立の件認可せらる。○六月運動場敷地として同村字十堂に參千六百拾六坪を買収す。○七月工學博士山田邦彦本校校長に就任。○八月校舍建築に着手。○大正八年四月建築竣工。○同月一日二日第一回本科入學試験施行。○六月文部省令第二四號により

私立を削除し筑豊鑛山學校と改稱。○十二月十一日開校式舉行

- 一、大正九年四月一日二日第二回本科入學試験施行。○九月二十九日第一回本科卒業證書授與式舉行
- 一、大正十年二月一日第一回別科開講。○四月一日二日第三回本科入學試験施行。○七月九日第一回別科修業證書授與。○九月二日第二回別科開講。○九月三十日第二回本科卒業證書授與式舉行
- 一、大正十一年二月一日第二回別科修業證書授與。○二月十三日第三回別科開講。○四月一日二日第四回本科入學試験施行。○七月十日第三回別科修業證書授與。○九月二日第四回別科開講。○九月三十日第三回卒業證書授與式舉行

- 一、大正十二年二月一日第四回別科修業證書授與。○二月二日第五回別科開講。○四月一日二日第五回本科入學試験施行。○七月十日別科修業證書授與。○九月三日第六回別科開講。○九月三十日第四回本科卒業證書授與式舉行
- 一、大正十三年二月七日第七回別科開講。○二月九日第六回別科修業證書授與。○四月六七兩日日本科入學試験施行。○七月十日別科修業證書授與。○九月二日第八回別科開講。○九月三十日第五回本科卒業證書授與式舉行

- 一、大正十四年二月十日別科修業證書授與。○二月十六日第九回別科開講。○四月六七兩日第七回本科入學試験施行

學生中學力優良心身健全にして學資の貸附を受けんと欲する者には組合より一ヶ月一人に付金拾五圓以内の補助をなすことあるべし而て卒業後三ヶ年以内に其全額を返納せしむ

第八章 筑豊石炭鑛業組合 第一款 組合事業の成績

(ロ) 位置、規模及設備大要

位置 直方町を東方に距ること約半里南面の丘陵に據り東に福智山の秀峰を望み環境閑靜、眺望雄勝頗る勉學に適する地にあり、中央に講堂あり、本館と寄宿舎とは其左右に兩翼を張り、規模 校地總面積壹萬七千六百六拾六坪にして、北方背後に松林を控へ、地均をなしたる敷地約六千坪あり、建物本館階下貳百八拾坪、階上貳百五拾坪講堂六拾四坪五合、寄宿舎階下壹百參拾四坪、階上同坪、食堂及浴室洗面場等壹百拾參坪、其他附屬建物約七拾坪餘、合計坪壹千餘坪を有し、廊下七拾餘間を以て之を連絡す、因みに職員住宅は校地の東方約三町の高臺景勝の地に在り、本校と距離近く各種の便宜多し

設備大要 探礦學、機械學、電氣學に關する機械器具裝置の實物及模型各種を備へ又實驗用實習用の機械數臺あり化學分析は目下石炭及瓦斯の分析を主とし、學生各自に其術を習得するの設備をなせり、測量に於ては地上坑内の實測に必要な數多の機械器具を備ふ、礦物學、地質學用としては礦物岩石化石の標本は勿論礦物學、地質學、古生物學に關する模型數種あり、又學生練習用の吹管、分析器具、礦物岩石の標本あり

圖書は和洋共に備付け文學、理科、礦業、探礦、測量、分析、機械、電氣、地質、礦物等の各部門に分ち、雜誌は邦文約二十種、外國雜誌約十種を備ふ圖書、雜誌共に圖書室に於て常に閱覽するを得

(ハ) 創立費及經常費

本校 創立費 金參拾貳萬〇五百四拾六圓
大正十四年度本校經常費 金四萬七百八拾參圓

(ニ) 學 則 大 要

○ 本 科

一、修業年限 一年六ヶ月にして毎年四月入學翌年九月卒業せしむ

二、科 目 第一學年に在りては修身、英語、作文、地質學及礦物學、探礦學、測量學、機械學、製圖及設計、電氣學、土木學、分析、鑛山法律、實習實驗及校外見學を課し第二學年に在りては組合所屬炭坑に委託して採炭作業を實習せしめ且つ特別講義を課す

一、定 員 各學年五拾名宛とす

一、入學資格 滿十七歳以上の男子にして品行方正、中學校工業學校の卒業者又は之に准する者を採用す。

一、入學試験 中學校卒業の程度により國語、漢文、英語、英文和譯、數學(代數、平面幾何、三角)物理及化學に就き試験し體質薄弱、近視強度、其他卒業後勤務に故障となるべき疾病、耻疾を有する者は採らす

一、在 學 (イ)凡て寄宿寮に入らしむ (ロ)第一學年に於て學術優等、品行方正他等生の模範となるべき者は特待生として第二學年の授業料を免除す (ハ)二ヶ月以上事故の爲め出校する能はざる者

第八章 筑豊石炭鑛業組合 第一款 組合事業の成績

は休學することを得 (ニ)第一學年中は學科講義を確實に知悉せしむる爲め屢々附近の炭坑に就き校外見學をなさしむ (ホ)第二學年は大體炭坑に在りて實習し學校に出席して特別講義を聽講するは凡そ一週一回とす

○別科

- 一、修業年限 毎年二月及九月の始めに入學せしむ
- 一、科目 採礦に關する諸學科の大意を教授す
- 一、定員 五十名とす
- 一、入學資格 尋常小學校卒業以上の學力を有し満十七歳以上の男子にして筑豊石炭鑛業組合所屬炭坑に從業し當該炭坑の推薦に係る者を採用す
- 一、入學試験 尋常小學校卒業の程度とす
- 一、在學全部通學とし授業料を徴收せず

(ホ) 宿舍及學費

本科生の宿舍として寄宿寮を設け生徒監は寮務主任として學生の訓育、監督、指導の任に當る、自習室は寢室兼用にして一室の定員を六名とす自習室の外に圖書閱覽室、休養室、面會室等あり又劍道、柔道の爲に道場を設け兼ねて集會所とす 寄宿寮所要の机、蚊帳、食器、閱覽室の圖書等は總て學校に於て之を備へ付け電燈、薪炭、炊夫、諸雇人に要する經費は悉く學校の支辨する所にして學生は寮費として第一學年に僅に金拾圓を徴收する

のみなり従つて學資低廉にして被服、書籍及學用品、授業料、寮費を除けば食費及雜費合計一ヶ月貳拾圓の學費にて足る

(ハ) 職員及卒業生

- 一、職員 學校長一名幹事兼教授一名書記三名生徒監一名專任教授工學士二名助教一名助手二名講師工學士四名法學士一名其他二名を以て事務訓育及授業に當たり
- 一、本科卒業生 大正九年九月第一回卒業四拾貳名大正十年九月第二回卒業四拾名大正十一年九月第三回卒業拾九名大正十二年九月第四回卒業拾九名大正十三年九月第五回卒業五名合計百貳拾五名にして大部分は本組合所屬炭坑に就職せるも福岡佐賀長崎北海道朝鮮の諸炭坑及鑛山以外に就職せるものあり
- 一、別科修了生 大正十年七月第一回修了五十六名第二回參拾八名第三回參拾六名第四回貳拾壹名第五回貳拾五名第六回貳拾四名第七回拾七名第八回拾七名計貳百參拾四名にしていづれも在職炭坑にて地位の向上を得居れり

二、變災豫防に關する施設

(イ) 安全燈試験

炭坑瓦斯爆發の一因が不完全なる安全燈にあるは、明かなるを以て、組合炭山に於ては、銳意之れが改良を計りつゝあり。當組合亦福岡鑛務署と協同して、直方町御館山に安全燈試験場新設の計畫をなし

第八章 筑豊石炭鑛業組合 第一款 組合事業の成績